



講義内容  
2012

仏教学部

文学部

# 講 義 内 容

## 目次案内

### 専門教育科目

1. 仏教学部 … (2)  
    禅学科・仏教学科
  2. 文学部
- (1) 国文学科 … (5)
  - (2) 英米文学科 … (8)
  - (3) 地理学科 … (10)
  - (4) 歴史学科 … (13)
  - (5) 社会学科 社会学専攻 … (17)
  - (6) 社会学科 社会福祉学専攻 … (19)
  - (7) 心理学科 … (22)

※科目の並び順は、科目名の 50 音順、担当教員氏名の 50 音順でソートされています。

※全学共通科目、「日本語」・「日本事情」科目、随意科目、教職課程・資格講座科目は、別冊になっています。

(この冊子は平成 24 年 3 月 1 日現在の情報を元に作成しています。)

# 1. 仏 教 学 部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
イスラム教概論	山崎 和美	008801	3
インド哲学史	金沢 篤	004401	4
インド仏教史	池田 練太郎	001701	4
インド仏教思想史	松本 史朗	004201	5
インド仏教文化史	金沢 篤	003801・003802	5
演習Ⅰ 演習Ⅱ	飯塚 大展	010501・010502	6
演習Ⅰ 演習Ⅱ	池上 光洋	011841・011842	6
演習Ⅰ 演習Ⅱ	池田 練太郎	009101・009102	7
演習Ⅰ 演習Ⅱ	石井 清純	011501・011502	7
演習Ⅰ 演習Ⅱ	石井 公成	009801・009802	8
演習Ⅰ 演習Ⅱ	石井 修道	009701・009702	8
演習Ⅰ 演習Ⅱ	岩永 正晴	009201・009202	9
演習Ⅰ 演習Ⅱ	奥野 光賢	010201・010202	9
演習Ⅰ 演習Ⅱ	片山 一良	010401・010402	9
演習Ⅰ 演習Ⅱ	金沢 篤	011201・011202	10
演習Ⅰ 演習Ⅱ	木村 誠司	011871・011872	10
演習Ⅰ 演習Ⅱ	熊本 英人	010301・010302	11
演習Ⅰ 演習Ⅱ	佐藤 秀孝	011401・011402	11
演習Ⅰ 演習Ⅱ	角田 泰隆	011851・011852	12
演習Ⅰ 演習Ⅱ	程 正	011831・011832	12
演習Ⅰ 演習Ⅱ	永井 政之	010601・010602	13
演習Ⅰ 演習Ⅱ	長谷部 八朗	010101・010102	13
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤井 淳	011861・011862	14
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松田 陽志	011821・011822	14
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松本 史朗	010701・010702	15
演習Ⅰ 演習Ⅱ	村松 哲文	011811・011812	15
演習Ⅰ 演習Ⅱ	吉津 宜英	010901・010902	16
演習Ⅰ 演習Ⅱ	吉村 誠	011601・011602	16
演習Ⅰ 演習Ⅱ	四津谷 孝道	011701・011702	17
外国語禪書講読	古山 健一	004101	17
外国語仏書講読	木村 誠司	007001	18
漢詩作法	須山 長治	007511	18
教化法	永井 政之	006451	19
キリスト教概論	土居 由美	007301	19
原始仏教	片山 一良	005301	20
現代哲学概説	久保 陽一	006901	20
坐禅Ⅰ	角田 泰隆 岩永 正晴	000401	21
坐禅Ⅰ	永井 政之 松田 陽志	000501	21
坐禅Ⅱ 坐禅Ⅰ	佐藤 秀孝 松田 陽志	009001・009002	22
サンスクリット語上級	金沢 篤	008001	22
サンスクリット語初級	金沢 篤	007901	23
宗教学概論	長谷部 八朗	006811	24
宗教学概論	矢野 秀武	006801	25
宗教教育	小山 一乗	007101・007102	26
宗教史	長谷部 八朗	003301	27

科目名	担当者名	履修コード	ページ
宗教哲学	河谷 淳	006001	28
宗教法概説	村上 興匡	007201	29
宗典	角田 泰隆	000701	29
宗典	松田 陽志	000601	30
浄土学概論	曾根 宣雄	005601	31
書道	綾部 宏行	007801	32
真言学概論	藤井 淳	005401	32
神道概説	嵐 義人	005801	33
心理学概論	間島 英俊	070901	34
青少年指導演習	渡邊 浩司	006701・006702	35
青少年問題研究	讃岐 真佐子	006601・006602	36
禅学特講Ⅲ	清野 宏道	004701	37
禅学特講Ⅳ	伊藤 良久	004801	38
禅思想概説 禅学研究Ⅰ	石井 修道	000901・000902	38
禅心理学	池上 光洋	008911	39
禅籍講読Ⅰ	程 正	002501	39
禅籍講読Ⅱ	佐藤 秀孝	002601	40
禅籍講読Ⅲ	岩永 正晴	002701	40
禅美術	村松 哲文	006101・006102	41
チベット語上級	木村 誠司	008401	41
チベット語初級	松本 史朗	008301	42
チベット仏教史	四津谷 孝道	001901	43
中国古典語Ⅰ	吉村 誠	003511	44
中国古典語Ⅱ	小川 隆	008511	44
中国禅宗史	石井 修道	002301	45
中国哲学史	前川 亨	007401	46
中国仏教史	吉村 誠	002001	47
中国仏教思想史	吉津 宜英	004301	47
中国仏教文化史	程 正	003901・003902	48
朝鮮仏教史	石井 公成	002101	48
哲学概説	杉田 正樹	007601	49
日用経典	飯塚 大展	003401	49
日本禅宗史	佐藤 秀孝	002401	49
日本哲学史	久保 陽一	007411	50
日本仏教史	飯塚 大展	002201	51
日本仏教文化史	藤井 淳	004001・004002	51
パリー語上級	古山 健一	008201	52
パリー語初級	片山 一良	008101	52
パリー仏教史	矢島 道彦	001801	53
仏教・禅教団論 禅学研究Ⅲ	熊本 英人 吉津 宜英	001101・001102	54
仏教・禅教団論 仏教研究Ⅲ	熊本 英人 吉津 宜英	001501・001502	55
仏教学入門 禅学序説 仏教学序説	岩永 正晴	000101・000102・ 000103	56
仏教学入門 禅学序説 仏教学序説	片山 一良	000201・000202・ 000203	56
仏教漢文入門	石井 公成	000331	57
仏教漢文入門	須山 長治	000311	57
仏教漢文入門	須山 長治	000321	58

仏教学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
仏教漢文入門	吉村 誠	000341	58
仏教漢文入門	吉村 誠	000351	59
仏教語・禅語解説 仏教研究Ⅱ	奥野 光賢 程 正	001401・001402	59
仏教語・禅語解説 禅学研究Ⅱ	程 正 奥野 光賢	001001・001002	60
仏教思想概説 仏教研究Ⅰ	池田 練太郎	001301・001302	60
仏教特講Ⅰ	新井 一光	004901	61
仏教特講Ⅱ	山本 元隆	005001	61
仏教特講Ⅲ	徳野 崇行	005101	62
仏教特講Ⅳ	渡邊 幸江	005201	63
仏教美術	村松 哲文	006201・006202	63
仏教文献学	堀川 貴司	008901	64
仏教民俗学	佐藤 憲昭	006301・006302	65
仏典・禅籍解説 禅籍講読Ⅳ	松田 陽志 四津谷 孝道	002801・002802	66
仏典・禅籍解説 仏典講読Ⅳ	四津谷 孝道 松田 陽志	003201・003202	67
仏典講読Ⅰ	藤井 淳	002901	68
仏典講読Ⅱ	奥野 光賢	003001	68
仏典講読Ⅲ	飯塚 大展	003101	69
ラテン語	上野 勝広	028101	70
真宗学概論	休講		
新宗教概説	休講		
禅学研究Ⅳ	休講		
禅学特講Ⅰ	休講		
禅学特講Ⅱ	休講		
中国文学	休講		
日蓮教学概論	休講		
仏教研究Ⅳ	休講		

## 2. 文学部

## (1) 国文学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演劇概論	阿部 由香子	016601	73
漢文学	和田 和子	012901	74
漢文学	和田 和子	013001	74
基礎国語学	高田 智和	012101	75
基礎国語学	原 裕	012201	75
基礎国文学 I	近衛 典子	012501	75
基礎国文学 I	櫻井 陽子	012301	76
基礎国文学 I	湯浅 幸代	012401	76
基礎国文学 II	岡田 豊	012601	77
基礎国文学 II	勝原 晴希	012801	77
基礎国文学 II	高田 知波	012701	78
近世文学研究 II	川元 ひとみ	014801	78
近代文学研究 I	榎本 正樹	014901	79
近代文学研究 II	高田 知波	015001	79
国語学研究 II	木村 一	014001	80
国語学史	木村 一	013801	80
国語学特講 I	山本 真吾	015101	81
国語学特講 II	高田 智和	015201	81
国語国文学演習 I	岡田 豊	018901	82
国語国文学演習 I	勝原 晴希	019101	82
国語国文学演習 I	近衛 典子	018701	83
国語国文学演習 I	櫻井 陽子	018501	83
国語国文学演習 I	高田 知波	019001	84
国語国文学演習 I	田中 徳定	018601	84
国語国文学演習 I	土井 光祐	018001	85
国語国文学演習 I	中嶋 真也	018101	85
国語国文学演習 I	松井 健児	018301	86
国語国文学演習 I	湯浅 幸代	018401	86
国語国文学演習 II	岡田 豊	020201	87
国語国文学演習 II	勝原 晴希	020401	88
国語国文学演習 II	川島 淳史	020551	88
国語国文学演習 II	近衛 典子	020001	89
国語国文学演習 II	櫻井 陽子	019801	89
国語国文学演習 II	高田 知波	020301	90
国語国文学演習 II	田中 徳定	019901	90
国語国文学演習 II	土井 光祐	019301	91
国語国文学演習 II	中嶋 真也	019401	91
国語国文学演習 II	松井 健児	019501	92
国語国文学演習 II	湯浅 幸代	019601	92
国語国文学演習 III	岡田 豊	021401	93
国語国文学演習 III	勝原 晴希	021601	93
国語国文学演習 III	近衛 典子	021201	94
国語国文学演習 III	櫻井 陽子	021001	94
国語国文学演習 III	高田 知波	021501	94
国語国文学演習 III	田中 徳定	021101	95

国文学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国語国文学演習Ⅲ	土井 光祐	020601	95
国語国文学演習Ⅲ	中嶋 真也	020701	95
国語国文学演習Ⅲ	松井 健児	020801	96
国語国文学演習Ⅲ	湯淺 幸代	020901	96
国語史	山本 真吾	013701	97
国文学史ⅠA (古典) 国文学史Ⅰ (古典)	鈴木 裕子	013301・013302	98
国文学史ⅠB (古典) 国文学史Ⅰ (古典)	蘭部 幹生	013401・013402	99
国文学史ⅡA (近現代) 国文学史Ⅱ (近現代)	小林 治	013501・013502	100
国文学史ⅡB (近現代) 国文学史Ⅱ (近現代)	松田 直行	013601・013602	101
国文学特講Ⅰ	兼岡 理恵	015301	102
国文学特講Ⅹ	牧野 節子	016201	102
国文学特講Ⅺ	榎本 正樹	016301	103
国文学特講Ⅱ	渡部 泰明	015401	103
国文学特講Ⅲ	渡部 泰明	015501	104
国文学特講Ⅳ	三澤 裕子	015601	105
国文学特講Ⅴ	佐藤 武光	015701	106
国文学特講Ⅵ	津島 知明	015801	107
国文学特講Ⅶ	竹内 正彦	015901	107
国文学特講Ⅷ	閻 小妹	016001	108
国文学特講Ⅸ	倉田 容子	016101	109
児童文学	牧野 節子	016901	110
上代文学研究Ⅱ	中嶋 真也	014201	110
書道概論	金子 大蔵	017401	111
書道史	那須 隆吉	017301・017302	111
書道実習Ⅰ	金子 大蔵	017501	112
書道実習Ⅱ	那須 隆吉	017601	112
書道実習Ⅲ	那須 隆吉	017701	113
西洋思想史	河谷 淳	016701	113
中国文学 中国歴史文学	田熊 信之	016401・016402	114
中古文学研究Ⅱ	松井 健児	014401	115
中世文学研究Ⅱ	田中 徳定	014601	115
東洋思想史	末木 恭彦	016801・016802・ 016803	116
日本語文法入門	土井 光祐	021051	117
日本語文法入門	原 裕	021061	117
日本史概説	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美	043711	118
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	118
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	119
比較文学	畑中 千晶	017001	119
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	120
編集実務	小檜山 範男	017201・017202	121
民間信仰論	谷口 貢	017901・017902・ 017903	122
有職故実	近藤 好和	016501	122
近世文学研究Ⅰ	休講		

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国語学研究 I	休講		
上代文学研究 I	休講		
中古文学研究 I	休講		
中世文学研究 I	休講		

## (2) 英米文学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
アメリカ文学演習Ⅰ	佐藤 江里子	027401	125
アメリカ文学演習Ⅱ	梶台 七重	027501	126
アメリカ文学演習Ⅲ	松本 昇	027601	126
アメリカ文学演習Ⅳ	古富 猛	027701	126
アメリカ文学演習Ⅴ	佐藤 千春	027801	127
アメリカ文学史	佐藤 千春	025201	127
アメリカ文学特講Ⅰ	東 雄一郎	026401	128
アメリカ文学特講Ⅱ	馬場 聡	026501	129
アメリカ文学特講Ⅳ	梶台 七重	026701	130
アメリカ文学特講Ⅴ	林 明人	026801	131
イギリス文学演習Ⅰ	河崎 征俊	026901	131
イギリス文学演習Ⅱ	川崎 明子	027001	132
イギリス文学演習Ⅲ	高野 正夫	027101	132
イギリス文学演習Ⅴ	大淵 利春	027301	133
イギリス文学史Ⅰ	河崎 征俊	025301	133
イギリス文学史Ⅱ	加藤 光也	025401	134
イギリス文学特講Ⅰ	石原 孝哉	025601	134
イギリス文学特講Ⅱ	高野 正夫	025701	135
イギリス文学特講Ⅲ	濱口 真木	025801	135
イギリス文学特講Ⅳ	落合 真裕	025901	136
イギリス文学特講Ⅴ	モート、セーラ	026001	136
イギリス文学特講Ⅵ	西原 克政	026101	137
英語演習 作品講読Ⅰ	加藤 光也	023201・023202	137
英語演習 作品講読Ⅰ	唐澤 一友	023101・023102	138
英語演習 作品講読Ⅰ	川崎 明子	023401・023402	138
英語演習 作品講読Ⅰ	佐藤 真二	023301・023302	138
英語学演習Ⅰ	ピアス、D. M.	029101	139
英語学演習Ⅰ	三浦 弘	029001	140
英語学演習Ⅱ	唐澤 一友	029201	141
英語学演習Ⅲ	町田 尚子	029301	142
英語学演習Ⅳ	狩野 晃一	029401	143
英語学概論	佐藤 真二	024701	144
英語史	唐澤 一友	025501	145
英語表現法	川崎 明子	025101	146
英語表現法	河崎 征俊	024901	146
英語表現法	佐藤 千春	025001	147
英語表現法	モート、セーラ	024801	147
英作文演習	東 雄一郎	028801	148
英作文演習	馬場 聡	028901	149
英米思想史	麻生 享志	028501	150
英米文化	広川 治	028301	150
演劇演習 (イギリス・アメリカ)	広川 治	026301	151
演劇特講 (イギリス・アメリカ)	落合 和昭	026201	152
オーラル・イングリッシュ	シャープ、J.	029901	153
オーラル・イングリッシュ	シャープ、J.	030001	154
オーラル・イングリッシュ	ダーリン、M.	029701	155
オーラル・イングリッシュ	マーティン、S. F.	029601	156
オーラル・イングリッシュ	レイン、R. V.	029801	157

科目名	担当者名	履修コード	ページ
外国文学	武田 利勝	028401	157
ギリシャ語	長谷川 岳男	028201	158
現代美術	矢野 陽子	028601・028602	159
作品講読 作品講読Ⅱ	東 雄一郎	024201・024202	160
作品講読 作品講読Ⅱ	加藤 光也	023901・023902	160
作品講読 作品講読Ⅱ	川崎 明子	024001・024002	161
作品講読 作品講読Ⅱ	佐藤 千春	024101・024102	161
3年次ゼミ	東 雄一郎	030801	162
3年次ゼミ	加藤 光也	031201	162
3年次ゼミ	唐澤 一友	030181	163
3年次ゼミ	川崎 明子	031191	163
3年次ゼミ	河崎 征俊	030201	164
3年次ゼミ	佐藤 真二	031101	164
3年次ゼミ	佐藤 千春	030901	165
3年次ゼミ	高野 正夫	030401	165
3年次ゼミ	モート. セーラ	030601	166
時事英語	唐澤 一友	027901	166
商業英語	秋葉 滋	028001	167
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	マーティン. S. F.	023701	168
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	マーティン. S. F.	023801	169
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	モート. セーラ	023501	170
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅠ	レイン. R. V.	023601	171
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	シャープ. J.	024301	172
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	シャープ. J.	024401	173
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	ダーリン. M.	024601	174
スピーチ・アンド・コミュニケーションⅡ	モート. セーラ	024501	175
TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座	富士川 美紀	029511	176
TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座	富士川 美紀	029531	177
TOEIC (R)・TOEFL (R) 講座	レイン. R. V.	029521	178
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	178
翻訳演習	高野 正夫	026611	179
4年次ゼミ	東 雄一郎	031251	179
4年次ゼミ	加藤 光也	031281	180
4年次ゼミ	唐澤 一友	031291	180
4年次ゼミ	川崎 明子	031331	180
4年次ゼミ	河崎 征俊	031211	181
4年次ゼミ	佐藤 真二	031271	181
4年次ゼミ	佐藤 千春	031261	181
4年次ゼミ	高野 正夫	031231	182
4年次ゼミ	モート. セーラ	031241	182
ラテン語	上野 勝広	028101	183

## (3) 地理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
G I S実習	田中 靖	039551	187
アジア地誌	江口 卓 高橋 健太郎	034401	188
アメリカ地誌	石井 久生	034501	189
応用地理学	高木 正博	038501	190
外国地誌特講	湯田 ミノリ	034301	190
外書講読	佐藤 哲夫	035001	191
環境地理学	鈴木 重雄	038301	192
気候学	江口 卓	040101	193
気候学実習	江口 卓	040201	194
景観地理学	須山 聡	041311	195
経済地理学	矢延 洋泰	034701	196
計量地理学	土'谷 敏治	038601	197
計量地理学実習	土'谷 敏治	040801	198
交通地理学	土'谷 敏治	032901	199
産業地域論	須山 聡	034801	200
自然地理学実習 (地図学実習含む)	江口 卓	031801	201
自然地理学実習 (地図学実習含む)	江口 卓	037801	202
自然地理学実習 (地図学実習含む)	鈴木 秀和	031901	202
自然地理学実習 (地図学実習含む)	鈴木 秀和	037601	203
自然地理学実習 (地図学実習含む)	高木 正博	031701	203
自然地理学実習 (地図学実習含む)	田中 靖	037701	204
自然地理学入門 地域環境研究概説	田中 靖 鈴木 秀和 高木 正博 江口 卓	038201・038202	205
社会地理学	伊藤 修一	034901	206
人口地理学	鄭 美愛	035101	207
人文地理学実習 (地図学実習含む)	小田 匡保	032301	208
人文地理学実習 (地図学実習含む)	小田 匡保	038001	208
人文地理学実習 (地図学実習含む)	須山 聡	032201	209
人文地理学実習 (地図学実習含む)	高橋 健太郎	037901	210
人文地理学実習 (地図学実習含む)	土'谷 敏治	038101	211
人文地理学実習 (地図学実習含む)	橋詰 直道	032101	211
人文地理学入門 地域文化研究概説	櫻井 明久 土'谷 敏治 小田 匡保 佐藤 哲夫 橋詰 直道 須山 聡 高橋 健太郎	032501・032502	212
水文学	鈴木 秀和	040301	213
水文学実習	高木 正博	040401	213
図学実習	吉田 健洋	039801	214
生物地理学	渋谷 園実	040701	214
測量学	田中 靖	040901	215
村落地理学	高橋 健太郎	032701	216
第四紀学	鈴木 毅彦	041101・041102	217

科目名	担当者名	履修コード	ページ
地域概論	櫻井 明久	033301	217
地域環境演習 E	田中 靖	041801	218
地域環境調査法 (現地調査含む) B	江口 卓	039101	219
地域環境調査法 (現地調査含む) D	高木 正博	039301	220
地域環境調査法 (現地調査含む) F	鈴木 秀和	039501	220
地域計画論	佐藤 哲夫	038701	221
地域研究論	佐藤 哲夫	033351	222
地域調査入門 A	小田 匡保	034011	223
地域調査入門 B	高橋 健太郎	034021	223
地域調査入門 D	須山 聡	039611	224
地域文化演習 E	佐藤 哲夫	036001	225
地域文化演習 F	高橋 健太郎	036101	226
地域文化調査法 (現地調査含む) A	櫻井 明久	033401	227
地域文化調査法 (現地調査含む) B	須山 聡	033501	228
地域文化調査法 (現地調査含む) C	土谷 敏治	033601	229
地域文化調査法 (現地調査含む) D	橋詰 直道	033701	230
地球物理学	柳田 誠	040501	230
地形学	大上 隆史	039901・039902	231
地形学実習	清水 長正	040001	231
地図学	野々村 邦夫	038901	232
地理学演習	江口 卓	042301	233
地理学演習	小田 匡保	036401	234
地理学演習	櫻井 明久	036701	234
地理学演習	佐藤 哲夫	036201	235
地理学演習	鈴木 秀和	042001	236
地理学演習	須山 聡	036301	236
地理学演習	高木 正博	042201	237
地理学演習	高橋 健太郎	036501	238
地理学演習	田中 靖	042501	238
地理学演習	土谷 敏治	036801	239
地理学演習	橋詰 直道	036601	240
地理学特講 I	橋詰 直道	041201	240
地理学特講 II	須山 聡	035301	241
地理学特講 III	澤渡 貞男	035401	242
地理学特講 IV	山縣 毅	035501	243
地理学特講 V	平井 史生	041301	244
地理情報論	王尾 和寿	038401	245
都市地理学	橋詰 直道	032801	246
土壌地理学	漆原 和子	040601	246
日本地誌	橋詰 直道	034201	247
文化生態学	中俣 均	032601	248
文化地理学	小田 匡保	033101	249
ヨーロッパ地誌	岩間 信之	034601	250
リモートセンシング	田中 靖	038801	251
歴史地理学	小田 匡保	033001	252
歴史地理学実習	小田 匡保	035201	252
現代地理学特論	休講		
地域環境演習 A	休講		
地域環境演習 B	休講		
地域環境演習 C	休講		

地理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
地域環境演習D	休講		/
地域環境演習F	休講		/
地域環境調査法（現地調査含む）A	休講		/
地域環境調査法（現地調査含む）C	休講		/
地域環境調査法（現地調査含む）E	休講		/
地域調査入門C	休講		/
地域調査入門E	休講		/
地域調査入門F	休講		/
地域文化演習A	休講		/
地域文化演習B	休講		/
地域文化演習C	休講		/
地域文化演習D	休講		/
地域文化調査法（現地調査含む）E	休講		/
地域文化調査法（現地調査含む）F	休講		/

## (4) 歴史学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
外国考古学概説	飯島 武次	044401・044402	255
外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習	大城 道則	043521・043522・ 043523	255
外国史学基礎演習 西洋史学基礎演習 東洋史学基礎演習	佐々木 真	055631・055632・ 055633	256
外国史学基礎演習 西洋史学基礎演習 東洋史学基礎演習	高田 良太	055621・055622・ 055623	257
外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習	中村 淳	043511・043512・ 043513	258
ギリシャ語	長谷川 岳男	028201	258
記録史科学Ⅰ	松本 信道 久保田 昌希 鈴木 雅晴	046301	259
記録史科学Ⅱ	熊本 史雄 小泉 雅弘	044811	260
考古学演習Ⅰ	飯島 武次	054601	261
考古学演習Ⅰ	酒井 清治	054501	261
考古学演習Ⅰ	寺前 直人	054611	262
考古学演習Ⅱ	飯島 武次	056001	262
考古学演習Ⅱ	酒井 清治	055901	263
考古学演習Ⅱ	寺前 直人	056101	263
考古学各説Ⅰ	近藤 英夫	052311	264
考古学各説Ⅲ	三宅 俊彦	052511	265
考古学基礎演習	寺前 直人	043531	266
考古学史	小柳 美樹	045601	266
考古学実習(実測)	杉山 浩平	045911	267
考古学実習(写真)	塚原 明生	045701	267
考古学実習(情報)	小柳 美樹	046101	268
考古学実習(測量)	古庄 浩明	045801	268
考古学特講Ⅰ	酒井 清治	052711・052712	269
考古学特講Ⅲ	小林 謙一	052911・052912	270
考古学特講Ⅴ	寺前 直人	053011・053012	271
考古学特講Ⅶ	矢野 和之	053031・053032	271
考古発掘実習	酒井 清治 飯島 武次 寺前 直人	046201	272
古文書研究Ⅰ	廣瀬 良弘	046401	272
古文書研究Ⅱ	湯淺 隆	046501	273
西域美術史	松平 美和子	053101・053102	273
史学概論	佐々木 真	043601	274
西洋史概説	大城 道則	044111	275
西洋史学演習Ⅰ	大城 道則	054711	275
西洋史学演習Ⅰ	佐々木 真	054301	276
西洋史学演習Ⅰ	高田 良太	054721	276
西洋史学演習Ⅰ	伏島 正義	054401	277
西洋史学演習Ⅱ	大城 道則	056211	277
西洋史学演習Ⅱ	佐々木 真	055701	278
西洋史学演習Ⅱ	高田 良太	056221	278

歴史学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
西洋史学演習Ⅱ	伏島 正義	055801	278
西洋史各説Ⅱ	庄司 啓一	051101	279
西洋史各説Ⅳ	白川 耕一	051301	280
西洋史特講Ⅰ	伏島 正義	051401	281
西洋史特講Ⅲ	佐々木 真	051601	281
西洋史特講Ⅴ	大城 道則	051801	282
西洋史特講Ⅶ	高田 良太	051821	283
西洋史文献史料講読Ⅱ	伏島 正義	045201	283
西洋史文献史料講読Ⅳ	佐々木 真	045221	284
西洋史文献史料講読Ⅵ	大城 道則	045241	284
西洋史文献史料講読Ⅶ	井上 文則	045261	284
西洋史文献史料講読Ⅹ	菊池 紘一	045281	285
西洋史文献史料講読Ⅺ	高田 良太	045291	285
西洋史文献史料講読Ⅻ	土方 史織	045311	286
西洋文化史	田中 佳	046911・046912	286
世界史概説	井村 行子	044201・044202	287
世界史概説	小林 惣八	056501・056502	287
中国文学 中国歴史文学	田熊 信之	016401・016402	288
哲学史	山口 祐弘	053201	288
東洋史概説	杉山 清彦	043911	289
東洋史学演習Ⅰ	中村 淳	054101	289
東洋史学演習Ⅱ	杉山 清彦	055611	290
東洋史学演習Ⅲ	中村 淳	055501	290
東洋史各説Ⅰ〔古代史〕	山口 洋	048511	291
東洋史各説Ⅲ〔中世史〕	石田 肇	048711	292
東洋史各説Ⅳ〔近世史〕	宮壽 洋一	048811	292
東洋史各説Ⅴ〔近・現代史〕	長谷部 圭彦	048911	293
東洋史特講Ⅱ〔中世史〕	中村 淳	049611	294
東洋史特講Ⅲ〔近世史〕	上田 裕之	049711	295
東洋史特講Ⅳ〔近・現代史〕	藤谷 浩悦	049811	295
東洋史特講Ⅴ〔アジア諸民族史〕	野田 仁	049911	296
東洋史特講Ⅵ〔アジア諸民族史〕	四日市 康博	050011	297
東洋史文献史料講読Ⅳ	中村 淳	045021	298
東洋史文献史料講読Ⅵ	豊岡 康史	045041	298
東洋史文献史料講読Ⅶ	田中 靖彦	045061	299
東洋史文献史料講読Ⅹ	石川 重雄	045081	299
東洋史文献史料講読Ⅻ	上田 裕之	045111	300
日本近世史	中野 達哉	047511	300
日本近代史	熊本 史雄	047611	301
日本考古学概説	酒井 清治	044301・044302	302
日本古代史	瀧音 能之	047311	302
日本史概説	小泉 雅弘	056401・056402	303
日本史概説	野尻 かおる	056301・056302	304
日本史概説	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美	043711	304
日本史学演習Ⅰ	久保田 昌希	054001	305
日本史学演習Ⅱ	熊本 史雄	053901	305
日本史学演習Ⅲ	小泉 雅弘	053701	306

科目名	担当者名	履修コード	ページ
日本史学演習 I	瀧音 能之	053601	306
日本史学演習 I	中野 達哉	053401	307
日本史学演習 I	廣瀬 良弘	053501	307
日本史学演習 I	松本 信道	054701	308
日本史学演習 I	湯淺 隆	053801	308
日本史学演習 II	久保田 昌希	055401	308
日本史学演習 II	熊本 史雄	055301	309
日本史学演習 II	小泉 雅弘	055101	309
日本史学演習 II	瀧音 能之	055001	309
日本史学演習 II	中野 達哉	054801	310
日本史学演習 II	廣瀬 良弘	054901	310
日本史学演習 II	松本 信道	056201	311
日本史学演習 II	湯淺 隆	055201	311
日本史学基礎演習	熊本 史雄	043311	312
日本史学基礎演習	小泉 雅弘	043411	312
日本史学基礎演習	中野 達哉	043541	313
日本史学史	湯淺 隆	045301	313
日本史史料講読 I	瀧音 能之	044501	314
日本史史料講読 II	小松 寿治	044601	314
日本史史料講読 III	中野 達哉	044701	315
日本史史料講読 IV	小泉 雅弘	044801	316
日本史特講 I〔古代〕	宇佐美 正利	047701	316
日本史特講 II〔古代〕	古谷 紋子	047801	317
日本史特講 III〔中世〕	今野 慶信	047901	317
日本史特講 IV〔中世〕	吉田 政博	048101	318
日本史特講 V〔近世〕	滝口 正哉	048201	318
日本史特講 VI〔近世〕	出口 宏幸	048301	319
日本史特講 VII〔近代〕	熊本 史雄	048401	320
日本中世史	久保田 昌希	047411	321
日本仏教史	松本 信道	046601・046602	321
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	322
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	322
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	323
仏教美術	村松 哲文	006201・006202	323
有戦故実	近藤 好和	016501	324
ラテン語	上野 勝広	028101	325
歴史地理学	小田 匡保	033001	326
考古学各説 II	休講		
考古学各説 IV	休講		
考古学特講 II	休講		
考古学特講 IV	休講		
考古学特講 VI	休講		
考古学特講 VIII	休講		
西洋史各説 I	休講		
西洋史特講 II	休講		
西洋史各説 III	休講		
西洋史特講 IV	休講		
西洋史特講 VI	休講		

歴史学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
西洋史特講Ⅶ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅰ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅲ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅴ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅶ	休講		/
西洋史文献史料講読Ⅸ	休講		/
東洋史各説Ⅱ	休講		/
東洋史各説Ⅵ	休講		/
東洋史特講Ⅰ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅰ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅱ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅲ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅴ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅶ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅸ	休講		/
東洋史文献史料講読Ⅺ	休講		/
日本史特講Ⅷ	休講		/

# (5) 社会学科

## 社会学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
外書講読演習	山田 信行	058281	329
家族とジェンダーの社会学A	松信 ひろみ	058451	329
環境社会学	品田 知美	058751	330
環境心理学	林 久美	073401	331
基礎文献講読演習	片岡 栄美	058091	332
基礎文献講読演習	深澤 弘樹	058061	333
基礎文献講読演習	松信 ひろみ	058081	333
基礎文献講読演習	山田 信行	058071	334
行政法	鷄徳 啓登	058501	334
経済原論	福田 慎	117501	335
現代社会学理論研究	岩瀬 庸理	058881	336
国際社会学論	山田 信行	058671	336
災害社会学	小嶋 直子	058741	337
産業心理学	大谷 華	073601	337
産業と変動の社会学	山田 信行	058371	338
質的調査法演習	深澤 弘樹	058241	339
児童心理学	澤田 匡人	073501	340
市民社会学論	李 妍炎	058311	340
社会階層論	片岡 栄美	058621	341
社会学演習 I	牛島 千尋	061501	341
社会学演習 I	片岡 栄美	060801	342
社会学演習 I	坪井 健	061301	342
社会学演習 I	深澤 弘樹	061101	343
社会学演習 I	松信 ひろみ	061511	344
社会学演習 I	山田 信行	060901	344
社会学演習 I	李 妍炎	061401	345
社会学演習 II	牛島 千尋	062101	345
社会学演習 II	坪井 健	062001	346
社会学演習 II	深澤 弘樹	061801	346
社会学演習 II	松信 ひろみ	062311	347
社会学演習 II	山田 信行	062201	347
社会学演習 II	李 妍炎	062301	348
社会学概論	坪井 健	057501	349
社会学基礎研究	山田 信行 坪井 健 深澤 弘樹 牛島 千尋 李 妍炎 松信 ひろみ 片岡 栄美	057701	350
社会学原論	橋爪 敏	060001・060002	350
社会学古典研究	山田 信行	058221	351
社会学史	李 妍炎	058401	351
社会学特殊講義C	深澤 弘樹	058851	352
社会学特殊講義D	明戸 隆浩	058861	353

社会学科 社会学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
社会参加実習	李 妍炎	058261	354
社会心理学A	坪井 健	058331・058332	354
社会心理学B	坪井 健	058341・058342	355
社会政策	光岡 博美	091001	355
社会調査	牛島 千尋	057601	356
社会調査実習	二方 龍紀	060321	357
社会調査実習	松信 ひろみ	060301	358
社会調査実習	三田 知実	060311	359
社会統計学演習	片岡 栄美	060201	360
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・ 075003	361
宗教文化論A	芳賀 学	058641	362
宗教文化論B	芳賀 学	058651	362
情報処理実習	軽部 幸浩	057801	363
情報処理実習	軽部 幸浩	057901	364
情報処理実習	軽部 幸浩	058001	365
政治社会論	岩瀬 庸理	058611	366
統計学基礎演習A	池田 心豪	058021	366
統計学基礎演習A	片岡 栄美	058011	367
統計学基礎演習A	二方 龍紀	058031	367
統計学基礎演習B	池田 心豪	058121	368
統計学基礎演習B	片岡 栄美	058111	368
統計学基礎演習B	二方 龍紀	058131	369
都市社会学A	牛島 千尋	058351	369
都市社会学B	牛島 千尋	058361	370
犯罪と逸脱の社会学A	作田 誠一郎	058711	370
犯罪と逸脱の社会学B	作田 誠一郎	058721	371
比較社会論	李 妍炎	058321	371
文化社会学A	片岡 栄美	058431	372
マス・コミュニケーション論A	深澤 弘樹	058411	373
民法	大宮 隆	058551	373
労働法	藤本 茂	098801	374
老年心理学	針金 まゆみ	073701	375
異文化コミュニケーション論	休講		
家族とジェンダーの社会学B	休講		
雇用と労働の社会学	休講		
社会学特殊講義A	休講		
社会学特殊講義B	休講		
文化社会学B	休講		
マス・コミュニケーション論B	休講		

# (6) 社会学科 社会福祉学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
医学一般	小林 臻	066221	379
医療福祉論	宮本 博司	065821・065822	379
介護概論	金 美辰	066301	380
介護概論	金 美辰	066311	380
介護技術	金 美辰	066401	381
介護技術	金 美辰	066411	381
家族とジェンダーの社会学A	松信 ひろみ	058451	382
家族療法	和田 のり恵	064701	382
家庭福祉論	武山 梅乗	065101・065102	383
環境心理学	林 久美	073401	383
行政法	鶏徳 啓登	058501	384
経済原論	福田 慎	117501	385
権利擁護と成年後見制度	徳田 暁	063421	386
公的扶助論	伊藤 秀一	065321・065322	387
児童福祉論	村田 一昭	065621・065622	388
司法福祉論	三澤 孝夫	063441	389
社会学（福祉）	武山 梅乗	066151・066152	389
社会政策	光岡 博美	091001	390
社会調査の基礎	東條 光雅	063461	390
社会福祉援助技術演習Ⅰ	荒井 浩道	067641	391
社会福祉援助技術演習Ⅰ	川上 富雄	067681	391
社会福祉援助技術演習Ⅰ	讃岐 真佐子	067671	392
社会福祉援助技術演習Ⅰ	長尾 譲治	067651	392
社会福祉援助技術演習Ⅰ	村田 一昭	067661	393
社会福祉援助技術演習Ⅱ	荒井 浩道	068041	393
社会福祉援助技術演習Ⅱ	川上 富雄	068081	394
社会福祉援助技術演習Ⅱ	讃岐 真佐子	068071	394
社会福祉援助技術演習Ⅱ	長尾 譲治	068051	395
社会福祉援助技術演習Ⅱ	村田 一昭	068061	395
社会福祉援助技術各論ⅠA	荒井 浩道	063401	396
社会福祉援助技術各論ⅠB	荒井 浩道	063501	396
社会福祉援助技術各論ⅡA	川上 富雄	063601	397
社会福祉援助技術各論ⅡB	川上 富雄	063701	398
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	川上 富雄	067141	399
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	荒井 浩道	067241	399
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	伊藤 秀一	067251	400
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	桐原 宏行	067261	401
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	東條 光雅	067271	402
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	長尾 譲治	067281	402
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ	長尾 譲治 東條 光雅 伊藤 秀一 桐原 宏行 荒井 浩道 川上 富雄	067621	403

社会学科 社会福祉学専攻

科目名	担当者名	履修コード	ページ
社会福祉援助技術総論	荒井 浩道	063301	404
社会福祉学特講Ⅰ〔児童〕	山本 哲也	064101	405
社会福祉学特講Ⅲ〔障害児・者〕	佐藤 将朗	064301	406
社会福祉学特講Ⅳ〔相談・援護〕	青山 宗雄	064401	407
社会福祉学特講Ⅴ〔福祉事務所〕	船水 浩行	064501	408
社会福祉基礎演習	伊藤 秀一	069001	408
社会福祉基礎演習	桐原 宏行	069101	409
社会福祉基礎演習	東條 光雅	068901	409
社会福祉原論	伊藤 秀一	062801・062802	410
社会福祉専門演習Ⅰ	荒井 浩道	070011	411
社会福祉専門演習Ⅰ	伊藤 秀一	069501	411
社会福祉専門演習Ⅰ	川上 富雄	070001	411
社会福祉専門演習Ⅰ	桐原 宏行	069801	412
社会福祉専門演習Ⅰ	佐藤 光正	069701	412
社会福祉専門演習Ⅰ	東條 光雅	069601	413
社会福祉専門演習Ⅰ	長尾 譲治	069901	413
社会福祉専門演習Ⅱ	荒井 浩道	061911	413
社会福祉専門演習Ⅱ	伊藤 秀一	070401	414
社会福祉専門演習Ⅱ	川上 富雄	070201	414
社会福祉専門演習Ⅱ	桐原 宏行	070601	414
社会福祉専門演習Ⅱ	佐藤 光正	070301	415
社会福祉専門演習Ⅱ	東條 光雅	070101	415
社会福祉専門演習Ⅱ	長尾 譲治	070501	416
社会福祉発達史	堀 千鶴子	063901・063902	416
社会保障論	長尾 譲治	065001・065002	417
就労支援サービス	桐原 宏行	065441	418
障害者福祉論	桐原 宏行	065421・065422	419
情報処理論	軽部 幸浩	063001	420
情報処理論	軽部 幸浩	063101	421
情報処理論	軽部 幸浩	063201	422
女性福祉論	堀 千鶴子	065701・065702	423
心理学（福祉）	高橋 良博	066521・066522	424
心理検査法	稲富 正治	066601	424
精神医学（福祉）	浅野 誠	063481	425
精神科ソーシャルワーク論	佐藤 光正	064921	426
精神科リハビリテーション学	城田 晴夫	068501	426
精神保健学	坂村 雄	066701	427
精神保健福祉援助演習	佐藤 光正	068601	427
精神保健福祉援助技術各論	上野 容子	067001	428
精神保健福祉援助実習	佐藤 光正	068701	429
精神保健福祉論Ⅰ	佐藤 光正	066801	430
精神保健福祉論Ⅱ	進藤 義夫	066901	430
ソーシャルワーク演習	川上 富雄	067121	431
地域福祉論	川上 富雄	065901・065902	432
犯罪と逸脱の社会学A	作田 誠一郎	058711	433
犯罪と逸脱の社会学B	作田 誠一郎	058721	433
福祉行財政と福祉計画	笹部 昭博	064821	434
福祉サービスの組織と経営	波多野 実	064841	434
法学（福祉）	鶏徳 啓登	062901	435
保健福祉論	山本 哲也	065201・065202	436

科目名	担当者名	履修コード	ページ
民法	大宮 隆	058551	437
リハビリテーション論	佐藤 将朗	064901・064902	437
老人福祉論	東條 光雅	065521・065522	438
労働法	藤本 茂	098801	439
外書講読	休講		
家族とジェンダーの社会学B	休講		
国際社会福祉論	休講		
社会福祉学特講Ⅱ	休講		
精神保健福祉実習A	休講		
精神保健福祉実習B	休講		
精神保健福祉実習指導Ⅰ	休講		
精神保健福祉実習指導Ⅱ	休講		

## (7) 心理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習	有光 興記	076611	443
演習	茨木 博子	075901	443
演習	小野 浩一	076301	444
演習	鈴木 常元	076621	444
演習	谷口 泰富	076401	445
演習	茅原 正	076001	445
演習	永田 陽子	076201	445
演習	間島 英俊	076501	446
演習	八巻 秀	076601	446
カウンセリング	茨木 博子	074701	447
学習心理学	久保 尚也	072001	448
家族とジェンダーの社会学A	松信 ひろみ	058451	449
環境心理学	林 久美	073401	449
キャリア教育入門	長谷川 茂	070971	450
行政法	鶏徳 啓登	058501	450
経済原論	福田 慎	117501	451
健康心理学	稲松 信雄	073901	452
コンピュータ実習	小野 洋平	071201	453
コンピュータ実習	深堀 友寛	071301	454
コンピュータ実習	堀 直人	071101	455
産業心理学	大谷 華	073601	456
産業と変動の社会学	山田 信行	058371	456
児童心理学	澤田 匡人	073501	457
児童福祉論	村田 一昭	065621・065622	458
社会心理学	有光 興記	072101	459
宗教心理学	加藤 博己	073801	460
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・ 075003	461
宗教文化論A	芳賀 学	058641	462
宗教文化論B	芳賀 学	058651	462
障害者福祉論	桐原 宏行	065421・065422	463
情報処理 I	久保 尚也	074801	464
情報処理 II	軽部 幸浩 堀内 正彦	074901	465
人格心理学	鈴木 常元	071901	466
心理学概論	間島 英俊	070901	467
心理学基礎実験	谷口 泰富 深堀 友寛 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人	071401	468
心理学基礎実験	谷口 泰富 深堀 友寛 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人	071501	468
心理学基礎実験	谷口 泰富 深堀 友寛	071601	468

科目名	担当者名	履修コード	ページ
	桑原 正修 小野 洋平 堀 直人		
心理学研究法	堀 耕治	071701	469
心理学実験演習Ⅰ	小室 央允	072601	470
心理学実験演習Ⅱ	久保 尚也	072701	470
心理学実験演習Ⅲ	中澤 世都子 深堀 友覚	072801	471
心理学実験演習Ⅳ	堀 直人	072901	471
心理学実験演習Ⅴ	堀内 正彦	073001	472
心理学実験演習Ⅵ	軽部 幸浩	073101	473
心理学特殊演習	有光 興記	075811	474
心理学特殊演習	茨木 博子	075101	474
心理学特殊演習	鈴木 常元	075821	475
心理学特殊演習	谷口 泰富	075601	475
心理学特殊演習	永田 陽子	075401	476
心理学特殊演習	間島 英俊	075701	476
心理学特殊演習	八巻 秀	075831	477
心理学特講Ⅰ	永房 典之	074201	477
心理学特講Ⅱ	坂入 洋右 中塚 健太郎 谷木 龍男	074301	478
心理学特講Ⅲ	萩原 滋	074401	478
心理学入門	永田 陽子 小野 浩一 谷口 泰富 茅原 正 間島 英俊 有光 興記 鈴木 常元 八巻 秀 茨木 博子	070951	479
心理検査法Ⅰ	丸居 飛鳥 佐藤 尚代	074501	480
心理検査法Ⅱ	稲富 正治 中澤 世都子	074601	481
心理統計学	倉住 友恵	071001	482
精神医学	吉川 麻衣子	074101	483
生理心理学	谷口 泰富	072301	483
禅心理学	茅原 正	071801	484
認知心理学	永田 陽子	072401	484
発達心理学	間島 英俊	072501	485
犯罪と逸脱の社会学A	作田 誠一郎	058711	486
犯罪と逸脱の社会学B	作田 誠一郎	058721	486
比較行動学	入江 尚子	074001	487
マス・コミュニケーション論A	深澤 弘樹	058411	488
民法	大宮 隆	058551	488
臨床心理学	八巻 秀	072201	489
老人福祉論	東條 光雅	065521・065522	489
労働法	藤本 茂	098801	490

心理学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
老年心理学	針金 まゆみ	073701	491
家族とジェンダーの社会学B	休講		/
雇用と労働の社会学	休講		/
心理学実験演習Ⅶ	休講		/
心理学実験演習Ⅷ	休講		/
心理学実験演習Ⅸ	休講		/
マス・コミュニケーション論B	休講		/

# 專 門 教 育 科 目

## 1. 仏 教 学 部

禪 学 科 ・ 仏 教 学 科



履修コード	008801
科目名	イスラム教概論
担当者名	山崎 和美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代の国際社会における平和的共存、異文化理解、宗教間対話といった諸問題を考える上で、13億人以上の信徒を持ち、世界中に広がっているイスラムに関する正しく客観的な理解は必要不可欠です。この講義では、イスラムの教義や世界観について知ると共に、ムスリム（イスラム教徒）の人々の日常生活や文化など現実の姿を、偏見を持つことなく理解することを目的とします。イスラムと関わりの深い中東の歴史、政治、社会、文化について基本的知識を持つことも目標です。</p> <p>国際社会について考える場合、日本では欧米を中心に考えてしまう傾向があります。従って、中東、イスラム諸国をはじめ、欧米以外のアジア・アフリカ諸国に関しても、興味関心を抱き、理解しようという姿勢を養うことを目指します。</p> <p>国際社会に関するニュースに常に着目し、イスラム諸国だけでなく世界全体に関する時事問題を読み解くための教養を身につけることも目的です。さらに、その問題に関して自らの見解を述べ、文章化する能力を養えれば、と思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	以下の内容の予定ですが、若干変更する場合があります。
----------	----------------------------

#### 前期

A:イスラム世界全般（イスラム世界とは？、文化、芸術の多様性、イスラムの歴史、イスラムの世界観、宗教儀礼と日常生活、イスラム復興運動とは？）  
 B:イスラムの教義（クルアーンとハディース、イスラム法（シャリーア）とイスラム法学者、六信五行、イスラムの各宗派、イスラム神秘主義とスーフィー、聖者と聖者廟参詣、女性と婚姻、ヴェール）

#### 後期

C:イラン社会（「近代化」の時代、イラン革命と現代、イラン型大衆運動への女性参加と教育、映画に見る女性と若者）  
 D:国際関係（パレスティナ、ヨルダンとレバノン、チェチェン、アフガニスタン、イラク）

準備学習	下記記載の参考書5冊（『面白いほどよくわかるイスラム』『現代イラン 神の国の変貌』『シーア派 台頭するイスラム少数派』『コーカサス 国際関係の十字路』『〈中東〉の考え方』）を読んだ上で授業に参加すれば、授業内容をより深く理解できます。
------	---

履修上の留意点	日頃から、新聞・雑誌、インターネット、海外テレビ・ラジオのニュースなどに触れ、イスラム諸国について関心を持つように心がけてください。
---------	--

成績評価の方法	<p>① 文章執筆の訓練のため、授業に関するコメントを記して下さい。 短くてよいので、授業で何を学んだか、そのことについて自分はどうか考えるか、論述して下さい。</p> <p>② 夏休み明けに、前期の内容に関するレポートを提出してもらいます。 上記、「講義の内容」のA（イスラム世界全般）から1項目、B（イスラムの教義）から1項目、「参考書」から1冊を選び、授業で学んだことを整理した上で、自分の考えを論述して下さい。</p> <p>③ 後期の定期試験時に、後期の内容に関するレポートを提出してもらいます。 上記、「講義の内容」のC（イラン社会）から1項目、D（国際関係）から1項目、「参考書」から1冊を選び、授業で学んだことを整理した上で、自分の考えを論述して下さい。</p> <p>④ コメントと出席率、レポートから、総合的に評価します。</p>
---------	---

教科書/テキスト	教科書は指定しません。
----------	-------------

参考書	教科書は指定せず、授業中に必要な資料、および参考文献表を適時配布します。なるべく参考文献を読んだ上で授業に臨むようにして下さい。 特に、次の5冊の参考書については、ぜひ読んでください。
-----	---

塩尻和子監修・青柳かおる著『面白いほどよくわかるイスラム』日本文芸社、2007年  
 桜井啓子『現代イラン 神の国の変貌』岩波書店、2001年  
 桜井啓子『シーア派 台頭するイスラム少数派』中央公論新社、2006年  
 廣瀬陽子『コーカサス 国際関係の十字路』集英社、2008年  
 酒井啓子『〈中東〉の考え方』講談社現代新書、2010年

履修コード	004401
科目名	インド哲学史
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教を産んだインドのヴェーダ体制の内実を探り、宗教・哲学の変遷を概観する。
授業スケジュール	定評ある以下の教材に沿って、ヴェーダ時代より中世に到るまでの主だったトピックを通史的に概説する。併せて、インド哲学研究の方法論・問題点なども検討する。 ◎インド哲学史・序論 (1～3) インド哲学史とは? インド哲学研究の方法論 ◎ヒンドゥー教と仏教 (4～15) ヒンドゥー教 (ヴェーダ体制) の成立 ヒンドゥー教 (ダルマと業理論) の概要 仏教の成立: 仏教出現の意義 ◎ヒンドゥー教 (ヴェーダ体制) の変容と展開 (16～20) 仏教哲学とバラモン哲学 ◎インド哲学各論 (21～) 正統バラモン哲学諸派 ◎インド哲学・結び
準備学習	日本人にとって身近な仏教がインドに起源を持つものであることを深く自覚し、インド的なるものに関心を向け、それらに積極的にかかわってみる。
履修上の留意点	日頃よりインドに関心の目を向け、主体的に常にながしかな問題意識をもって授業に参加することが望ましい。
成績評価の方法	数回のレポートと年度末の筆記試験など。
教科書/テキスト	早島鏡正他著『インド思想史』(東京大学出版会)
参考書	講義の中で適宜紹介する。

履修コード	001701
科目名	インド仏教史
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) インド仏教史を、単に仏教の歴史だけに限定して扱うことはできない。それは、思想や文化などさまざまな面と深く関連しつつ展開したものである。しかし、仏教学部には、インド仏教の思想史や文化史に関する科目も開講されている。それゆえ本講義では、仏教の多様な側面も視野に入れながら、教団史を中心に可能な限り歴史的な展開に主眼を置いて解説する。 (到達目標) インド仏教史についての知識を身につけるとともに、仏教変遷の流れを広い視野で把握することを旨とする。
授業スケジュール	第1～2回: 仏教成立以前のインド 第3～5回: ゴータマ・ブッダと仏教興起 第6～8回: 初期の仏教教団 第9～12回: 教団の分裂と部派の出現 第13～14回: マウリヤ王朝時代の仏教 第15回: 理解度の確認 第16～18回: 部派仏教の展開 第19～21回: 大乘仏教の興起 第22～24回: グプタ朝時代の仏教 第25～27回: グプタ朝分裂以後の仏教 第28回: パーラ王朝と密教 第29回: 仏教の衰退 第30回: 近代インドにおける仏教の復興
準備学習	事前に教科書を読んで授業に臨むこと。また授業を通して得た知識を、歴史の流れ全体の中に位置づけながら理解するよう、復習にも力を入れること。
履修上の留意点	インド仏教の歴史に重点を置きつつ、仏教の思想や文化等さまざまな側面にも目を向けて、「仏教」を総合的にとらえる姿勢で臨んでほしい。
成績評価の方法	前期に行う小テスト(20%)と年度末におこなう筆記試験(80%)によって評価する。
教科書/テキスト	佐々木教悟・高崎直道他著『仏教史概説 インド篇』平楽寺書店、2,100円、ISBN 4-8313-0114-0
参考書	平川彰著『インド仏教史』(上・下)、春秋社、各2,940円、ISBN 4-393-11811-1、4-393-11812-X

履修コード	004201
科目名	インド仏教思想史
担当者名	松本 史朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教以前のインド思想・原始仏教・部派仏教・初期大乘仏教・中期後期大乘仏教の順で、インド仏教の思想的展開を概説することによって、仏教思想の特質を明らかにするのが、本講義のねらいである。この授業によって、仏教思想の基本的理解を得ることが、到達目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義の内容・スケジュールは、ほぼ次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1回) インド思想概説</li> <li>(2回) ヴェーダ思想</li> <li>(3回) ウパニシャッド思想</li> <li>(4回) ジャイナ教</li> <li>(5回) 原始仏教と釈尊</li> <li>(6回) 縁起説の意義</li> <li>(7回) 四諦説の意義</li> <li>(8回) 涅槃の意義</li> <li>(9回) 禪定の思想</li> <li>(10回) 無我説の意義</li> <li>(11回) 法の分類</li> <li>(12回) 『ミリンダ王の問い』</li> <li>(13回) 部派仏教のアビダルマ哲学</li> <li>(14回) 大乘仏教の成立と意義</li> <li>(15-21回) 大乘経典の思想 (『般若経』 『十地経』 『法華経』 『性起経』 『如来蔵経』 『涅槃経』 等の思想)</li> <li>(22回) 中観派の空思想</li> <li>(23-26回) 如来蔵思想の展開</li> <li>(27回) 瑜伽行派の唯識思想</li> <li>(28回) 仏教論理学の思想</li> <li>(29-30回) チベット仏教への導入</li> </ul>
----------	---

準備学習	梵語に関する基礎知識を学習しておくことが望ましい。
履修上の留意点	高度に思想的内容について講義し、厳正な試験を行なうので、安易な気持ちで履修することは、避けられたい。また出席回数が少ないものは、試験で合格することは困難である。初回の授業には必ず出席すること。
成績評価の方法	年度末の試験(80%)と平常点(20%)により、成績を評価する。
教科書/テキスト	早島鏡正他著『インド思想史』(東京大学出版会)3600円 ISBN 978-4-13-012015-9
参考書	

履修コード	003801 003802
科目名	インド仏教文化史
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インド生まれの仏教を、広範で多岐多彩なインド文化の史的展望の中でとらえてみたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>神や人間などが織りなす奇想天外なインド的物語世界の解説を皮切りに、仏教の出現と展開と衰頹にまつわる文化的トピックを論究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎インド仏教文化史とは?(1~3) 日本人、日本文化と仏教</li> <li>◎文化的側面より見たインド仏教とその展開(4~8) 他宗教と仏教の比較の視点から</li> <li>◎仏教の起源と仏教出現の背景(9~15) 仏教哲学の成立 ヒンドゥー教と仏教 仏教の独自性</li> <li>◎仏教の変容と展開(16~22) 哲学から宗教へ 仏教哲学の革新と宗教理論の確立</li> <li>◎インド仏教文化史・むすび(23~)</li> </ul>
----------	--

準備学習	自分の生活の中に仏教的な要素を探り、その意味を自分なりに考えてみる。
履修上の留意点	仏教や古今のインド文化に熱い関心を持つ学生諸君の主体的取り組みを期待する。
成績評価の方法	年度末試験などで総合的に判断する。
教科書/テキスト	渡辺照宏著『仏教(第二版)』(岩波新書)740円
参考書	教場で適宜紹介する。

履修コード	010501	010502
科目名	演習I	演習II
担当者名	飯塚	大展

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	一休宗純の偈頌集である『狂雲集』を読解する。
授業スケジュール	一休宗純の生涯 (『東海一休和尚年譜』の読解、1~10)、『狂雲集』概説 (11~15)、『狂雲集』の読解 (16~30)
準備学習	柳田聖山『一休 『狂雲集』の世界』 (人文書院、1980年刊行) を読了していることが望ましい。
履修上の留意点	ゼミでの発表を重視する。
成績評価の方法	あらかじめ『狂雲集』の報告担当者を決め、その報告に基いて討議する。その発表及びゼミでの問題提起等を以て評価する。
教科書/テキスト	教科書は用いない。テキストは適宜配布する。
参考書	参考書は概説の際に提示する。

履修コード	011841	011842
科目名	演習I	演習II
担当者名	池上	光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 江戸時代の学僧・面山瑞方(1683-1769)が、修行時代にふれた師の言行を記録した『見聞宝永記』を講読する。 本書は、江戸期の参学のありさまをいきいきと伝えるとともに、現代にも通じる様々な話題を提供してくれる。ゼミでは、先人の仏道に対する真摯な姿勢を、共に学んでいきたい。 (到達目標) 1~2年次に学んだ知識を活用し、さらに、自ら調べ、表現する力を身につけてほしい。 具体的には、まず、テキストを読むための基礎作業として異本校合を実践し、それを習慣づけてもらいたい。普段我々が目にする印刷物でも誤字・脱字を見かけることがあるが、人の手で次々に書き継がれてゆく写本では、誤記等の可能性はより高くなる。ゼミで用いるテキストは、駒澤大学図書館所蔵の江戸期の写本を使用する。同書には数種の異本が存在するので、それらを対校しつつ本文を確認してほしい。次いで読解の作業にうつるが、その際には自らの信念や思い込みによらず、各種工具類を用いながら、原典を虚心にかつ丹念に読み込んでいってもらいたい。その上で、自分の見解をまとめ、発表してほしい。
授業スケジュール	まず自主的に調査・研究を進めるための方法を教示した後、分担を割り振り読み進めていく。 第 1~3回： 導入 第 4~8回： 『見聞宝永記』 「後序」 講読 第 9~30回： 『見聞宝永記』 本文講読
準備学習	テキストは漢文体(訓点付き)であるので、漢文読解の基本を再確認しておくこと。 ゼミでは分担で本文を読み進めていく。担当に当たった場合は異本校合、語彙注釈、現代語訳を施した資料を作り、人数分コピーしてくる。そのための下準備を十分行うこと。また、担当でない場合も本文に目を通し、各自の意見をまとめてくること。
履修上の留意点	ゼミなので毎回必ず出席すること。
成績評価の方法	演習科目なので平常点により評価する。
教科書/テキスト	駒澤大学・図書館のホームページより、各自で印刷してくること。詳細はゼミの初回に説明する。
参考書	中野東英(著)、中野東禅(監修)『損翁禅話—面山和尚が見た、本師の108逸話—』 (四季社 2006/12) ISBN 4-88405-437-7 鏡島元隆(訳注)『日本の禅語録・18』 『卍山・面山』 (講談社 1978/01) 『永福面山禅師宝物集』 (永福会 2008/09) その他、演習中に随時紹介する。

履修コード	009101 009102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 古来、仏教における入門的な論書として重んじられてきた世親 (Vasubandhu) の著作『阿毘達磨俱舍論』(Abhidharmakosabhasya) を、サンスクリット語の原典と玄奘による漢訳を用いて講読する。 (到達目標) テキストの講読を通して、仏典を正確に読解する力を身につけるとともに、仏教の重要な術語や概念を理解し、仏教に関わる諸問題について自ら考察する姿勢を養いたい。
---------------------	--

授業スケジュール	第1～3回：説一切有部の思想と『俱舍論』の概説 第4～14回：玄奘訳『俱舍論』の講読 第15回：前期のまとめ 第16～29回：サンスクリット語『俱舍論』の講読 第30回：1年間のまとめ
----------	--

準備学習	講読箇所を和訳・解釈し、さらに関連する問題や資料についてできる限り広く調べ、それらを配布資料として準備すること。
------	--

履修上の留意点	当番制で和訳し、内容を解説してもらおうが、担当でない者も予習をして授業に臨んでほしい。なお、関連する問題について発表してもらおうことも考えている。
---------	---

成績評価の方法	授業における読解等の平常点によって評価する。
---------	------------------------

教科書／テキスト	テキストは最初の授業のさいに説明し、プリントを配布する。
----------	------------------------------

参考書	必要に応じて適宜紹介する。
-----	---------------

履修コード	011501 011502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	石井 清純

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	平成24年度の新規募集は行わない。
---------------------	-------------------

授業スケジュール	第1回 演習内容説明。第2～4回 PCの基本操作、ネットワークの基礎知識。第5～8回 オペレーションシステムおよび基本アプリケーション操作。第9回 第1課題作成。第10回～15回 第1課題発表。第16回 第2課題作成。第17回～30回第2課題発表。
----------	--

準備学習	PCを使用するので、基礎的な操作を習得していることが望ましい。
------	---------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	課題の発表を点数化し、それに平常点を付加して判定する。
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	YeStudyにて配布。
----------	--------------

参考書	
-----	--

履修コード	009801 009802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	石井 公成

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>中国華嚴宗第三祖とされる法蔵(643~712)の菩薩戒觀を示す『梵網經菩薩戒本疏』を研究します。華嚴教学は、ひと粒の塵の中にあらゆる方角の無数の国土が入り、その国土の中のひと粒の塵の中にまた全世界が入っている、といった無限に融合しあう理想の宗教的境地を説くものです。ただ、法蔵は一方で、菩薩戒の經典である『梵網經』の注釈である『梵網經菩薩戒本疏』を著し、制約の多い中国社会の中で菩薩として生きようとする人たちのために、絶対に死守すべきことと、状況によっては守れなくても仕方がないことを区別し、きわめて現実的な規範を示そうとしました。</p> <p>演習では、『梵網經菩薩戒本疏』を取り上げ、法蔵の他の著作のうち、上記のような理想的境地を描いた箇所や、殺人その他の悪行や懺悔に関する記述と比較しながら検討します。授業では漢文読解の練習となるよう、一字一句にこだわり、コンピュータ検索も利用しつつ徹底的に厳密に読んでいきます。</p>
授業スケジュール	<p>第1段階：授業方針の説明。菩薩戒と『梵網經』に関する説明と研究史の紹介。法蔵および『梵網經菩薩戒本疏』の概説。</p> <p>第2段階：『梵網經菩薩戒本疏』の講読。</p> <p>第3段階：法蔵以外の『梵網經』注釈との比較。</p> <p>第4段階：東アジア世界における菩薩戒の意義。</p>
準備学習	菩薩戒は、日常生活に関するものであるため、厄介な問題にぶつかる。その代表は、安楽死の問題、臓器移植の問題、テロリストを殺してよいかといった問題などである。こうした問題について調べ、考えておくこと。
履修上の留意点	初めはこちらが読むが、慣れてきたら1~2行づつ当てて読んでもらうため、積極的に参加することが必要である。最初は読めなくてかまわないが、向上しようという姿勢を望みたい。漢文読解に関しては援助する。
成績評価の方法	年間に10回以上授業中に不定期に行なう小レポートによって評価し、授業への取り組みぶりも考慮します。中間試験・期末試験はおこないません。
教科書/テキスト	コピーを配布します。
参考書	

履修コード	009701 009702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習のテキストとして禪の究明に欠かせない『景德伝燈録』を選んだ。1004年に完成した『景德伝燈録』は、それ以前の禪とは何かを知る上でも必読の本であるし、それ以降の禪を学ぶ上には欠くべからざる指針の本である。また、道元禪師が暗記するまで読まれたことは間違いないので、道元禪師の研究をする上でも必読の本である。</p>
授業スケジュール	『景德伝燈録』30巻は、世に「一千七百の公案」と呼ばれる。この演習はその一つ一つを丁寧に読む。なお今年度は巻14以降の石頭系の著名な禪者を読む。
準備学習	中国の禪に関する著書は多くあるので、図書館で調べて、購入可能ならば購入するほうがよい。個人的にも相談に応じる。
履修上の留意点	<p>元版の序文によると、367,917字で刻まれたという。それを編集し、書写し、さらに一字一字を刻した人の苦勞を思う時、まず我々はその一字一字を辞典を使用して確かめることから出発し、意味を考え、そして意図を探りたいものである。一年間で学べる分量はわずかであるが、禪者一人一人を禪宗史の上でどのように学問的に追求したらよいかを学んで、他の研究に活用できるように身につくまでまなびたい。</p> <p>できる人は中国語の発音まで調べてくること。</p>
成績評価の方法	演習は当番が担当する。また、その年度内に読んだ禪者の中から興味ある人を一人選び、その伝記と思想の特色をレポートに書いて最終授業の時に提出する。400字詰10枚程度(ワープロ可)。
教科書/テキスト	台湾の版元より取り寄せ(1500円程度)
参考書	<p>入矢義高監修『景德伝燈録三』『同 四』(禪文化研究所)各8,500円</p> <p>入矢義高監修『禪語辞典』(思文閣出版)9,785円</p> <p>石井修道『中国禪宗史話』(禪文化研究所)3,675円、絶版なので古書購入のこと</p>

履修コード	009201 009202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	岩永 正晴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代中期の曹洞宗僧侶が著わした『正法眼蔵』注釈書を対象として演習を行う。各注釈書の背景にある教養や、注釈態度・目的などの調査分析を通して古人の参究の成果を学ぶと共に、演習参加者自身の研究に必要な知識や方法を修得して貰いたい。
授業スケジュール	今年度も前年度に引き続き、『正法眼蔵』参究の初学者がまず始めに参照すべき書として伝承されてきた『正法眼蔵聞解』（斧山玄トツ述）を中心に演習を行う。 ○第1回 授業の概要の説明 ○第2回～第3回 『正法眼蔵』及び『正法眼蔵聞解』の解題。参考書等の説明。 ○第4回～第30回 履修者による演習。
準備学習	高校生の頃に学んだ古文や漢文の復習をしておいて下さい。自分が担当でなはない部分についても、予習をして授業に臨んで下さい。
履修上の留意点	大学での学習・研究の中でも、演習が担う役割は極めて大きいと考えるので、積極的に参加して貰いたい。また我々は仏教を学ぶのであるから、私も含めた参加者全員が互いに協力し励まし合って学んで行きたい。
成績評価の方法	平常点（70点）と、学年末提出のレポート（30点）で評価する。
教科書／テキスト	『正法眼蔵註解全書』所収本の必要箇所をコピーして配布する。
参考書	『永平正法眼蔵菟書大成』17（大修館書店）・鏡島元隆『道元禪師とその門流』（誠信書房）・河村孝道『正法眼蔵の成立史的研究』（春秋社）など。但し以上は入手が困難であろうから、図書館を活用して貰いたい。その他は随時紹介する。

履修コード	010201 010202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	奥野 光賢
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経自らが「諸経の王」と称しているように、あまたある大乘經典の中で東アジア世界に最も流布した經典が『法華経』である。本演習では鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』を中国・日本で著された各種法華経注釈書にも目を配りながら講読し、法華思想の考究に及びたい。
授業スケジュール	開講から数回程度は予備知識確認のため概説的授業を行なう。以後、直ちに講読に入る。今年度はいわゆる「法華七喻」といわれる箇所を重点的に講読する予定。
準備学習	参考書として示した2書のうち、いずれか1冊を読んでおくことを強く希望する。
履修上の留意点	予習をしっかりとなし、授業への主体的参加を望みたい。
成績評価の方法	純然たる演習科目なので平常点のみによって評価する。
教科書／テキスト	岩波文庫本『法華経』全3冊を教科書として使用するので各自用意すること。その他の授業で用いる注釈書は授業において適宜配布する。
参考書	参考書はあまたある。それらは授業において適宜指示するが、さしあたっては次の2書をあげておく。①田村芳朗『法華経』（中公新書）、②菅野博史『法華経入門』（岩波新書）

履修コード	010401 010402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	片山 一良
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	釈尊によって説かれた原初の教えを「原始仏教」と呼ぶ。その基本的な教えをパーリ仏典（原始仏教聖典）によって正しく理解し、「大乘仏教」の根本的思想を把握するための足がかりを築きたい。
授業スケジュール	聖典語とされるパーリ語で書かれた仏典を読む。詩（偈）と散文からなる『如是語(経)』（Itivuttaka）を扱い、五蘊・縁起・四諦・中道の教えについて考えたい。また、前期・後期に各一回、各自の研究課題に基づく発表の機会を設けたい。
準備学習	予習と復習が求められる。
履修上の留意点	受講者はパーリ語初級程度の知識をそなえていることが望まれる。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	PTS本（Itivuttaka）を使用。コピー配布。
参考書	南伝大蔵経第23巻、片山一良『ブッダのことば パーリ仏典入門』（大法輪閣）。
その他	授業は講読、討論を主とする。

履修コード	011201 011202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	金沢 篤
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教の成立・展開にも大きく関わった、インドの思想史・文化史的背景を伺う種々文献資料や、いわゆる正統バラモン哲学の基礎的な文献資料を原典で読む。
授業スケジュール	決定したテキストを順を追って講読する。
準備学習	演習で用いるテキストは教場で相談の上、決めるが、サンスクリット語初級程度の語学力を身につけておく。また仏教史とインド哲学史に関する基礎的な知識をチェックしておく。
履修上の留意点	テキストなど詳しいことは、教場にて適宜指示するが、受講者は、サンスクリットの初級程度の知識を有していることが望ましい。また、自分の個人的学問的関心を常時尖鋭化し、文献渉猟と言葉によるプレゼンテーション技術の習得を心がけて欲しい。
成績評価の方法	成績評価は、出席点を含む平常点をもってする。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	011871 011872
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	木村 誠司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教の論理的側面を考察することを狙いとする。使用する中心文献は、仏教の最も基本的な著作の1つ『俱舍論』である。本書には、様々なインド思想の影響も濃厚に見られる。本書を通じて、仏教、特に、インド仏教を理解するためには、他のインド思想の知識が不可欠であることが実感出来るはずである。しかも、そこで繰り広げられる論述には、およそ、神秘的・不可解な要素などない。極めて、論理的な論が展開されている。本授業では、インド思想全般と仏教との関わりを、まず、知ってもらう。しかる後に、仏教以外のサーンキヤやヨーガのテキストを講読し、最後に『俱舍論』『定品』『随眠品』などとの比較を行う。授業中は、出席者との活発な議論を期待する。場合によっては、各自にテーマを与え、授業内で発表してもらう。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インド思想全般における仏教の立場 1</li> <li>2. インド思想全般における仏教の立場 2</li> <li>3. インド思想全般における仏教の立場 3</li> <li>4. インド思想全般における仏教の立場 4</li> <li>5. インド思想全般における仏教の立場 5</li> <li>6. サーンキヤ思想と仏教 1</li> <li>7. サーンキヤ思想と仏教 2</li> <li>8. サーンキヤ思想と仏教 3</li> <li>9. サーンキヤ思想と仏教 4</li> <li>10. サーンキヤ思想と仏教 5</li> <li>11. サーンキヤ思想と仏教 6</li> <li>12. サーンキヤ思想と仏教 7</li> <li>13. サーンキヤ思想と仏教 8</li> <li>14. サーンキヤ思想と仏教 9</li> <li>15. サーンキヤ思想と仏教 10</li> <li>16. ヨーガ思想と仏教 1</li> <li>17. ヨーガ思想と仏教 2</li> <li>18. ヨーガ思想と仏教 3</li> <li>19. ヨーガ思想と仏教 4</li> <li>20. ヨーガ思想と仏教 5</li> <li>21. ヨーガ思想と仏教 6</li> <li>22. ヨーガ思想と仏教 7</li> <li>23. ヨーガ思想と仏教 8</li> <li>24. ヨーガ思想と仏教 9</li> <li>25. ヨーガ思想と仏教 10</li> <li>26. 『俱舍論』の記述 1</li> <li>27. 『俱舍論』の記述 2</li> <li>28. 『俱舍論』の記述 3</li> <li>29. 『俱舍論』の記述 4</li> <li>30. 『俱舍論』の記述 5</li> </ol>
準備学習	特にないが、勿論、サンスクリット語やチベット語の知識があれば、ベターである。
履修上の留意点	特にない。
成績評価の方法	授業内で、テキストの講読や発表を行ってもらうので、評価は平常点で行う。平常点100%。
教科書／テキスト	すべてコピーで配布する。
参考書	

履修コード	010301 010302
科目名	演習I 演習II
担当者名	熊本 英人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 今日の仏教の様相は、明治維新から始まったといっても過言ではない。近代における仏教の諸問題を曹洞宗の場合を中心にみていく。特に、教団を視点においてその変容や機能を文献から読み取る。あわせて、一宗の宗学がどのように展開していったかにも触れ、教義と現実との関係について検討する。 (ねらい) 近代仏教の歴史・思想を学び、自らの研究課題を明確にする。
---------------------	---

授業スケジュール	明治維新を境に、仏教とそれを取り巻く環境は大きく変わった。近世の仏教批判、明治維新期の混乱と、その後の僧侶や寺院のあり方の変化、そして、近現代において、仏教はどのように社会と関わってきたか。禅はどのようにとらえられてきたか。また、禅宗は何を伝えようとしたか。このような視点を前提として、今年度は、道元の『正法眼蔵』を、曹洞宗はどう扱い、一般人はどう読んだか、曹洞宗僧侶や仏教研究者が道元禅を読み解いた作品・研究を分析する。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	適宜、小レポートを課す。
---------	--------------

成績評価の方法	平常点(50%)及び期末レポート(50%)。
---------	------------------------

教科書／テキスト	テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。
----------	------------------------------

参考書	演習の中で随時紹介する。
-----	--------------

その他	演習IIについては、卒業論文の指導にも配慮して講座を進める。
-----	--------------------------------

履修コード	011401 011402
科目名	演習I 演習II
担当者名	佐藤 秀孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本禅宗の草創期の禅僧、とくに鎌倉・南北朝時代に活躍した永平道元(1200-1253)から瑩山紹瑾(1264-1325)やその弟子たちに至る初期曹洞宗教団の祖師方の伝記史料その他を読み進めたい。具体的には江戸時代の僧伝や禅宗灯史が成立する以前の、より素朴な中世撰述史料などをテキストとして演習する。演習を通して史料の読解力を養うだけでなく、禅僧たちの生きざまを通して彼らが目指した禅宗叢林のありかたなど、中世禅宗の息吹きを感じてもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	はじめに初期曹洞宗に関して、歴史的な概要や現存する史料について口述し、その後、特定の伝記史料について演習する。その際、学生が輪番形式で割り当てられた箇所について書き下し文と語句の説明と訳文を作って史料を発表してもらおう。
----------	--

準備学習	中世曹洞宗の歴史をある程度理解し、また漢文の読解を深めておくこと。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	史料の多くが漢文ないし漢字仮名交じり文で表現されており、しかも独特の禅宗用語や中世用語が用いられていることから、漢文(とくに禅宗漢文)や日本禅宗史の素養を深めておいて欲しい。
---------	---

成績評価の方法	担当した演習箇所の内容と出席日数を換算して成績を評価するが、授業時間内の態度や意気込みなども総合的に加味したい。
---------	--

教科書／テキスト	特定の教科書は使用しない。『三大尊行状記』や古写本『建漸記』などの内容を、『曹洞宗全書』『史伝下』や『続曹洞宗全書』『寺誌・史伝』その他当該資料よりプリントして配布する。
----------	---

参考書	大久保道舟『道元禅師伝の研究』や竹内道雄『道元』(人物叢書)など道元に関する研究書、東隆貞『瑩山禅師の研究』など瑩山に関する研究書。『永平寺史』など初期の曹洞宗に関する研究書。
-----	--

その他	演習では毎時間、担当者を割り当てて調べてきた成果を発表してもらい、それを教員が改めて内容を検討していく。
-----	--

履修コード	011851 011852
科目名	演習I 演習II
担当者名	角田 泰隆
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	道元禪師の歴史的研究(道元禪師の伝記並びにその時代の諸研究)、書誌〔文献〕的研究(著作の成立等に関する研究)、思想的研究(著作の内容に関する研究)の研究方法を身につける。
授業スケジュール	最初に、『正法眼蔵』の研究方法について概説し(1~3)、その後、『正法眼蔵』『即心是仏』巻の研究をする。前期は、図書館を利用した自主研究の時間とし、研究ノートを作成してもらう(4~15)。この間は、図書館あるいは研究室にて個々に指導する。後期(16~30)は、演習形式で『即心是仏』巻を読む。
準備学習	用語解説、出典調べ等、詳細に行って研究ノートを作成し、授業に臨むこと。
履修上の留意点	研究ノートの作成方法については、授業にて詳細を説明するが、用語の意味調べ、出典調べ、訳文の作成等、根気よく研究することが必要となる。また、図書館での自主研究では、静粛に学習するように特に留意していただきたい。
成績評価の方法	研究ノートの評価70%、平常点30%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	授業において紹介する。

履修コード	011831 011832
科目名	演習I 演習II
担当者名	程 正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、中国初期禅宗史を研究するための基礎的な知識と技能の習得をそのねらいとする。本年度は、黄檗希運述『宛陵録』の輪読を行う予定である。本書は848年に宛陵へ赴任した居士裴休が黄檗希運に問法した内容を筆録整理したものとされ、中国禅宗、特に臨済禅の基礎を築いた黄檗の心を伝えたものとして、後世に愛読された。このテキストを読むことによって、五家の時代に入る中国禅宗における禅思想の変遷の一端を明らかにしていきたい。
授業スケジュール	具体的には、入矢義高氏の校訂したテキストをワープロに起こし、書き下し、引用に関しては出典を探し、内容を理解するという作業を繰り返す予定である。最初の3、4回は、『宛陵録』に関する従来の研究成果などの紹介に当て、その後は、テキストを適当な分量に区切って参加者全員に配分し、参加者は輪番でそれぞれの担当箇所について資料を作成し発表を行う予定である。
準備学習	それぞれの担当する内容について予め発表資料を作成すること。担当でないときでも、テキストの内容に目を通すこと。
履修上の留意点	出席点を評価に入れるので、欠席しないこと。
成績評価の方法	授業における発表、出席点により評価。但し、出席や発表の状況によっては、個別に課題レポートを課すこともあり得る。
教科書/テキスト	入矢義高『伝心法要・宛陵録』(禅の語録8) (筑摩書房、1969年)
参考書	適宜に紹介する。

履修コード	010601 010602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	永井 政之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国禅宗を「立体的」に捉えようと苦心しています。そのためには、さまざまな史料を多角的に読むことが必要だと考えていますし、辛抱よく訓練すれば、必ずや歴史に生きた禅僧のナマの姿が分ってくると信じています。そんな問題意識のもと、ここ数年と同じように北宋を代表する禅者の一人、慧洪（1071～1128）の著わした『林間録』を読みます。北宋を代表する禅者の一人である慧洪は、その生涯において4度の下獄を経験するほどの波乱の人生を送ります。一方、その著作『石門文字禪』は「五山文学」の世界に大きな影響をあたえました。かくしてその評価はさまざまとなりますが、彼が「あるべき教え」と「人」を模索し続けたことは疑いありません。その集約が『林間録』にあります。 時には皮肉を込め、時には慨嘆しつつ語られる北宋禅の世界は、「灯史」に限定されない生き生きとした様相そのものを語っているのではないのでしょうか。 漢文の読解能力を高めるとともに、勉強のための方法論の確立を目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	(1～3) 中国禅宗史の概説(3～) 毎時間、当番が発表用のペーパー(『林間録』を訓読し注を付したものを)を配布し、読みすすめます。
----------	--

準備学習	中国禅宗の梗概を参考書(たとえば『講座 禅3 禅の歴史 中国』筑摩書房)などを手がかりに学んでおいて下さい。また漢和辞典等を手元に置いて下さい。
------	--

履修上の留意点	それぞれ担当する内容については、発表資料の作成などの予習は不可欠です。また自分の担当ではなくても、「自分だったらこう読む」と予習してください。
---------	---

成績評価の方法	評価は当番に当たった際の発表や、ふだんの履修態度を総合的に評価します。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	テキストは江戸時代の本版本をコピーして使用します。返り点や送りがなも付されているので、比較的読みやすいと思います。
----------	---

参考書	参考書については授業中に適宜指示しますが「漢和辞典」は必ず用意してください。
-----	--

履修コード	010101 010102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教をはじめとしたさまざまな宗教の儀礼分析を中心に行なう。できるだけ具体的な実践例を取り上げ、教えや文化的背景などと関連つけて儀礼の意味や役割・機能を探る。 (到達目標) 本演習を通して、主体的な研究への取り組み方を学び、卒業論文作成へと発展させる能力の習得をめざす。
---------------------	--

授業スケジュール	上記に関する文献や調査資料をもとに履修者に研究テーマを決めさせ、調べた内容を順次発表してもらう。
----------	--

準備学習	発表者は十分な時間的余裕をもって準備に取り掛かること。他の受講者は各授業時の発表テーマについて予め予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	発表を中心に進めるので、発表者は配布資料に工夫を凝らし、判りやすい発表を心掛け、他の受講者は積極的に討論に参加して欲しい。
---------	---

成績評価の方法	平常点で評価する。
---------	-----------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	011861 011862
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	藤井 淳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	その後の日本仏教の流れを決定づけた弘法大師空海『弁顕密二教論』をインド・中国仏教との関係を踏まえながら読解します。学生の関心に合わせて奈良時代・平安初期の南都六宗の仏書や法然上人『選択本願念仏集』を読解し、『弁顕密二教論』との影響関係について考察します。
授業スケジュール	演習は皆さんが今まで先生から知識を一方的に受けてきた授業と異なり、自ら疑問を持ち、それをさまざまな資料(本・ネットなど)によって調べ、それでも分からないことがあればどう解決すればよいのか(どの能力を身につけるのが必要か、誰に聞けばよいのか、何を調べればよいのか)を考える授業です。これを実践して身につけていくことで、将来問題に出会ったときに自ら解決することができるようになります。五月ぐらいまでは演習を進める上で必要となる準備のために、テキストの読み方や資料の調べ方について指導します。その後、皆さんが調べたことを発表してもらい、それを私が指導します。先に発表する先輩を見本にしなが、全員に順番に発表してもらいます。
準備学習	弘法大師空海についてほとんど知識のない場合は、一つのきっかけとして『空海の風景』〈上〉〈下〉(司馬 遼太郎、中公文庫)を読んでおくのがよいでしょう。
履修上の留意点	履修にあたっては漢文の基本的な読解力が必要です。
成績評価の方法	理解を確認するために数回小テストを行ないますが、基本的には授業への参加・発表内容で評価します。
教科書/テキスト	教科書は指定しません。プリントを配布します。
参考書	『空海の思想的展開の研究』(藤井淳、トランスビュー、2008年4月刊行/ISBN:978-4-901510-58-5)『弁顕密二教論の解説』(那須政隆、成田山仏教研究所)前者は高額ですので適宜貸し出します。
その他	日本の仏教を将来にわたってより深く研究または理解しようと思う人は、必ずサンスクリット語(他にはパーリ語・チベット語・中国語)の知識が必要になります。大学時代は最低でもサンスクリット語の習得に努めて下さい。

履修コード	011821 011822
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	松田 陽志
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 曹洞宗において江戸時代は、宗義・宗旨の内容・意義や教団としての枠組みが全面的に見直され、新たな意義付けや体制の構築が盛んに論じられた時期である。中でも多くの議論が展開される、嗣法制度改革をめぐる内容を、関連資料を読解しながら具体的に検討する。 (到達目標) 江戸時代の版本を訓読し、内容解釈する手法を修得する。江戸期曹洞禅者の嗣法に関わる議論を整理して理解し、自らの問題意識を高めること。
授業スケジュール	嗣法制度改革の経緯と円山道白(一六三六～一七一五)の嗣法論を関連資料を読解することで検討する。また天桂伝尊(一六四八～一七三五)の『正法眼蔵弁註』と対照させながら、嗣法相続の意義にかかわる当時の議論を理解する。  第1～3回:江戸期の曹洞宗学の展開について(講義)、第4～10回:『宗統復古志』(以降、演習講読)、第11回～12回:『正法眼蔵』「面授」跋文、第13回～28回:『洞門衣柳集』と『正法眼蔵弁註』
準備学習	・読解する資料の訓読を漢和辞典で確認しておくこと。 ・積極的に図書館を利用し、辞書や参照すべき文献をできるかぎり探索すること。
履修上の留意点	漢和辞典を持参すること。事前に予習を行い、受講者で分担して訓読と内容解釈を発表する。発表にあたっては、図書館で辞書や関連文献をできる限り探索して発表資料を自ら作成し、わかりやすい発表ができるように工夫すること。 発表にあたっていなくても、不明な点があったら必ず質問して、授業時間内に解決すること。
成績評価の方法	平常点及び学習態度・発表内容に基づいて評価する。
教科書/テキスト	使用する文献資料はコピーして配布する。
参考書	図書館やWebなどの利用方法を含めて、随時紹介する。

履修コード	010701 010702
科目名	演習I 演習II
担当者名	松本 史朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インドの大乗仏教の基本的概念・教理を理解するために、中観派の重要なテキストである『明句論』Prasannapadaを、サンスクリット語（梵語）の原典で読む。中観思想の基本を習得することが到達目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	梵語原典を履修者に和訳してもらう。 （第1回）テキストの説明 （第2－8回）基礎的知識の習得 （第9－15回）教義内容の正確な把握 （第16－30回）高度な文献学的方法の習得
----------	---

準備学習	サンスクリット文法の学習とデーヴァナーガリー文字の習得
------	-----------------------------

履修上の留意点	テキストは、サンスクリット語なので、サンスクリット語初級を修了した語学力を要する。またテキストはデーヴァナーガリー文字で書かれているので、その習得も必要である。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、平常点（原典読解力）のみによる。
---------	------------------------

教科書／テキスト	Bibliotheca Buddhica本を使用。初回の授業で指示する。
----------	--------------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	011811 011812
科目名	演習I 演習II
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は、禅美術・仏教美術の研究を志す学生を対象とする。美術史を研究してゆく上で必要なことは、漢文読解の能力と美術品鑑賞の眼力である。授業では、『七大寺巡礼私記』あるいは『魏書』釈老志などを輪読しながら、適時受講者による発表を行ってもらう。また、美術館・博物館の見学を通じて美術品の基礎的な鑑賞法をトレーニングしてゆく。
---------------------	--

授業スケジュール	発表では、各自担当分の読み下しと現代語訳を用意してくる。また輪読の合間に、受講者が興味を抱いている研究課題について随時報告をしてもらう。さらに卒業論文の構想を発表する機会を設けたいと考えている。
----------	---

準備学習	漢和辞典を必ず入手して、引き方を身につけておくこと。
------	----------------------------

履修上の留意点	美術品の鑑賞は経験がものを言うので、時間のゆるす限り実物を観る機会を多くつくること。
---------	--

成績評価の方法	発表内容と出席率などによる総合評価。
---------	--------------------

教科書／テキスト	プリントで配布する。
----------	------------

参考書	漢和辞典を用意すること。その他は適時紹介する。
-----	-------------------------

履修コード	010901 010902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東アジアにおける中道思想論 仏教の実践の原点は『律蔵』『大品』での五比丘への説法、初転法輪に見られるように苦楽の二辺を離れた中道にあると思います。また釈尊が重要な場面で強調した自洲と法洲の水平対等のあり方も中道の内容を規定する姿勢と考えます。ところで大乘になると空が強調され、一切の法の階層性が空じられて、例えば「生死即涅槃」「煩惱即菩提」に類する相即観が説かれます。そのような相即観は「不二」とも表現され、例えば吉蔵の三論教学には「不二中道」の用例も見えます。私は中道に不二の意味を読み込むことは中道の原意から逸脱すると考えています。東アジアの諸教学に中道の諸形態を探りたいというのが私の課題です。
---------------------	---

授業スケジュール	前期の第1回目はガイダンスと自己紹介です。5月の第一週までは、小発表のやり方や論文の書き方の説明をします。5月の二週目から皆さんに小発表をお願いします。毎週2人が3人ずつ当たります。その順序は私に任せて下さい。年間で1・2回、15分前後の発表です。レジュメは必ず用意して下さい。レジュメの印刷は私の研究室に来て下されば、事務所でプリントします。発表の司会が私が務めます。発表が終わったら、質疑と討論に移ります。出来れば自主的に挙手して、意見を述べたり、質問して下さい。挙手が無い場合は私が順次指名しますので、意見・質問・感想などを述べ、発表者はそれに応答して下さい。この討論の部分にこの演習の重要性があります。毎回の発表者の発表内容こそは私のゼミのテキストと考えています。それをみんなで討論しながら、分析し、考察するわけです。それにより、発表者は新しい課題を見出すでしょう。また討論により他の方々もそのテーマに関しての認識を深め、自分の意見の形成に役立つと思います。後期の第1回目、後期の最終回、また所要所では私の小発表も入ります。
----------	--

準備学習	いつも、何かについて、何故だろうと考える習慣を付けて下さい。
履修上の留意点	発表者は発表内容の説得力を身に付けて下さい。聴く側の人は発表者の発表内容をよく理解することが大切です。また出来るだけ積極的に演習の討論に参加して、質問することが発表と同様に自分の論理性を高めるものであることを分かってほしいと思います。
成績評価の方法	小発表の内容と、毎週の質疑応答に積極的に参加することを評価の第一のポイントにします。次に演習Ⅰの受講者には1月15日締め切りで5枚以上(400字原稿用紙換算、ワープロによる作成が望ましい)の小論文の提出を求めます。小発表と小論文のテーマは異なってもかまいません。以上の小発表と小論文、そして質疑応答への積極的な参加を勧奨し、総合的に評価します。
教科書/テキスト	別にあります。
参考書	別にあります。

履修コード	011601 011602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 東アジアの唯識思想および如来蔵思想について研究し、卒業論文の指導を行う。また、高僧伝、仏教説話、如来・菩薩の信仰、儒教・仏教・道教の交渉などについても、研究・指導する。 (到達目標) 経典・論書・伝記などを精読し、資料を正確に読み解く力を身につける。また、随時研究発表を行い、卒業論文につながる研究テーマを発見する。
---------------------	--

授業スケジュール	本年度は、東アジアにおける唯識思想の展開について研究する。また各自の研究を指導し、卒業論文の中間発表を行う。 (前期) (1) 中国唯識の諸学派 (2~4) 地論学派の思想 (5~7) 撰論学派の思想 (8~10) 『統高僧伝』を読む (11~14) 4年生の研究発表 (15) まとめ (後期) (1~5) 唯識学派の思想 (6~7) 東アジアの仏性論争 (8~10) 『統高僧伝』を読む (11~14) 3年生の研究発表 (15) まとめ
----------	---

準備学習	・インド仏教史、中国仏教史を履修しておくことが望ましい。 ・漢文訓読の予習をして授業に臨むこと。意味が分からない語句は、必ず漢和辞典や仏教辞典で調べておくこと。
------	---

履修上の留意点	・仏教漢文入門の単位を取得していること(編入生を除く)。 ・資料の読解方法はもちろんのこと、学問的思考方法や研究方法を身につけるためには、学習の継続が必要不可欠である。毎回、休まず出席すること。 ・卒業論文で唯識思想の研究を希望する者は、中国古典語Ⅰも履修すること。
---------	---

成績評価の方法	平常点50%、研究発表やレポートなど課題の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	横山紘一『唯識思想入門』第三文明社、1976年。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	011701 011702
科目名	演習I 演習II
担当者名	四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業では、チベット語文献を講読する。主に大乘仏教の中観思想に関する文献を扱うが、その他、希望があれば歴史書を扱うこともある。 (到達目標) チベット語文献を通して仏教、とりわけ大乘仏教の中観思想に関する理解を深めることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回～第2回：オリエンテーション 第3回～第30回：テキストの講読
----------	---------------------------------------

準備学習	チベット語に関する基本的な知識が前提とされる。
履修上の留意点	授業の内容は一続きのものであるため、継続的に出席すること。
成績評価の方法	平常点のみ
教科書／テキスト	最初の授業において指示する。
参考書	特になし
その他	特になし

履修コード	004101
科目名	外国語禪書講読
担当者名	古山 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	外国人が外国語（主として英語）で著した、禅思想を主題とする書籍、または禅思想に大きな関心を寄せている著者の仏教書を講読する。特にこの授業では、禅学を専門分野としない海外の学僧ないし仏教研究者が著した書籍をとりあげ、「禅」に対する理解を、より広く多角的な視野のもとに涵養することを期す。
---------------------	--

授業スケジュール	ブッタタート比丘による以下の所論を講読する。
----------	------------------------

- ①『菩提樹の心髄—空性に関するブッダの教え』（Buddhadasa Bhikkhu . Heartwood of the Bodhi Tree . The Buddha's Teaching on Voidness . Trans. Dhammicayo . Boston : Wisdom Publications , 1994 . / ISBN-13: 978-0861710355 / 言語：英語）
- ②『縁起—實際的に依他的な生起』（Buddhadasa Bhikkhu . PATICCASAMUPPADA , Practical Dependent Origination . Trans. Steve Schmidt . Bangkok : Visuddhivhamma Fund , 1992 . / ISBN-13 : 978-6160303113 / 言語：英語）を講読する。

本書の著者ブッタタート（ブッダターサ）比丘は、前世紀におけるタイの高名な学僧の一人である。彼は、上座部仏教僧でありながらも、若い頃より中国禅に関心を寄せ、禅籍のタイ語訳にも携わったことがある。彼はまた、上座部仏教の伝統教学にとられない自由な立場での仏教を論じ、禅思想からの刺激と着想を得て独自の涅槃論を展開したことで知られている。ブッタタートの独創的な思想は、タイの開発僧らの実践理論にも影響を与えたと言われている。授業では、上に挙げた2書のうち、禅と空性について論じている章節をとりあげて講読する。

準備学習	特になし。
履修上の留意点	英語に自信がなくても履修可能である。英文法や語彙など英語の初歩的な事柄も含めて、丁寧に解説してゆく。授業は演習形式で進めてゆくので、できうる限りテキストの和訳（下訳）をおこなった上で授業に臨むこと。
成績評価の方法	授業への出席状況と学習意欲により評価する（定期試験は実施しない）。
教科書／テキスト	英和辞典またはその機能を有する電子辞書（収録語数が十万語以上であるものが好ましい）。講読に用いるテキストは初回授業で配布する。
参考書	初回の授業において指示する。
その他	初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので必ず出席すること。

履修コード	007001
科目名	外国語仏書講読
担当者名	木村 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国・日本の仏教では馴染みの薄い「仏教論理学」関連の英文を講読する。体質の違う仏教の姿をしることで、彼我の仏教の本質が浮き彫りになる。それを、英文を通じて、実感してもらうことが狙いである。中心とするテキストは、この分野の古典的名著、シチエルバツキー著 Buddhist Logic である。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Buddhist Logicと作者シチエルバツキー</li> <li>2. 仏教論理学の体質に関する英文ペーパー</li> <li>3. 仏教論理学の実態—『真理綱要』の英文説明</li> <li>4. Buddhist Logic緒言 1</li> <li>5. Buddhist Logic緒言 2</li> <li>6. Buddhist Logicイントロダクション 1</li> <li>7. Buddhist Logicイントロダクション 2</li> <li>8. Buddhist Logicディグナーガの生涯 1</li> <li>9. Buddhist Logicディグナーガの生涯 2</li> <li>10. Buddhist Logicダルマキールティの生涯 1</li> <li>11. Buddhist Logicダルマキールティの生涯 2</li> <li>12. Buddhist Logicダルマキールティの作品 1</li> <li>13. Buddhist Logicダルマキールティの作品 2</li> <li>14. Buddhist Logic『量評釈』の章の順序 1</li> <li>15. Buddhist Logic『量評釈』の章の順序 2</li> <li>16. Buddhist Logicダルマキールティの後継者達 1</li> <li>17. Buddhist Logicダルマキールティの後継者達 2</li> <li>18. トリパティのシチエルバツキー批判</li> <li>19. シュタインケルナーのシチエルバツキー批判</li> <li>20. ムケルジーの仏教論理学観 1</li> <li>21. ムケルジーの仏教論理学観 2</li> <li>22. ウエイマンの仏教論理学観</li> <li>23. 服部正明氏のディクナーガ論</li> <li>24. ルエッグの2種の否定</li> <li>25. スタールのインド定義論</li> <li>26. トムティルマンズのプラマーナ論</li> <li>27. 小野田俊蔵氏のチベット仏教論理学</li> <li>28. 梶山雄一氏の『論理の言葉』英訳本 1</li> <li>29. 梶山雄一氏の『論理の言葉』英訳本 2</li> <li>30. 梶山雄一氏の『論理の言葉』英訳本 3</li> </ol>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	特になし。
成績評価の方法	授業中、実際に、テキストを読んでもらって評価する。平常点100%。
教科書／テキスト	すべてコピーで配布する。
参考書	

履修コード	007511
科目名	漢詩作法
担当者名	須山 長治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	漢詩を学習してゆく。中国では、詩は志の之く所なり、といわれる。ものに感じて心が動き、志となったものを言葉にあらわす、すばらしい世界である。古代中国の詩がどういったものであり、それがどのような時代を経て、李白や杜甫といった唐代の詩人たちの作品になっていくか。多くの詩を鑑賞しながら、一般的な知識(文学史や韻・平仄等)も確認してゆき、一年をかけて詩が「言志」といわれる所以を考察していきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、①②導入・漢詩全般について。③～⑤詩経。⑥⑦楚辞。⑧⑨戦国時代の詩。⑩～⑫漢の時代の詩。⑬～⑮三国時代の詩。後期は、①②魏志倭人伝。③～⑤魏晋南北朝の詩。⑥唐詩全般。⑦⑧初唐の詩。⑨⑩盛唐の詩。⑪⑫中唐の詩。⑬⑭晩唐の詩。⑮まとめ。以上の、中国の壮大な詩の流れを学習する。具体的には『詩経』『楚辞』『文選』『玉台新詠』から選び、『三体詩』や『唐詩選』を使って講義を進めてゆく。いずれも鑑賞が主となるが、漢詩の細かい作法をもとに作詩にも言及したい。
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	積極的にノートをとる姿勢を求める。 漢和辞典を持参すること。
成績評価の方法	出席を重視し、学年末のレポート提出によって評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	『三体詩』一～四 村上哲見 中国古典選 朝日新聞社 『唐詩選』上中下 前野直彬 岩波文庫 その他、講義中その都度紹介する。

その他	特になし。
-----	-------

履修コード	006451
科目名	教化法
担当者名	永井 政之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講座は、現代仏教教団における伝道や教化について、そのノウハウを習得するためのものではありません。 むしろ仏教が社会とかかわりにおいてどのように「教え」を広めていったかを歴史の中で検証しつつ、民衆がその「教え」をどのように受け止めていったかを考えようとするものです。問題は多岐にわたりますので粘り強く受講してください。 「教化」と自らの生き方が不離のものであることを確認していただきたいと思います。
授業スケジュール	はじめに「教化」の意味を考えつつ問題の所在を考えます(1~2)。ついで初期仏教と民衆(3~4)、大乘仏教と民衆(5~6)、初期中国仏教と民衆(7~8)、初期禅宗と民衆(9~11)、唐代の禅と民衆(12~15)、宋代の禅と民衆(16~20)、明代以降の禅と民衆(21~23)、両祖【道元・瑩山】と民衆(24~27)、余論(28~30)の順で講義を行います。
準備学習	すでに学習したブツダの伝記や、中国・日本の仏教について、概略でも結構ですから復習してから授業に臨んで下さい。
履修上の留意点	単に講義をするだけでなく原史料を扱うことも少なくないので、必ず「漢和辞典」を用意すること。
成績評価の方法	年度末に筆記試験を行い、また普段の受講態度などをふくめて総合的に判断します。
教科書/テキスト	テキストはありません。参考資料は、必要に応じてコピーで配布します。
参考書	講義の中で随時紹介します。

履修コード	007301
科目名	キリスト教概論
担当者名	土居 由美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、仏教・イスラームと共に世界三大宗教の一つに位置付けられるキリスト教について、その聖典である旧・新約聖書を軸としつつ、歴史・風土・文化的側面なども踏まえながら、多様な側面から学ぶ。
授業スケジュール	概ね以下の内容を扱う。尚、各講義に用いる時間数は、毎回の授業の状況に応じて調整してゆく予定。 [前期] 1. 導入・アンケート、2. 授業の方法(宗教学的方法・神学的方法について) 3. 一神教とキリスト教、4. 旧約聖書(成立・構成・歴史・風土)、5. 旧約聖書(基本的世界観・神観・人間観/3回程度を予定)、6. 旧約聖書(モーセ五書と律法/数回を予定)、7. 旧約聖書(預言者(書))、8. 旧約聖書(諸書/2回程度を予定) [後期] 1. 導入・新約聖書(成立・構成)、2. 新約聖書(ナザレのイエスの登場・背景)、3. 新約聖書(イエスの活動と思想/マルコ福音書/2回程度を予定)、4. 新約聖書(イエスの思想と活動/マタイ福音書・ルカ福音書3回程度を予定)、5. 新約聖書(イエスの活動と思想/ヨハネ福音書・ヨハネ文書/2回程度を予定)、6. 新約聖書(原始キリスト教の形成/使徒言行録)、7. 新約聖書(原始キリスト教の形成/パウロの書簡/2回程度を予定)、8. その他の文書(黙示録等)
準備学習	授業は基本的に聖書の内容に沿って行われるので、授業毎に扱われる聖書の箇所にも前もって目を通しておいて下さい。 また、授業内で扱った箇所について、考えるべきポイントを幾つか提示しますので、それについて復習を兼ねて各自考察を重ねる習慣をつけて下さい。
履修上の留意点	講義は、適宜視聴覚教材なども用いながら進め、また、リアクションペーパーを用いて、授業への質問やコメントを提出する機会を設ける予定。従って、毎回の講義への積極的な取り組みが進められる。
成績評価の方法	以下の割合で総合的に評価する (出席30%、授業へのコメント10%、学年末のレポート60%)
教科書/テキスト	特に用いない。授業中にプリントを配布する。
参考書	講義内容に応じて、適宜授業中に指示する。

履修コード	005301
科目名	原始仏教
担当者名	片山 一良
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	原始仏教とは仏教の源泉である。いわゆる大乘仏教も小乗仏教も、あるいは上座部仏教もすべてここより発している。その教えとは何か、すなわち釈尊の智慧と慈悲による教えとは何か、をパーリ仏典(原始仏教聖典)の言葉より明らかにしたい。また、教えの根幹をなす「寂靜」、あるいは「禪」に触れつつ、我々の身近な問題についても考えたいと思う。
授業スケジュール	前半は仏伝を紹介しつつ、教えの基本となる縁起・四聖諦について、後半はパーリ仏典を読み、教えを確認しつつ、仏法について講じる。とくに前半は仏の伝統、波羅蜜行、誕生、修行・苦行、成道、説法、入滅について概観し、後半は『転法輪経』『無我相経』などを読み、八正道、三学の実践を、さらに慈悲の教えをも見ることにしたい。なお、毎回、『ダンマパダ』(法句)から、仏の真理の言葉を紹介したいと思う。
準備学習	従来の「仏教」に対する先入見を除き、心を静めてほしい。
履修上の留意点	パーリ仏典(原始仏教聖典)を直接に読むことを勧めたい。たとえば、『パーリ仏典・中部』の第61「アンバラッティカ・ラーフラ教誡経」、第62「大ラーフラ教誡経」など。
成績評価の方法	レポート(夏期)および年度末テストによる。
教科書/テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
参考書	片山一良『ブッダのことば パーリ仏典入門』(大法輪閣)、『ダンマパダ 全詩解説』(大蔵出版)など。

履修コード	006901
科目名	現代哲学概説
担当者名	久保 陽一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	世界の原理は古代ギリシア哲学では「自然」に、中世キリスト教哲学では「神」に、近代哲学では「人間」に認められた。だが19世紀後半以後のいわゆる現代哲学では、近代哲学を前提している点では共通しているものの、共通の積極的原理を見出すことは難しい。一方では、人間の本来のあり方を問うた、生の哲学や実存主義、他方では、認識や言語のあり方を探求した、新カント派、現象学、解釈学、分析哲学、また社会的変革をめざしたマルクス主義が並立している。そこで、講義では、近代哲学の諸問題を概観した後で、その諸問題を批判的に展開した現代哲学を概説する。
授業スケジュール	1~8 近代哲学の諸問題(自然観、認識論、実践哲学、歴史観) 9~14 マルクス主義、生の哲学 15 理解度の確認 16~29 現象学、ハイデッガー、分析哲学、物語の哲学 30 理解度の確認
準備学習	次回に取り上げる授業内容は予告するので、それについて教科書の該当箇所目を通しておくこと。
履修上の留意点	ノートをよく取ると同時に、自分の問題に引きつけて考えていくという積極的な姿勢が望ましい。
成績評価の方法	試験(前期と後期)と夏休みレポート(8割)、平常点(2割)によって評価する。
教科書/テキスト	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』(公論社)3,200円 ISBN4-7714-2002-5
参考書	久保陽一『ドイツ観念論への招待』(日本放送出版協会) 久保陽一『生と認識』(知泉書館)

履修コード	000401
科目名	坐禅I
担当者名	角田 泰隆 岩永 正晴
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾染汚の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正遍知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのでなければ、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所悟の仏法を行持することに勤めて行く。
授業スケジュール	全時間、坐禅実習・経行・講義を行い、前期（1～15）は『正法眼蔵坐禅儀』と『経行軌』について、後期（16～30）は『普勸坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。
準備学習	テキストの『坐禅講本』の「坐禅の実際とその心得」の第一章「坐禅の心得」と第二章「坐禅作法」をよく読んで授業に臨むこと。直堂当番に当たった者は、前回の直堂当番からきちんと進退作法を引き継ぎ、第三章「直堂の進退」を読んで確認しておくこと。
履修上の留意点	<p>仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。</p> <p>(1) 新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。</p> <p>(2) 時間厳守：始鈴10分前に全員入堂し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。</p> <p>(3) 私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。</p> <p>(4) 威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装を心掛け（夏季は白のYシャツ可）、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳肅に勤めること。</p> <p>(5) 直堂の当番：直堂を、毎時間2名（前策と後策）ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、予め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。</p>
成績評価の方法	<p>(1) 全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。</p> <p>(2) 追試・再試等による救済措置は、全く無い。</p>
教科書／テキスト	『坐禅講本』（更生社）2,266円
参考書	『坐禅用心記』『普勸坐禅儀不能語』
その他	授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

履修コード	000501
科目名	坐禅I
担当者名	永井 政之 松田 陽志
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾染汚の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正遍知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのでなければ、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所悟の仏法を行持することに勤めて行く。
授業スケジュール	全時間、坐禅実習・経行〔きん/ひん〕講義を行い、前期は『正法眼蔵坐禅儀』と『経行軌』について、後期は『普勸坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。
準備学習	テキストの『坐禅講本』の「坐禅の実際とその心得」の第一章「坐禅の心得」と第二章「坐禅作法」をよく読んで授業に臨むこと。直堂当番に当たった者は、前回の直堂当番からきちんと進退作法を引き継ぎ、第三章「直堂の進退」を読んで確認しておくこと。
履修上の留意点	<p>仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。</p> <p>(1) 新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。</p> <p>(2) 時間厳守：始鈴10分前に全員入堂し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。</p> <p>(3) 私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。</p> <p>(4) 威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装を心掛け（夏季は白のYシャツ可）、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳肅に勤めること。</p> <p>(5) 直堂の当番：直堂を、毎時間2名（前策と後策）ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、予め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。</p>
成績評価の方法	<p>(1) 全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。</p> <p>(2) 追試・再試等による救済措置は、全く無い。</p>
教科書／テキスト	『坐禅講本』（更生社）2,266円
参考書	『坐禅用心記』『普勸坐禅儀不能語』
その他	授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

履修コード	009001 009002
科目名	坐禅II 坐禅I
担当者名	佐藤 秀孝 松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	曹洞宗の坐禅の実践。
授業スケジュール	前半の実習時間は坐禅と経行(きんひん)の実習となる。経行の後は瑩山紹瑾禅師の『坐禅用心記』を講じる。 実習要領および履修に当たっての心構えは、すべて「坐禅I」に同じ。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	科目の性格上、遅刻は一切認められない。 実習に臨むに際しては、服装・言動など常に厳粛・整齊であることを要求するので、予めよく承知しておくこと。 なお、学年度最初の授業では、席次(単)の決定や必要な諸注意を行うので、履修する者は必ず出席すること。
成績評価の方法	授業実施回数に対する出席回数をもって機械的に判定する。レポート提出等による救済措置は一切行わないので注意すること。 また坐禅堂の内外における服装や態度に著しく適正を欠くと思われる場合や、講本の忘失などは厳しく減点の対象とする。
教科書/テキスト	『坐禅講本』(更正社)
参考書	

履修コード	008001
科目名	サンスクリット語上級
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教などのインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の上級篇。
授業スケジュール	定評ある下記の教本をテキストに、サンスクリット語に関係の深いデーヴァナーガリー文字に習熟し、サンスクリット文法を改めて確認すると共に、サンスクリット文解読のための実際的な力を養う。演習形式。 ◎インド古典語とサンスクリット(1~2) サンスクリット文法とインドの種々文字 ◎「ナラ王物語」(『マハーバーラタ』のサンスクリット文)の講読(3~) 輪読形式で文法的事項に配慮しつつとにかく読み進める ◎「ヒトバデーシャ」(サンスクリット散文)の講読
準備学習	サンスクリット語初級の文法書(ゴンダ著など)をしっかりと読み込んでおく。やり残した練習問題などもすべてやり終えておく。一日も早くデーヴァナーガリー文字が読めるようになるよう、文法書などを通じて、文字の勉強を開始しておく。教科書となるランマンの『サンスクリット読本』(A Sanskrit Reader)の入手を考えておく。
履修上の留意点	サンスクリット語初級程度の修了者であることが望ましい。
成績評価の方法	成績評価は、出席点を含む平常点をもってする。
教科書/テキスト	ランマン著『サンスクリット読本』(Charles R. Lanman, A Sanskrit Reader) OUP
参考書	辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

履修コード	007901
科目名	サンスクリット語初級
担当者名	金沢 篤
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教などインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の入門。
授業スケジュール	<p>定評ある下記の初等文法書に沿って、サンスクリット語の特徴・概要を知ると共に、適宜練習問題などをふんだんに実習して、サンスクリット文解読のための実際的・基礎的な力を養う。</p> <p>◎サンスクリットとは？(1～3)</p> <p>◎サンスクリット文法の概容(4～10) 文字・音論・曲用・活用などの基礎的文法事項を学ぶ</p> <p>◎サンスクリット文法の実践的学習(11～20) 短文からなる練習問題を用いてサンスクリット文法の理解に徹する</p> <p>◎サンスクリット文法知識の実際的活用(20～) 『ヒトパデーシャ』などの物語からの撰文を用いて実際的な知識を習得する</p>
準備学習	日本人にとって身近な仏教がインドに起源を持つものであることを深く自覚し、その仏教の教理などを伝えるお経などの仏典の多くがサンスクリット語とそれに関わるインドの古典語で書きあらわされていることを改めて思い起こし、その基礎となるサンスクリット語を学習するのだという意欲を高めて欲しい。サンスクリット語と同系統の言語を代表し、すでになじみである筈の英語の学習の手順などを想起しておく。ローマ字と、各種品詞など文法用語を改めて確認しておきたい。
履修上の留意点	予習・復習を怠らず、常に主体的・積極的に授業に参加することが望ましい。
成績評価の方法	平常点と期末・年度末の筆記試験。
教科書／テキスト	J・ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』(春秋社)
参考書	辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

履修コード	006811
科目名	宗教学概論
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 宗教学とはどのような学問か、それが個人や社会に対して成しうるあるいは成すべき役割・意義を、さまざまなトピックを取り上げて考える。 (到達目標)
---------------------	--

宗教学の基礎理論の習得をめざしている。古典的な文献をはじめ、関係所説を解説するのに加えて、なるべく宗教の具体相を紹介しながら授業を進め、受講生の興味を引き出したい。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、宗教学の性格</li> <li>2、宗教学の歴史(1)</li> <li>3、宗教学の歴史(2)</li> <li>4、「宗教」概念の捉え方(1)</li> <li>5、「宗教」概念の捉え方(2)</li> <li>6、宗教の類型(1)</li> <li>7、宗教の類型(2)</li> <li>8、宗教者の類型(1)</li> <li>9、宗教者の類型(2)</li> <li>10、宗教儀礼の諸形態(1)</li> <li>11、宗教儀礼の諸形態(2)</li> <li>12、修行の形と心理</li> <li>13、体験修行と現代人</li> <li>14、宗教と救い(1)</li> <li>15、宗教と救い(2)</li> <li>16、シャーマニズム</li> <li>17、アニミズムと自然観</li> <li>18、宗教と呪術</li> <li>19、日本人の宗教観(1)</li> <li>20、日本人の宗教観(2)</li> <li>21、死生観の諸相(1)</li> <li>22、死生観の諸相(2)</li> <li>23、人生儀礼(1)</li> <li>24、人生儀礼(2)</li> <li>25、消費社会と宗教</li> <li>26、情報化社会と宗教</li> <li>27、宗教の社会参加</li> <li>28、若者と宗教</li> <li>29、高齢化社会と宗教</li> <li>30、総括</li> </ol>
----------	--

準備学習	前回の授業内容を踏まえて進めるので、前回とったノートを復習して授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	年度末試験の成績80%、小論文10%、平常点10%とする。
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	使用しない。
----------	--------

参考書	『宗教学ハンドブック』（世界書院） その他、授業中に紹介する。
-----	------------------------------------

履修コード	006801
科目名	宗教学概論
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 宗教学は、諸宗教の多様な歴史や特質を明らかにし、また諸宗教が共有する特質をも考察する学問である。これに即し前期は、世界の諸宗教に関する基礎知識の習得を中心とし、後期はそのような知識を用いて宗教の共通性を捉える宗教学的なものを見方を身につけることを中心とする。</p> <p>(到達目標) 特定の信仰を持っている人、宗教には興味があるけれど信仰をもっていない人、宗教や信仰など自分には関係ないし必要もないと思っている人など、宗教については様々な立場からの理解や意見がある。宗教学は、これらの様々な意見を橋渡しする学問である。これを踏まえ本稿では、宗教伝統や宗教的現象について、無批判に肯定するのではなく、闇雲に批判し遠ざけるのでもない、そういった多面的な視点から宗教を理解できるようにすることを目標とする。より具体的には、諸宗教の多様性を理解すること、宗教の共通性を捉えること、宗教的な感性や思考や行動は、人間の営みの様々な領域において（無信仰と自認する人にさえ）見られるということ、これらを理解することが到達目標となる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 宗教学の歴史</li> <li>3. 宗教の多様性</li> <li>4. 宗教の種類</li> <li>5. ユダヤ教</li> <li>6. キリスト教1 歴史</li> <li>7. キリスト教2 思想</li> <li>8. キリスト教3 アメリカ社会とキリスト教</li> <li>9. イスラーム1 特質</li> <li>10. イスラーム2 信仰</li> <li>11. イスラーム3 イスラームのイメージ</li> <li>12. 神道</li> <li>13. 新宗教</li> <li>14. レポート・書く技術</li> <li>15. まとめ</li>   <li>16. 概説・宗教の見方</li> <li>17. 聖と俗</li> <li>18. 聖なる時空</li> <li>19. 中心のシンボリズム</li> <li>20. 儀礼とは</li> <li>21. 祭りの宗教性</li> <li>22. 呪術・まじない</li> <li>23. 神秘体験</li> <li>24. 妄信の心理学</li> <li>25. カルト問題</li> <li>26. 信仰を持つとは1</li> <li>27. 信仰を持つとは2</li> <li>28. 宗教と心理的發展</li> <li>29. 宗教とは、宗教学とは</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	宗教学の入門書（以下の参考書欄を参照）などを読んでおくと、本講義がより分かりやすくなる。
------	--

履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（授業時のコメントシートの内容・授業への参加意欲等）20%、</li> <li>・前期レポート（夏休み前に課題を提示・後期初回提出）30%、</li> <li>・後期の定期試験期間における筆記試験50%。</li> </ul>
---------	--

教科書／テキスト	なし
----------	----

参考書	<p>宗教学の入門書（いずれも授業時に使用するものではない）。</p> <p>石井研士 『プレステップ宗教学』 弘文堂、1890円、2010年。</p> <p>井上順孝 『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる宗教学』 日本実業出版社、1575円、2011年。</p> <p>釈徹宗 『ゼロからの宗教の授業』 東京書籍、1575円、2009年。</p>
-----	---

その他	なし
-----	----

履修コード	007101 007102
科目名	宗教教育
担当者名	小山 一乗

**授業概要/到達目標 (ねらい)**  
 用語「宗教教育」の教授概念には現今、宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派信仰教育、対宗教安全教育、宗教的寛容教育の五があり、論者は、先入観的に、いずれか一の義で解釈し、他は棄却してしまっているという傾向が重大問題としてある。当事態を解説・講義する。当事態の史的背景にある宗教教育改革を企図する対日米国占領政策のねらいに、米国流の宗教教育施策があったこと、また、日本国憲法20条の規定不備や教育基本法9条の補完規定の不徹底に起因する事後の紆余曲折事態が宗教教育論を迷走させた経緯を解説し講義をする。さらに新「教育基本法」の改正点について講義をする。その上で、あらためて「宗教の定義」の諸相を概観する。関係法規は宗教の定義を他に委ねている。

本講義は、決して、或る特定の宗教・宗派を価値ありとして判定して促進したり、または、価値なしと判定してそれを抑制したりするというそのような内容・方法を専らに考えるというような、とかくありがちないわゆる宗派信仰への導入をのみ考えるという狭義の宗教教育を構想する講義ではない。端的には自覚的寛容の態度育成の方途を構想する。種々の宗教と称されている現象事例を取り上げる。  
 具体的には、身振り・音声・文字等の各教材、マルチメディア等を用いて、様々な題材を取りあける。いわゆる神仏習合を彷彿とさせる広義の伊勢音頭、各地の民謡、歌謡曲、唱歌、教え歌、演歌、浪曲、説話、写真、古典音楽、詩、書など様々なジャンルの現象を観る。日常の實際生活の深層・表面層で、宗教的事柄が隠れたカリキュラム又は顕れたカリキュラムとして、人間形成に関与している諸相を考察する。

**授業スケジュール**  
 予定は、前期では、(1~2回)用語「宗教教育」の教授概念5類型、(3~4回)宗教的情操教育の成立をめぐる対立的2見解、(5~6回)学校教育法にみえる用語考「目的・目標」、「判断力・批判力」、「選択・決定」、(7~8回)教育観の分類:「開発・注入」「本覚・始覚」、(9~10回)「宗教の様々な分類」、「宗教の定義集」、あなたの定義を考える端緒、(11回)日本国憲法・教育基本法・初期社会科学習指導要領の相互補完関係(旧教育基本法第9条立法制定審議の推移の検証)、(12~13回)対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実宗教教育と宗教科教育(教育職員免許法に規定)との差異検討(一だれでもの国語教育と、誰でもではない国語科教育との比較からの援用論)  
 後期は、(14回)命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)考、世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、(15回)比較法各国の宗教教育、(16回)これからの宗教教育の教授概念検討(不均衡是正)政策・法律論議「何を教えることができないのか」の禁止事項教授概念論議、「何を教えることができるのか」の肯定的事項、(17~18回)シェラーの教授概念検討(意図的用法・成功的用法、行動的解釈・非-行動的解釈、事実的言明文・規範的言明文、(19~27回)宗教教育の指導計画(児童生徒の疑問態、国内外の種々の歌、種々の年中行事(節分、雛祭り、七夕など)、合格祈願、日常用語になった仏教用語(挨拶・会釈・我慢・玄關・工夫・寛悟・油断・娑婆等)、医療現場のターミナル・ケア等、通過儀礼(入学式、卒業式、入社式、成人式、結婚式、等)等考察、(28~29回)自由討議(これからの宗教教育のあり方)、(30回)まとめ

**準備学習**  
 次の事項に関連することを、各自なりに、考えておいてください。  
 (1) 用語「宗教教育」に関して、最新版の六法全書で、日本国憲法二〇条での脈絡、旧教育基本法(昭和二二年三月三十一日公布・施行)九条及び新教育基本法(平成一八年一二月二二日公布・施行)一五条での脈絡のそれぞれにおいて、法的思考から、いかに、教育的思考を喚起するのか、について、可能な限り、考えておくように。  
 (2) 宗教とは(定義)、教育とは(定義)、宗教教育とは(定義)を、考えてみてください。  
 (3) 家庭教育、学校教育、地域社会における教育の特性を考えてみてください。  
 (4) 童歌、童謡、歌、演歌、踊り、民謡、音頭、地域芸能、御詠歌、賛美歌、声明等に傾聴しておいてください。  
 (5) 少子化と、祭詞相続問題・財産相続問題。少子化と寺院経営問題を考えてみてください。  
 (6) 神社・寺院等の後継者問題(神社・寺院等における家庭教育の問題とこれからの課題)  
 (7) 人間として形が成るその種子が、先天的に潜在していると考えますか。それとも、先天的には潜在せず、後天的に、経験等によって、獲得されるものと考えますか。  
 (8) その他

**履修上の留意点**  
 宗教教育という用語への偏見・先入観をいったんは払拭して欲しい。教場の一時的移動指示掲示に注意すること。宗教学、宗教人類学等の関連授業科目を積極的に受講することを是非すすめたい。

**成績評価の方法**  
 レポート(夏季休暇後及び学年末提出、その他中間で適宜にレポート提出を求める)を基本的に評価する。出席も尊重する。

**教科書/テキスト**  
 教材は適宜プリントを配布する。

**参考書**  
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』(大法輪閣、¥1,600)

**その他**  
 講義形式で実施する。資料整理用のA4版ファイル表紙を用意すること。詳細は授業にて。

履修コード	003301
科目名	宗教史
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義では、日本宗教史を、仏教を中心に修験道・神道・キリスト教なども視野に入れて多角的に論じる。なるべく民衆側の視点に立って進めたい。時代的には近世までを扱う予定である。 (到達目標) 本講義は、日本における宗教の歴史を広範に学び、その基礎的な知識を習得することを目標としている。それも単に宗教的な知識を学ぶだけでなく、宗教と社会を結ぶさまざまな時代相を知ること、改めて日本の歴史に対する関心を喚起できればと考えている。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、宗教史という学問の性格について、</li> <li>2、宗教史研究の対象と方法</li> <li>3、日本宗教史研究の成果と課題</li> <li>4、民衆宗教史の捉え方</li> <li>5、古代の神祇信仰</li> <li>6、仏教伝来</li> <li>7、律令体制と仏教(1)</li> <li>8、律令体制と仏教(2)</li> <li>9、山岳宗教</li> <li>10、密教(1)</li> <li>11、密教(2)</li> <li>12、中世と宗教(仏教-1)</li> <li>13、中世と宗教(仏教-2)</li> <li>14、中世と宗教(仏教-3)</li> <li>15、中世と宗教(神道-1)</li> <li>16、中世と宗教(神道-2)</li> <li>17、修験道の形成と発展(1)</li> <li>18、修験道の形成と発展(2)</li> <li>19、神仏習合の諸形態(1)</li> <li>20、神仏習合の諸形態(2)</li> <li>21、徳川幕府の宗教政策(1)</li> <li>22、徳川幕府の宗教政策(2)</li> <li>23、近世と宗教(仏教-1)</li> <li>24、近世と宗教(仏教-2)</li> <li>25、近世と宗教(神道-1)</li> <li>26、近世と宗教(神道-2)</li> <li>27、近世と宗教(キリスト教)</li> <li>28、近世と宗教(庶民信仰)</li> <li>29、幕末の世相</li> <li>30、総括</li> </ol>
----------	--

準備学習	前回の授業内容を踏まえて進めるので、前回とったノートに目を通して授業に臨むこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末試験の成績80%、レポート10%、平常点10%とする。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業の中で適宜紹介する。

履修コード	006001
科目名	宗教哲学
担当者名	河谷 淳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宗教がなにかを「信じる」ことであり、哲学が既存の世界観を「疑う」ことだとすれば、両者は互いに対立するように見えるかもしれない。だが、古代ギリシア以来の西洋思想史を概観してみるならばそうした理解は必ずしも正しいとは言えない。宗教哲学とはそうした信と知が交錯する地点に位置づけることができる。この授業では主にキリスト教的哲学を題材として取り上げはするものの、教義の解説を目指すのではなく、「信じる」という人間の営みがどのような地平において成立するのかについて哲学の側から考えることを主要な目的とする。また、西洋哲学史の概略や基本的な哲学用語についても理解を深めてもらえるよう配慮したい。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論: 宗教哲学とは何か</li> <li>2. 神話と哲学: ギリシア神話 (1)</li> <li>3. 神話と哲学: ギリシア神話 (2)</li> <li>4. 神話と哲学: ギリシア哲学 (1)</li> <li>5. 神話と哲学: ギリシア哲学 (2)</li> <li>6. 宗教と言語: 論理実証主義による宗教批判 (1)</li> <li>7. 宗教と言語: 論理実証主義による宗教批判 (2)</li> <li>8. 信念と合理性との対立</li> <li>9. 信念と合理性との相補的關係 (1)</li> <li>10. 信念と合理性との相補的關係 (2)</li> <li>11. 信念と合理性との相補的關係 (3)</li> <li>12. 神義論: 神の存在と悪の存在の両立可能性</li> <li>13. 神義論: 自由意志論 (1)</li> <li>14. 神義論: 自由意志論 (2)</li> <li>15. 前期授業内容の理解度の確認</li> <li>16. 神の存在証明: 宇宙論的証明 (1)</li> <li>17. 神の存在証明: 宇宙論的証明 (2)</li> <li>18. 神の存在証明: 目的論的証明 (1)</li> <li>19. 神の存在証明: 目的論的証明 (2)</li> <li>20. 神の存在証明: 存在論的証明 (1)</li> <li>21. 神の存在証明: 存在論的証明 (2)</li> <li>22. 倫理と宗教との相補的關係: カント倫理学 (1)</li> <li>23. 倫理と宗教との相補的關係: カント倫理学 (2)</li> <li>24. 倫理と宗教との相補的關係: カント倫理学 (3)</li> <li>25. 「天使」の哲学 (1): 天使とは何か</li> <li>26. 「天使」の哲学 (2): 天使の存在可能性</li> <li>27. 「天使」の哲学 (3): 天使の存在と心の独立存在可能性</li> <li>28. 「天使」の哲学 (4): 天使の倫理学</li> <li>29. 30. まとめと理解度の確認</li> </ol>
準備学習	教科書の対応箇所あるいは授業中に紹介した参考文献について目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	中間試験 (前期最終授業日に実施) と期末試験 (それぞれ40点満点) ならびに平常点との総合点で評価する。
教科書/テキスト	上枝美典『「神」という謎-宗教哲学入門-』[第2版]、世界思想社
参考書	

履修コード	007201
科目名	宗教法概説
担当者名	村上 興匡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>信教の自由によってどんな宗教を信じるかということが個人の権利として認められている一方、宗教団体は社会の中で一定の公的な責任を果たすべきだとされる。オウム真理教事件をきっかけとして、その責任をより果たすよう宗教法人法が改正された。ここ数年の公益法人制度見直し論でも、宗教法人は無関係であるとはいえない。</p> <p>こうした宗教をめぐる法的環境の変化の背景には、日本人の宗教に対する意識やつきあい方の変化が存在している。法律の条文の解釈に終始するのではなく、宗教と法制度についての基礎的な考え方について学ぶとともに、背景となる社会変化と宗教との関係に踏み込んで考察する。講義だけでなくビデオ映像などをできるだけ利用したい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>背景となる近代以降の社会変化について目配りしながら、できるだけ具体的な事件、裁判等についてみることで、信教の自由、政教分離、宗教団体の公益性等、幅広く宗教と法律とをめぐると問題についての基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>前期は、明治以降の社会変動と日本人の宗教行動・意識の変容を扱いながら、憲法における宗教の扱い、宗教法人、宗教法人法の枠組みについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本人の宗教への態度：宗教を信じる人3割→結婚式の過半数がキリスト教</li> <li>・信教の自由と公的な場での宗教の制限</li> <li>・教育現場での宗教の取り扱い：「こころの教育」の必要性和宗教教育の禁止</li> <li>・明治以降の宗教法制度の変遷と宗教ブーム</li> </ul> <p>後期は、海外との法制度における宗教・宗教団体の扱いの相違、信教の自由、政教分離の具体的な裁判・問題を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各国の宗教法制度とカルト対策</li> <li>・宗教法人の管理運営と公益性</li> <li>・宗教的団体に関連した裁判事例 (墓地、税金、子ども、信者の人権、代表権争い等々)</li> </ul>
----------	---

準備学習	過去に問題になった事例だけではなく、現在起こっている問題を積極的に取り上げたいと考えている。宗教に関わる問題に関連した事件、報道がなされたときには、適宜それを取り上げて解説する。いくつか主要なテーマを、講義の流れの中であらかじめあげておくので、ただ講義を聴くだけでなく、実際に起こった事件について、関連する新聞資料などを調べるなど、積極的に事前学習を進めること。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	試験とレポート。授業時に数回ミニレポートを課し、評価の一部に加える。
教科書／テキスト	授業の中で、適宜、プリントを配布する。
参考書	授業の中で、適宜紹介する。

履修コード	000701
科目名	宗典
担当者名	角田 泰隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宗典とは、曹洞宗の典籍を言うが、この授業では特に曹洞宗の両祖である道元禪師と瑩山禪師が著した典籍の中から重要であると思われる説示を取り上げて解説し、曹洞宗の思想の特徴を習得してもらうことを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	はじめに、曹洞宗の一仏両祖（釈尊・道元禪師・瑩山禪師）について概説し（1～3）、その後、道元禪師の著作（『正法眼蔵』・『弁道話』・『永平広録』・『学道用心集』・『典座教訓』等）、瑩山禪師の著作（『伝光録』『洞谷記』等）の中から重要と思われる説示を取り上げて講義する（4～30）。
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	教科書は用いず毎回資料を配付して講義するので、講義の内容を配付資料あるいはノートにしっかりと記録すること。（定期試験には配付資料と自筆ノートの持ち込みを許可する）配付資料はYeStudyからダウンロードできるようにするので、授業を欠席した学生は、印刷して各自学習すること。

成績評価の方法	定期試験の成績60%、レポート（年1回出題）10%、平常点30%とする。
教科書／テキスト	なし。毎回、資料を配布する。
参考書	角田泰隆著『禅のすすめ―道元のことば』NHK出版、970円、ISBN 978-4-14-084159-4 ほか講義の中で、紹介する。

履修コード	000601
科目名	宗典
担当者名	松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本曹洞宗の開祖道元禅師の行実(伝記)と教説を、『正法眼蔵』をはじめとする著述や伝記資料に基づいて概説・講読する。特に道元禅師の仏道を求める視点と姿勢について考える。 (到達目標) 先学の研究者の論点や解釈を知ること、道元禅師の生き方と教えを、自分が把握することの意味を考えること。
---------------------	---

授業スケジュール	道元禅師の伝記・著作資料・思想内容の三分類により、各資料を随時配付する。 第1回: ガイダンスと伝記資料『三大尊行状記』 第2回: 伝記資料『御遺言記録』『建誓記』『伝光録』 第3回: 著作『正法眼蔵随聞記』・道元禅師の父親(実父)について① 第4回: 道元禅師の父親(実父)②、母親について 第5回: 著作『永平広録』、出家の道心①—『正法眼蔵随聞記』— 第6回: 出家の道心②—『学道用心集』— 第7回: 出家の道心③—比叡山を下りる経緯— 第8回: 出家の道心④、著作『学道用心集』 第9回: 威儀即仏法・作法は宗旨①—『永平御遺言記録』— 第10回: 威儀即仏法・作法は宗旨②—『正法眼蔵』「遍参」「洗淨」— 第11回: 能忍と宋西—戒律主義— 第12回: 明全と道元①—『正法眼蔵随聞記』— 第13回: 明全と道元②—『伝光録』— 第14回: 入宋と新到列位是正の問題① 第15回: 予備 第16回: 新到列位是正の問題② 第17回: 典座との出会い—『典座教訓』①— 第18回: 典座との出会い—『典座教訓』②—、著作『永平清規』 第19回: 諸山歴遊、竜樹身現円月相—『正法眼蔵』「仏性」— 第20回: 如浄との面授①—『正法眼蔵』「面授」— 第21回: 如浄との面授②—『三大尊行状記』—、著作『宝慶記』 第22回: 如浄との面授③—『正法眼蔵』「行持」「仏経」「看経」— 第23回: 如浄との面授④—『正法眼蔵』「三昧王三昧」「大悟」— 第24回: 嗣法相続から帰国、興聖寺の創建 第25回: 著作『普勧坐禅儀』、『(真字)正法眼蔵』 第26回: 永平寺から鎌倉行化、示寂—『永平広録』— 第27回: 著作『(仮字)正法眼蔵』① 第28回: 著作『(仮字)正法眼蔵』② 第29回: 滅後の教団 第30回: 予備
----------	--

準備学習	授業前に前回の配布資料を読んで内容を思い出ししておくこと。 授業で取り上げた参考文献を図書館などで確認しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ教場の前に座ること。</li> <li>・私語厳禁。</li> <li>・毎回出席し、配布する資料を整理・保存しておくこと。</li> <li>・資料の余白等を活用し、重要だと考える内容をまとめておくこと。</li> <li>・授業中に小テスト(4回実施予定)を行うので、授業で取り上げる重要かつ基本的な述語(人名、著作名など)を自分で整理して把握すること。</li> <li>・小テスト終了後は、不正解の箇所を必ず復習しておくこと。</li> </ul>
---------	---

成績評価の方法	平常点(20%)と授業内に行う小テスト(20%)及び年度末試験(60%)によって評価する。
教科書/テキスト	毎回資料を配布し、資料にしたがって講義する。
参考書	配布資料や授業の中で、随時紹介する。

履修コード	005601
科目名	浄土学概論
担当者名	曾根 宣雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教は、「悟りの仏教」と「救いの仏教」に大別することができる。このうち浄土教は、阿弥陀仏の救済を願う「救いの仏教」である。この授業では、浄土宗の宗祖法然が撰述した『選択本願念仏集(選択集)』を中心に、その教えの特徴について学ぶ。 (到達目標) この講義の到達目標は、浄土教の基本思想を正しく把握することである。「悟りの仏教」に対して何故に「救いの仏教」が出現し発達したのかという視座に立ちつつ、具体的にはその人間観を踏まえながら「教判・念仏・三心・阿弥陀仏及び極楽浄土」等について学び、その教学の特徴を捉え、浄土教に対する知識の習得を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	【前期】 1. 浄土教とは 2. 浄土教の祖師 3. 浄土教の人間観 4. 法然の浄土宗開宗① 5. 法然の浄土宗開宗② 6. 法然教学における『選択集』 7. 『選択集』第一章① 聖道浄土二門判 8. 『選択集』第一章② 浄土三部経 9. 『選択集』第二章① 正行と雑行 10. 『選択集』第二章② 二行の得失 11. 『選択集』第三章① 阿弥陀仏論 12. 『選択集』第三章② 四十八願 13. 『選択集』第三章③ 念仏の選択 14. 『選択集』第三章④ 念声は一 15. 前期のまとめ  【後期】 1. 『選択集』第四章 三輩念仏往生 2. 『選択集』第五章・第六章 念仏利益・末法と念仏 3. 『選択集』第七章 光明撰取 4. 『選択集』第八章① 三心 5. 『選択集』第八章② 二河白道の譬え・往相と還相 6. 『選択集』第九章・第十章 四修と化仏讃嘆 7. 『選択集』第十一章 雑善と念仏 8. 『選択集』第十二章 釈尊の付属 9. 『選択集』第十三章・第十四章 念仏多善根・諸仏の証誠 10. 『選択集』第十五章 諸仏の護念 11. 『選択集』第十六章 八種選択 12. 『選択集』のまとめ 念仏と諸行 13. 阿弥陀仏と極楽浄土① 14. 阿弥陀仏と極楽浄土② 15. 後期のまとめ
----------	---

準備学習	『選択集』の該当箇所については、書き下し文で良いので一読しておくこと。毎回レジュメを配布するので、前回の授業内容について復習して臨むこと。
------	---

履修上の留意点
---------

成績評価の方法	試験60%、レポート20%、平常点20%
---------	----------------------

教科書/テキスト	1) 法然 2) 選択本願念仏集 3) 浄土宗 4) 1000円 5) ISBN4-88363-224-5 C3015
----------	--

参考書	1) 石井教道著 2) 選択集全講 3) 平楽寺書店 4) 8190円 5) ISBN4-8313-0179-5 C0015
-----	---

履修コード	007801
科目名	書道
担当者名	綾部 宏行
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「書道」は素晴らしい東洋文化である。文学であり美学であり、「道」としての精神性も求められる。その「書道」を、講義と実習により追求してゆく。
授業スケジュール	-前期- 1. 書道入門 2. 自分の名前を書こう (全員に手本を書きます) 3. 行書入門 4. 草書入門 5. 楷書入門 6. 実用書入門 -後期- 1. 王羲之を学ぼう 2. 顔真卿を学ぼう 3. 空海を学ぼう 4. 墨跡を学ぼう 5. 書と禅 6. 書道史と書論
準備学習	行書・草書の基本を予習しておくと共に、書道具についても予習されたい。
履修上の留意点	実習科目であるので、半紙が書ける程度の道具を準備されたい。(道具は手持ちのものでかまいません。また初回に丁寧に説明しますので、ない者でも大丈夫です。)
成績評価の方法	成績は、提出物(書作品)や、レポート、出席等の平常点等を勘案して評価する。
教科書/テキスト	特にテキストはなし。
参考書	
その他	本講座では必ずしも上手な書のみを期待しない。自分なりに味わいのある書を心がけて欲しい。

履修コード	005401
科目名	真言学概論
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は歴史と教理をバランスよく扱い、概説と読解を交互に行う。前期はインド・中国における密教を中心に、後期は弘法大師空海を中心に扱う。前後期ともに三回に一回の割合で『大日経疏』『弁顕密二教論』といった漢文文献を読解していく。読解には漢文の基礎的知識が必要で、十分な予習が必要とされる。時間に余裕があれば、課外授業として密教寺院を訪れ、護摩などの儀礼を見ていきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) イントロダクション (2) 密教と弘法大師空海 (3) 密教史 概説 (4) 『大日経疏』読解 (1) (5) 密教史 インド密教 『大日経』と『金剛頂経』 (6) 密教史 インド密教/中国密教 金剛智三蔵と不空三蔵 (7) 『大日経疏』読解 (2) (8) 密教史 中国密教 善無畏三蔵と一行禪師 (9) 密教教理 曼荼羅と儀礼 (10) 『大日経疏』読解 (3) (11) 密教史 真言宗史 (12) 密教教理 真言・陀羅尼 (13) 『大日経疏』読解 (4) (14) 前期まとめ (15) 課外授業等 (16) 後期イントロダクション (17) 弘法大師の生涯 概説 (18) 弘法大師の生涯 南都仏教との関わり (19) 『弁顕密二教論』読解 (1) (20) 弘法大師の生涯 入唐留学と恵果和尚 (21) 弘法大師の生涯 伝教大師との関わり (22) 『弁顕密二教論』読解 (2) (23) 弘法大師の教え 顕密二教判 (24) 弘法大師の教え 即身成佛 (25) 『弁顕密二教論』読解 (3) (26) 弘法大師の教え 法身説法 (27) 弘法大師の教え 十住心教判 (28) 『弁顕密二教論』読解 (4) (29) 後期まとめ (30) 課外授業等
----------	--

準備学習	参考書を読んでおいてほしい
履修上の留意点	展覧会や寺院訪問に基づいてのレポートを提出してもらおう。単位取得には積極的に授業に参加する態度が必要とされる。Yestudyを用いて資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。
成績評価の方法	基本的には授業への参加姿勢・レポートで評価する。ただし履修人数が多い場合には試験を行う。
教科書/テキスト	参考書を教科書に準ずるものとして扱う。
参考書	渡辺昭宏, 宮坂有勝『沙門空海』(ちくま学芸文庫)1155円 ISBN:978-4480080561 金岡秀友『密教の哲学』(講談社学術文庫)絶版 ISBN:978-4061588844

履修コード	005801
科目名	神道概説
担当者名	嵐 義人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 わが国固有の宗教である「神道」について、基本的な事項につき概観することを目的とする。ただ、仏教との対比、ならびに神道の祭式・作法については主たる講義対象とはしない。</p>
---------------------	--

到達目標(ねらい)

授業の狙いとしては、次の三つの目標掲げる。一つは、神道史的理解であり、カミ観・神祇制度・神道思想についての歴史の変遷を大掴みできるように、約半分の時間を神道史を核とする講義に充てる。二つ目は、神道を生み、それを今日にまで継承させた種々の環境について理解するよう、風土や生活、そして日本人そのものの特質を学ぶ神道風土論の講義で構成する。三つ目は、神職のための神道ではなく、一般日本人にとっての神道の視点から、神々をどのように捉え、どのような関係の中で生活しているのかを学ぶ神道を基礎とした日本文化論を講ずる。この講義は、真面目に受講さえすれば、余程の神道否定論者でない限り、上記三つの理解は容易であると考えられる。したがって、各時間の基本事項の理解を以て到達目標とする。

授業スケジュール	<p>第1回 (導入) 講師の自己紹介。神道系大學。神職について。単位と予習・復習。  第2回 (風土Ⅰ) わが国風土の特質。温暖・湿润。大地・風・魚・鳥・文化の聚まる国。  第3回 (風土Ⅱ) わが国固有の動植物の特徵。日本人の特質。米の文化。  第4回 (生活Ⅰ) 生活の中の神道。武道・芸ごとと神道。年中行事。参詣から鉄道へ。  第5回 (生活Ⅱ) 神社参拝。祭り。お助け神と崇り神。パワースポット。占い。  第6回 (生活Ⅲ) はれ・け論。お祓い。みそぎ。明き・淨き・正しき・直き心。  第7回 (歴史Ⅰ) 磐座(いわくら)。神籬(ひもろぎ)。神々と日本神話。  第8回 (歴史Ⅱ) 祝詞(のりと)。神楽歌(かぐらうた)。言霊(ことだま)。  第9回 (歴史Ⅲ) 律令神祇制度(りつりょうじんぎせいど)。  第10回 (歴史Ⅳ) 延喜式と神宮儀式帳。二十二社。一宮(いちのみや)・二宮。総社。  第11回 (歴史Ⅴ) 武士と産土神(うぶすながみ)。起請文(きしょうもん)。  第12回 (歴史Ⅵ) 末法・元寇・伊勢神道。両部神道。神皇正統記。古事記最古の写本。  第13回 (歴史Ⅶ) 熊野詣で。吉田神道と宗源宣旨(そうげんせんじ)。伊勢神宮の再興。  第14回 (歴史Ⅷ) 江戸時代の神道制度。山王一実神道。儒家神道。白川神道。  第15回 (質問と発表) 事前提出の質問票・発表題目により発表者を指名し、質問発表する。  第16回 (カミとは) 前期の講義を振り返りつつ、神道の本質究明への狙いをつける。  第17回 (歴史Ⅸ) 国学と神道。塙保己一の事業と信心。  第18回 (歴史Ⅹ) 近代の神祇制度と神社行政。植民地における神社参拝。  第19回 (歴史Ⅺ) 戦後の神道界。神道指令。伊勢神宮林の危機。靖国問題。  第20回 (宗教Ⅰ) 山林科擲と修験道。道教と神道。儒教と神道。仏教と神道。  第21回 (宗教Ⅱ) 神仏習合。神仏分離。神社合祀。氏子と神社。  第22回 (日本文化Ⅰ) 神道に日本文化の基本を見る。外国人の眼に映った日本—賛美論。  第23回 (日本文化Ⅱ) 外国人の眼に映った日本—批判説。  第24回 (日本文化Ⅲ) 日本語の特質。日本人の耳・声・歌。日本人の会話。  第25回 (神々Ⅰ) 天照大御神。須佐之男命。大國主命。  第26回 (神々Ⅱ) 高御産巢日神。建御雷之神。大物主神。木花之佐久夜毗売。山佐知毗古。  第27回 (神々Ⅲ) 豊宇氣比売神。豊玉毗売。玉依毗売。  第28回 (神々Ⅳ) 八百万の神。宮中三殿の神。野の神。屋敷神。船霊。  第29回 (質問と発表) 前期と同様。  第30回 (まとめ)</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>前期・後期の期末に行う〈質問〉と〈発展〉への積極的授業参加を高く評価したい。これによって本授業への取り組みの程度が把握できると考える。そのためには授業時に気づいた疑問や確認したい内容などを掘り下げる姿勢が大事であろう。この授業の履修に当たっては、一つひとつ理解するための努力を惜しまない心懸けで臨んでほしい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>試験(ペーパーテスト)のほかにレポートを課し、合わせて70%の評価とする(レポートは25%を目安とする)。平常点は30%を配点し、質問・発表を重視する。ペーパーテストは、語彙、事象、思想等を数問ずつ問い、レポートは各自が理解した神道観について問うこととしたい。</p>
---------	---

教科書/テキスト	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
----------	------------------------

参考書	<p>阪本是丸・石井研士編『プレステップ 神道学』弘文堂刊。本体1800円。ISBN978-4-335-00079-9。</p>
-----	--

履修コード	070901
科目名	心理学概論
担当者名	間島 英俊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	心理学は人間の心の理解を科学的に究明する学問のひとつである。研究方法はさまざまであるが、その目的は同じである。この講義では、諸君らがその目的を考えるために、心理学の各領域の基本的事実を、わたしたちの日常生活の中から説明していきます。 この科目は1年生の必須科目であるので、1、2年次履修可能な専門の選択科目並びに2年次必須の心理学研究法への基礎知識の習得を到達目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学概論を学ぶこと全般について</li> <li>2 ひととなりを考える：パーソナリティ心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 パーソナリティの定義、アクティビティ1, 2</li> <li>2-2 パーソナリティ・テストの実施・解釈：アクティビティ3, 4</li> <li>2-3 パーソナリティ理論 アクティビティ5, 6, 7, 8</li> <li>2-4 人物評価：プロファイリング 自己評価・理解 アクティビティ9</li> </ol> </li> <li>3 自己へのタイムトラベリング：発達心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1 発達の定義 アクティビティ1, 2, 3</li> <li>3-2 発達段階 アクティビティ4、ピアジェの認知発達段階、エリクソンのライフサイクル</li> <li>3-3 遺伝か環境か：成長、成熟、学習(経験)</li> <li>3-4 知能 知能の定義 知能の測定・解釈 アクティビティ5</li> </ol> </li> <li>4 “こころ”のゆきつまり：臨床心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>4-1 正常と異常について アクティビティ1 シャイな私って？</li> <li>4-2 青年期の適応 成熟した人格とは</li> <li>4-3 対人恐怖意識 対人不安 孤独感</li> <li>4-4 青年期の精神障害と自己体験</li> </ol> </li> <li>5 ものをものとする：知覚心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>5-1 みること・きくこと アクティビティ1, 2, 3, 4</li> <li>5-2 みるためのメカニズム ものがみえるための神経システム</li> <li>5-3 きくためのメカニズム ものがきこえるための神経システム</li> <li>5-4 みるための処理モデル(1)－「データ駆動モデル」、「概念駆動型モデル」 アクティビティ6</li> </ol> </li> <li>6 学ぶこと・考えること・覚えること：学習心理学。認知心理学 <ol style="list-style-type: none"> <li>6-1 学ぶことは ひとの行動・種類</li> <li>6-2 学習に関する諸学説：連合理論(刺激-反応理論；Stimulus-Response理論)</li> <li>6-3 学習に関する諸学説：認知理論(記号-意味理論；Sign-Significate理論)</li> <li>6-4 社会的学習(social learning)</li> <li>6-5 覚えることとは 記憶の3段階説 アクティビティ1, 2, 3</li> <li>6-6 忘れることとは</li> <li>6-7 記憶を測るもの アクティビティ4</li> <li>6-8 考えることとは 言語発達</li> <li>6-9 推理と問題解決 創造性 アクティビティ5</li> </ol> </li> </ol>
----------	--

準備学習	教科書は下記に指定したものを使用しますが、学問的つながりからすべて教科書通りには講義をしません。基本は講義前に配布する講義内容を骨子としますので、事前にその日の講義予定項目については教科書にて十分な予習をしてきてください。また教える的確さならびに理解度を確保するため、抜き打ち的に単元途中または終了後に小テストを実施しますので復習もまたしてください。
------	---

履修上の留意点	毎年、朝1講時から講義開始をしています。講義はもとよりシラバスにも記載しているように、講義内にてアクティビティや実験・調査が実施されている場合があるので、不参加にならぬよう遅刻はないように願います。 この講義は卒論、修論のデータ収集に講義の震度や時間数を調整しながら率先して協力をしていきますので理解願いたい。 調査・実験協力者となることにより、次に諸君らの卒論における実施者としての姿勢に備えるためです。それと同時に「実験参加カード」を配布し、その参加ポイント数により成績評価に反映されます。
---------	---

成績評価の方法	3分の2以上の出席は必須です。基本的には最終講義時間にて実施される授業時間内試験(定期試験と同価値)にて8割、残り2割は実験・調査参加(1割)並びに課題(1割)により評価される。
---------	---

教科書/テキスト	根本和雄・小島康次編著「理解とふれあいの心理学」ミネルヴァ書房¥2500
----------	--------------------------------------

参考書	参考書は特に指定しないが、講義に参考になる書物については、都度紹介します。
-----	---------------------------------------

その他	講義内容、資料はその都度配布しますが、配布当日欠席した者への後日配布はしないので、休んだ分は友人に依頼してもらるかコピーにて補充のこと。
-----	--

履修コード	006701 006702
科目名	青少年指導演習
担当者名	渡邊 浩司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>青少年とは概ね小学生から比較的若い成人まで(7, 8歳から30歳前後)を指す。この時期は人の心理社会的発達上最も重要な期間であると言える。この授業では青少年への理解とその指導の実践について、おもに心理学的見地から理論と方法そして実践を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業のねらいはコミュニケーションスキルの習得、向上にある。指導という行為はコミュニケーションの一形態である。効果的な指導を行うために必要とされるのはコミュニケーションスキルとなる。さらにスキルの習得、向上に不可欠なのが対人理解である。対する相手の状況状態を正しく理解することが良好なコミュニケーションへとつながる。</p> <p>すなわち、理解を伴った技術の習得が到達目標となる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>下記の内容それぞれについて2~3回かけて授業を行う。原則記載順に進めるが状況に応じて変更もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体験的学習の意義について</li> <li>2. 対人援助・指導の実践について</li> <li>3. 発達論から見た青少年期について</li> <li>4. 人を理解することについて</li> <li>5. 人とかかわることについて</li> <li>6. 「ことば」の持つ力について</li> <li>7. 話の聴き方と伝え方について</li> <li>8. 個々人の特異性と一般性について</li> <li>9. 事例研究</li> <li>10. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	<p>参考図書あるいは他書を利用してライフサイクル論の概略について触れておくこと。 毎回授業の最後に次回授業の予定をお知らせするので予習をしておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>演習科目なので実習を含んだinteractiveな授業となる。遅刻や欠席のないよう心掛けること。 主体的な参加態度を望む。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点40%、レポート60%(年2回30%づつ)とする。</p>
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	<p>適宜指示します。</p>
----------	-----------------

参考書	<p>馬場礼子, 永井徹 共著『ライフサイクルの臨床心理学』、培風館、2310円、ISBN-13: 978-4563056100</p>
-----	--

相川充著、『人づきあいの技術—ソーシャルスキルの心理学 (セレクション社会心理学)』、サイエンス社、1890円、ISBN-13: 978-4781912332

履修コード	006601 006602
科目名	青少年問題研究
担当者名	讃岐 真佐子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 「青少年」つまり児童期から青年期(小学生～20代前半頃)に生じ得る諸問題について、実際の事例や講師の約20年余にわたる臨床心理士としての経験を基に、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ。</p> <p>(到達目標) この時期の青少年に起こり得る諸問題を、発達や事例に則して生き生きと学ぶことを通し、具体的に理解する力を培うことを目標とする。現代は不適応状態や問題が長引く傾向にあり、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型へ、さらに言語で訴えるよりも身体症状として現す等、様々な変化が見られるように思う。このような諸変化の中、この授業では不登校、いじめ、非行、ひきこもり等々のテーマを取り上げ、複数の観点からこれらを詳細に学んでいく。また適宜視聴覚教材も用いて、現代の青少年を取り巻く家族や社会への理解も深めたいと思う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 導入 : この一年間の講義の進め方、「問題」の二面性について</p> <p>(2) 現代の青少年が抱える「諸問題」の特徴について</p> <p>(3～5) カウンセリングの定義、及び「ことばの多義性」を巡って</p> <p>(6) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その①(孤立する高齢者を巡って)</p> <p>(7) 「不登校」の名称に関する歴史の変遷</p> <p>(8～9) 「不登校」の事例</p> <p>(10～11) 児童期から青年期の心理に関する講義 一特にいわゆる「いじめ」を中心として</p> <p>(12～13) 「いじめ」の事例</p> <p>(14) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その②(家族間の「虐待」をめぐる)</p> <p>(15) 前期のまとめ、「夏休みレポート」について</p> <p>(16) 戦後日本における非行の歴史の変遷について</p> <p>(17) 非行における、いわゆる“切れる”ことを巡って(論文購読)</p> <p>(18～19) 「ひきこもり」について、ビデオ教材視聴も交えて学ぶ</p> <p>(20～21) 青少年期における、自身の心と身体への様々な違和感としての「対人恐怖」や「摂食障害」について事例を基に学ぶ</p> <p>(22) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その③</p> <p>(23～26) 思春期以降に起こりうる様々な心の危機、その対応について(視聴覚的素材も用いる)</p> <p>(27～29) 思春期以前に起こりうる様々な心の危機(「発達障がい」も含む)、その対応について(視聴覚的素材も用いる)</p> <p>(30) 全体のまとめ、定期試験について</p> <p>・ただし上記内容は、その時の授業の流れや重点の置き方によって臨機応変に若干変更や前後することもあり得る。</p>
----------	---

準備学習	<p>準備学習は特に必要ないが、下記の「履修上の留意点」でも記したように、毎回授業の最後には、その日の感想や質問などを書いて提出してもらう。これは次回授業への大切な「橋渡し」となる作業であり、“おざなりの”感想や白紙提出は、当授業参加への意欲なしとみなす。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>授業は講義中心となるだろうが、その日の内容への感想や質問を毎回書いて提出してもらう。そして必ず次回授業の最初に、前回の感想等で受講生全員で共有したい内容や、講師の心に残ったものを読み上げ(氏名は読まず、匿名性を保持する)、また質問などに適宜答えていきたいと思う。この毎回の作業を通して、受講生同士のフィード・バックも(間接的ではあるが)自ずと進んでいくように思う。また授業態度や毎回の感想・質問などの平常点も重視する。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>定期試験の成績60%、夏休みレポート10%、平常点30%</p> <p>また定期試験において、この授業で学んだ内容をほとんど記さず、ネットで調べたような内容をただ単に暗記、記述したような場合は(毎年、複数の者が全く同じ文章を記述)、大幅な減点もしくはその箇所を評価対象外とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>必要な資料は適宜配布する</p>
参考書	<p>岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』岩波書店 現代文庫、840円</p> <p>河合隼雄著『カウンセリングを語る(上下)』講談社+α文庫、890円</p> <p>河合隼雄著『大人になることのむずかしさ』岩波書店、1785円</p> <p>河合隼雄著『日本人の心のゆくえ』岩波書店、1700円</p> <p>小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』心理臨床の実際2 金子書店、4200円</p>

履修コード	004701
科目名	禅学特講III
担当者名	清野 宏道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【講義概要】 道元禅師の教えは様々な仏教思想を受容した上に成り立っていると云えます。従って、禅師の思想を正しく理解しようとするならば、種々の経論や伝統的な仏教教理を踏まえる必要があるのです。本講義では『正法眼蔵』を中心として道元禅師の思想形成とその展開について学びます。</p>
---------------------	--

【到達目標】  
本講義の最終目標は、種々の経典・教理の特徴を理解した上で『正法眼蔵』など道元禅師の著述を正確に読み解き、その思想の大綱を把握することです。

そのため、第一に道元禅師が用いている経典や論書を通して伝統的な仏教思想・教理の特徴を理解します。

第二に、それを通して漢文に慣れて頂きます。

第三に、道元禅師の思想に対する現在の研究課題を把握し、『正法眼蔵』全体の思想的な特徴を捉えます。

第四に、それらの諸思想が成立した背景を探り、その展開状況を把握することを目指します。

講義の到達目標は以上の通りですが、受講者各位は本講義を通して卒業論文に繋がる研究テーマを見つけること。仏教に対する見識を養うと共に自分自身の思想を成熟させ、人生観を確立することを目標として頂きたい。

授業スケジュール	<p>〔前期〕</p> <p>第1回～第2回 経典の成立</p> <p>第3回～第5回 『大品般若経』の構造と空思想</p> <p>第6回～第8回 『大般涅槃経』の教説と仏性思想</p> <p>第7回～第10回 『妙法蓮華経』の構成と経説</p> <p>第11、12回 隋唐の仏教（華嚴・法相・律・浄土・禪）</p> <p>第13回～第15回 天台教学の体系と展開</p> <p>〔後期〕</p> <p>第16回 禅宗の特色</p> <p>第17回 道元禅師の生涯と著述</p> <p>第18回 道元禅師が受用した仏教典籍</p> <p>第19回～第24回 道元禅師と『妙法蓮華経』</p> <p>第25回～第28回 道元禅師と天台教学</p> <p>第29回 道元禅師と各種の仏教学</p> <p>第30回 道元禅の現代的展開</p>
----------	--

理解度を確認するため、定期試験以外に講義内で複数回レポートや小テストを行い、評価の対象とします。

準備学習	1年次の必修科目である「仏教と人間」は本講義の基礎となるため、しっかりと復習しておいて下さい。また、講義の中で紹介する参考書などをなるべく多く読んで下さい。
------	--

履修上の留意点	本講義専用のノートを準備し、講義内容をしっかり書き取って下さい。また、本講義では質問に答える形で受講者にも発言してもらいます。私語厳禁。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (30%) ・講義中のレポートや小テスト (20%) ・夏期休業中のレポート (20%) ・学期末試験 (30%) を総合して評価します。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しません。講義時にプリントを配布します。
----------	--------------------------

参考書	講義中に告知します。
-----	------------

履修コード	004801
科目名	禅学特講IV
担当者名	伊藤 良久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、日本曹洞宗教団史の概要について理解することを目標とする。中でも太祖瑩山禪師の生涯や思想をはじめ、その弟子や法孫達の活躍、そして全国展開にいたる流れを学ぶ。特に、瑩山禪師によって開創された總持寺や永光寺など、教団展開の拠点となった寺院の歴史についても詳しく講じていきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：曹洞宗教団史概観、第2～3回：道元禪師の生涯と興聖寺・永平寺、第4回：道元禪師滅後の永平寺僧団、第5回：徹通義介禪師と大乘寺、第6～10回：瑩山禪師の生涯と思想、第11回：瑩山禪師の世寿58歳説と62歳説、第12回：瑩山禪師と大乘寺、第13～15回：永光寺の開創、第16～19回：總持寺の開創、第20～22回：瑩山禪師の弟子達、第23～26回：永光寺と總持寺の輪住制度、第27～28回：明峰派と峨山派の展開、第29～30回：教団の発展と禅思想の展開。
----------	---

準備学習	瑩山禪師伝や、曹洞宗教団史に関する研究書に目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	現在曹洞宗寺院は各地に存在しているが、どのように全国に広がっていったのか、教団展開の淵源やその時代に生きた祖師方の思想を常に意識すること。
成績評価の方法	出席等の平常点とレポート課題によって評価する。
教科書／テキスト	必要に応じて資料を配付する。
参考書	『瑩山禅』全12巻（山喜房仏書林）、その他は随時紹介する。

履修コード	000901 000902
科目名	禅思想概説 禅学研究I
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は中国禅宗史の知識をふまえて、「禅とは何か」を概観するものである。近年の禅宗史では、敦煌文献や『祖堂集』等の利用によって、従来の初期禅宗史は全面的に書き換えられた。一方で、1000年以上にわたって『景德伝燈録』（1004年成立）等に基づいて、禅の歴史は刻まれてきた。たとえば、禅宗の開祖の達磨と梁の武帝との問答は、禅宗史では歴史的な史実ではないと結論されている。道元禪師はもちろん敦煌文献等を知らない。それでは伝世資料に基づいた禅思想が意味ないかと言うと、先にいうように既に1000年以上の歴史が刻まれているのである。この授業では道元禪師の著である『正法眼蔵行持』を学ぶのに、必要な資料についてしっかりとその性格を把握することから始めたい。その上で、禅宗史の意味するものと、道元の意図するものとを合わせ学ぶことによって、禅思想を学んで行きたい。
---------------------	--

授業スケジュール	教科書の『道元禪師 正法眼蔵行持に学ぶ』を利用しながら講義を進めたい。『行持』は、上下2巻でできていて、下巻より先に撰述されたと思われる。下巻は菩提達磨・芙蓉道楷・天童如浄がその中心をしめる。特に芙蓉道楷・天童如浄は、道元禪師の思想を考える上で重要であり、禅宗史では深く学ぶことができないので、時間を費やして学んで行きたい。禅宗史と同じ禅者を扱うに当たっても、原典が示されているので、漢文文献になれることも同時に果たしたい。『行持』には多くの禅者が取り上げられているので、30回では終われないかもしれないが、出来るだけ多くの禅者を取り上げたい。
----------	--

準備学習	前の年度で中国禅宗史を学んだことになっているので、何度も前年度の関連の書を読み返すこと。
履修上の留意点	教科書の『道元禪師 正法眼蔵行持に学ぶ』を読み、予備知識を付けておく。
成績評価の方法	夏期休暇後に提出された教科書の感想文（400字詰め5枚程度）のレポート20点と学年末の筆記試験80点で評価する。成績にはある程度出席数を考慮する。
教科書／テキスト	石井修道『道元禪師 正法眼蔵行持に学ぶ』（禅文化研究所）2,415円
参考書	石井修道『中国禅宗史話』（禅文化研究所）3,675円、絶版なので古書のみ 小川 隆『語録のこぼれ』（禅文化研究所）2,415円 『禅学大辞典』（大修館書店）、入矢義高等『禅語辞典』（思文閣書店）。

履修コード	008911
科目名	禅心理学
担当者名	池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 仏教学部では「坐禅」が必修科目として存在するが、本講ではその坐禅(只管打坐)に対する理解を深め、よりよい状態で実践できるよう周辺諸科学の成果を学んでいく。また“禅”を取り巻く様々な問題にもふれてゆきたい。</p> <p>(到達目標) まず第一に、道元禅師の只管打坐の特徴を第三者にわかりやすく説明できるようになってほしい。具体的には、宗学的視点から道元禅の特徴を把握し、他の瞑想法との違いを明確に押さえてもらいたい。また、科学的知見からも説明できるよう、坐禅の医学的・生理心理学的研究成果を学んでほしい。</p> <p>第二に、現在実践されている禅のさまざまな文化(修行・葬祭等)について説明できるよう、周辺諸科学の成果を学んでほしい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>まず道元禅師の坐禅観をおさらいした後、坐禅の医学的・生理心理学的研究成果を学んでいく。その後、禅に関するさまざまな話題を概観したい。また只管打坐との対比のため、各種瞑想法も実践する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期導入</li> <li>2～3. 道元禅師の坐禅観</li> <li>4～5. 「禅心理学」の発展と課題</li> <li>6～8. 坐禅の脳波的研究</li> <li>9～10. 坐禅と姿勢</li> <li>11～12. 坐禅と呼吸</li> <li>13～14. 坐禅の神経科学的研究</li> <li>15. 理解度の確認</li> <li>16. 後期導入</li> <li>17～18. 魔境(禅病)</li> <li>19～20. 変性意識状態</li> <li>21～23. 修行者の心理的発達</li> <li>24～25. 叢林(修行)生活</li> <li>26～27. 読経</li> <li>28～29. 葬祭</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	坐禅や瞑想などを日常的に実践し、さまざまな疑問をもって授業に臨んでもらいたい。また、学部の授業では接することの少ない医学や心理学などの情報にも、普段から注意を払ってほしい。
履修上の留意点	専用のノートを用意すること。
成績評価の方法	定期試験80%、小テスト(不定期)20%。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	講義中に随時紹介する。

履修コード	002501
科目名	禅籍講読I
担当者名	程 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	禅籍講読Iは、中国初期禅宗の文献を適宜取り上げて講読し、それぞれの禅思想の特色を明らかにするものである。
---------------------	--

授業スケジュール	取り扱う禅宗文献は、主に初祖とされる菩提達摩から、五家の成立以前までのものとする。具体的には、まず禅籍全般(3～4回)について説明し、それから達摩の語録とされる『二入四行論』(9～10回)、東山法門のテキストである『修心要論』(4～5回)、六祖慧能の語録とされる『六祖壇経』(6～7回)などの禅籍を順次取り上げて、解題を行ってから、それぞれの思想的特色を講義していきたい。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義内容を必ずノートすること。配付資料とノートに基づいて復習すること。出席点を評価にしているので、欠席しないこと。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート(20%)、期末試験(60%)、出欠点(20%)の三つを総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	適宜に紹介する。

履修コード	002601
科目名	禅籍講読II
担当者名	佐藤 秀孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	最初に講義形式で中国・日本における禅宗清規の歴史を概観し、ついで『景德伝燈録』に所収される「禅門規式」を講読し、唐代の百丈懷海(749-814)が理想とした禅宗清規成立期の精神を窺う。つぎに鎌倉期に渡来した臨済宗の蘭溪道隆(大覚禪師、1213-1278)の「坐禅儀」を講読し、同時代に活動した曹洞宗の永平道元(1200-1253)の「普勸坐禅儀」などと比較する。価値観が現代とはかなり異なっているが、禅宗における修行生活の意義を読み解くことによって、中国・日本の禅僧が理想とした叢林のありようを窺いたい。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回から第5回は中国・日本における禅宗清規の歴史について概観する。第6回から第16回は『景德伝燈録』に所収される「禅門規式」を講読する。第17回から第20回は中国・日本で撰述された坐禅儀について概観する。第21回から最終回までは蘭溪道隆の「坐禅儀」を講読し、道元の『普勸坐禅儀』や瑩山紹瑾の『坐禅用心記』などと比較検討する。ただし、回数はあくまで目安なので、講義・講読の進行状況によって多少変更する可能性が存する。
----------	--

準備学習	禅宗の清規や坐禅あるいは日常生活について、関連する書籍や情報資料を読むなどの努力をしてほしい。
------	---

履修上の留意点	禅の文献はその多くが漢字で書かれた史料なので、漢文に慣れる努力をしてもらいたい。出席と授業中の対応も重視するので、積極的に授業に取り組む努力をしていただきたい。参考文献や配布資料は日頃から目を通しておくこと。
---------	--

成績評価の方法	学年末の試験と出席点に基づいて成績評価を行う。ただし、授業中の読解状況やレポート提出なども考慮する。
---------	--

教科書/テキスト	テキストはコピーしたものを配布する。
----------	--------------------

参考書	鏡島元隆等編『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁刊)などを講義の中で適宜に指示する。
-----	---

履修コード	002701
科目名	禅籍講読III
担当者名	岩永 正晴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目は日本禅宗初期の典籍を講読するものである。また禅学科の選択必修科目であるので、これまで広く読まれてきた基本的な典籍を講読しなければならないと考える。よって本年度は道元禪師撰『学道用心集』を取り上げることとする。『学道用心集』は明治18年に定められた曹洞宗大学林専門本校の授業科目でも宗部正講の初級に定められており、曹洞宗旨を学ぶためには必須の基本的な典籍とみなされてきた。この科目の目的に添うものと思う。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 授業の概要の説明 第2回～第4回 『学道用心集』の解題(著者、成立、流布等の解説)。 第5回以降 『学道用心集』の講読。
----------	--

準備学習	漢文で書かれた典籍を講読するので、漢文に慣れる努力をして、積極的に授業に望んで貰いたい。
------	--

履修上の留意点	紹介する参考書等は積極的に読んで貰いたい。
---------	-----------------------

成績評価の方法	学年末に実施する試験(定期試験、70点満点)と平常点(30点満点)によって成績評価を行う。
---------	---

教科書/テキスト	テキストはコピーしたものを配布する。
----------	--------------------

参考書	授業中(第2回～第4回)にリストを配布し紹介する。主なものとしては、『道元禪師全集』第5巻(春秋社)、角田泰隆『道元入門』(大蔵出版)、大本山永平寺編『学道用心集の参究』(国書刊行会)、篠原寿雄『学道用心集—学習と修行のこころえ—』(大東出版)、『道元禪のあゆみ1』(吉川弘文館)等。
-----	--

履修コード	006101 006102
科目名	禅美術
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>禅宗では、はじめ偶像を崇拜せず、自己の内面に仏性を悟ることを旨としていた。そのため偶像や仏画などが制作されることはなかったが、宋代になると僧侶たちが余暇に水墨画を描くようになり、これが宮廷の庇護を受けるなどして職業画家まで出現するようになる。描かれた題材は、山水・花鳥・祖師などで、これらを総称して禅絵画という。日本では、留学僧によって鎌倉時代に禅絵画が伝わり、ついには日本独自の水墨画を完成させた。</p> <p>本講義では、絵画を中心に話を進めるが、彫刻や墨蹟、庭園などについても触れてゆきたい。そして、作品に見え隠れする制作者の宗教性と美意識を考察したい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	講義ガイダンスと宋代の社会と仏教 (1~3)、北宋の絵画 (4~7)、南宋の絵画 (8~11)、元の絵画 (12~15)、鎌倉時代の絵画 (16~19)、室町時代の絵画 (20~23)、枯山水の庭園 (24~25)、頂相彫刻 (26~28)、禅宗の建築と美意識 (29~30)
----------	--

準備学習	図書館に行き、禅美術関連の書籍を何冊か読んでおくと、講義内容が理解しやすいと思うので、時間のあるときには是非通読しておいてほしい。
------	---

履修上の留意点	講義内容を留めるのみならず、講義の際に映すスライドなどももしっかり観察すること。また美術館・博物館に行き、実物を観察する機会を多くつくること。
---------	---

成績評価の方法	定期試験、出席率、レポートなどで総合的に評価する。
---------	---------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	参考書・参考論文などは講義中に紹介する。
-----	----------------------

履修コード	008401
科目名	チベット語上級
担当者名	木村 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	チベット語の仏教文献を読めるようになるのが狙いである。チャンキヤの『宗義書』『毘婆沙師』章を読む。本書は、その種の文献の白眉ともいえる。内容は、理路整然としているが、初学者にとっては、かなりハードルの高いものである。背景にある文献やその扱いは、丁寧に説明し、文法的な解説も行うので、ペースはゆっくりである。出席者には、自分なりの万全な予習を期待する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チベット語仏教文献読解のために</li> <li>2. 「毘婆沙師」とは何か</li> <li>3. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本的考え 1</li> <li>4. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本的考え 2</li> <li>5. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本文献 1</li> <li>6. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本文献 2</li> <li>7. チャンキヤ「毘婆沙師」の基本文献 3</li> <li>8. チャンキヤ教理「二諦」説 1</li> <li>9. チャンキヤ教理「二諦」説 2</li> <li>10. チャンキヤ教理「二諦」説 3</li> <li>11. チャンキヤ教理「二諦」説 4</li> <li>12. チャンキヤ教理「蘊・処・界」 1</li> <li>13. チャンキヤ教理「蘊・処・界」 2</li> <li>14. チャンキヤ教理「蘊・処・界」 3</li> <li>15. チャンキヤ教理「有漏・無漏」 1</li> <li>16. チャンキヤ教理「有漏・無漏」 2</li> <li>17. チャンキヤ教理「有漏・無漏」 3</li> <li>18. チャンキヤ教理「五位」説 1</li> <li>19. チャンキヤ教理「五位」説 2</li> <li>20. チャンキヤ教理「五位」説 3</li> <li>21. チャンキヤ教理「三時」説 1</li> <li>22. チャンキヤ教理「三時」説 2</li> <li>23. チャンキヤ教理「三時」説 3</li> <li>24. チャンキヤ教理「三時」説 4</li> <li>25. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 1</li> <li>26. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 2</li> <li>27. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 3</li> <li>28. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 4</li> <li>29. チャンキヤ教理「外界対象の考察」 5</li> <li>30. 他の「宗義書」の紹介</li> </ol>
----------	--

準備学習	特にないが、毎回の予習・復習は必ず行ってもらいたい。
------	----------------------------

履修上の留意点	受講者は、初級をマスターした者がベターであるが、そうでない者でもやる気があれば可である。
---------	--

成績評価の方法	授業中、実際に、テキストを読んでもらうので、評価はすべて平常点で行う。平常点100%
---------	--

教科書/テキスト	すべてコピーで配布する。
----------	--------------

参考書	
-----	--

履修コード	008301
科目名	チベット語初級
担当者名	松本 史朗
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	チベット語は、仏教思想の研究には不可欠な言語である。何故ならば、チベット語に訳された仏典、及び、チベット人仏教者が著した仏典を学ぶことがなければ、インド仏教の思想的研究は不可能であると、今日では考えられているからである。本講義のねらいは、このような仏教研究の目的のために、チベット語の文法を習得してもらうことであり、到達目標はチベット語初級文法の習得である。また文法事項の確認のため、最後に簡単な読み物も読むことにする。
授業スケジュール	講義のスケジュールは、教科書に従い、ほぼ次の通りである。 (第1回) チベット文字と発音の説明 (第2回) チベット文字の習得 (第3回) 前接字・基字の説明 (第4回) 後接字の説明 (第5回) 再後接字の説明 (第6回) 有冠字の説明 (第7回) 名詞 (第8回) 敬語 (第9回) 形容詞 (第10回) 副詞 (第11-15回) 動詞 (第16-19回) 助動詞 (第20-23回) 助動詞 (第24-26回) 文法のまとめ (第27-28回) 『ミラレーバ伝』を読む (第29-30回) 『般若心経』を読む
準備学習	特に必要ないが、チベットに関する基礎的な知識を持つことが望ましい。
履修上の留意点	授業初回に必ず出席すること。第2回以降からの受講は学習上不可能である。チベット文字を習得するまで、困難ではあるが、頑張ってもらいたい。
成績評価の方法	平常点(100%)だけにより、成績を評価する。 この平常点には、出席(50%)以外に授業中に行う文字習得の為の小テスト(20%)、及びチベット文読解(30%)の結果を含む。
教科書/テキスト	最初の授業で指示する山口瑞鳳博士の文法書だけを使用する。出版された文法書は使用しないので注意。
参考書	

履修コード	001901
科目名	チベット仏教史
担当者名	四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) チベット仏教は、長い間アジアの一辺境地の仏教であると理解されてきた。しかし、近年の仏教研究においては、チベット仏教の意義が見直されつつある。授業では、仏教研究においてチベット仏教が有する重要性を様々な角度から説明し、とりわけ思想史的な観点からチベット仏教の形成、その変遷、そしてその現状を解説していきたい。</p> <p>(到達目標) チベット仏教研究は、その成立の歴史的経緯から、インド仏教研究の補完的な役割を果たしてきた。しかし、チベット仏教は独自の思想体系を有し、その資料は膨大なものに及ぶものである。したがって、この授業では、まずチベット仏教の独自性を理解してもらうことを目標とする。また、チベット仏教は、日本仏教やタイ仏教と共に、現在も生きた伝統を有する仏教であることより、チベット仏教との比較・検討を通して、現代の日本社会において仏教がどのような役割を果たしているのかについても理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回: チベット仏教を学ぶ意義 / チベット建国神話  第2回: チベット仏教を歪めたもの  第3回: チベット語の文献資料について  第4回: チベットと日本人 — 河口慧海を中心に  第5回: 前期伝播時代 (吐蕃王国時代) における仏教 (1) — 仏教の伝来  第6回: 前期伝播時代における仏教 (2) — 仏教の興隆  第7回: サムイェの宗論 (1) — 歴史的経緯  第8回: サムイェの宗論 (2) — 論争の意義  第9回: 前期伝播時代の終焉 (吐蕃王国の崩壊) / 後期伝播時代のはじまり (1) — 東西チベットにおける仏教の復興 / リンチェンサンポ等  第10回: 後期伝播時代のはじまり (2) — カダム派 (アティシャ / ドムトウン等)  第11回: インド・チベットにおける中観思想 (1)  第12回: インド・チベットにおける中観思想 (2)  第13回: チベット密教 (1)  第14回: チベット密教 (2)  第15回: チベット密教 (3)  第16回: ニンマ派 (ソクチェン) / ボン経 / 埋蔵文献  第17回: カギユ派 (マハームドラー / ナーローの六法)  第18回: サキヤ派 (道果説)  第19回: 転生ラマ / 施主とラマ  第20回: サキヤ派とモンゴル帝国  第21回: ゲルク派 (1) — 開祖ツォンカパの伝記と思想 (1)  第22回: ゲルク派 (2) — 開祖ツォンカパの伝記と思想 (2)  第23回: ゲルク派 (3) — 初期ゲルク派の歴史  第24回: ゲルク派 (4) — ダライラマ5世~6世を巡って  第25回: ゲルク派 (5) — ダライラマ13世を巡って  第26回: チベット動乱 — ダライラマ14世を巡って  第27回: ゲンドウン・チュベル  第28回: リメ (無宗派運動) 運動  第29回: ゲルク派の大僧院における仏教の学習  第30回: これまでの講義をふりかえって</p>
----------	--

準備学習	チベット仏教に関する概説書を一冊でよいから読んでおいてもらいたい。
履修上の留意点	授業内容は一続きのものであるため、継続的に出席すること。
成績評価の方法	年度末の試験により成績を評価する。
教科書/テキスト	最初の授業において指示する。
参考書	山口瑞鳳『チベット』東京大学出版会、上巻、1987、下巻、1988 松本史朗『チベット仏教哲学』大蔵出版、1997 その他、最初の授業において指示する。
その他	特になし

履修コード	003511
科目名	中国古典語Ⅰ
担当者名	吉村 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 東アジアでは漢訳経典が「聖典」とされ、高僧の著作もほとんどが漢文で書かれている。この授業では、その中から名著を選んで講読する。 (到達目標) 1年次の必修科目である仏教漢文入門の教養を基礎として、さらに応用的な仏教漢文の読み方に習熟するとともに、仏典を正確かつ批判的に読む力を身につける。
授業スケジュール	本年度は世親の『唯識三十頌』（第1偈～第15偈）を講読する。同書は唯識の教義をわずか30の偈頌でまとめた名著である。内容の理解を深めるため、『唯識三十頌』の注釈書である『成唯識論』もあわせて講読する。 (前期) (1) 『唯識三十頌』と『成唯識論』 (2～15) 阿頼耶識 (後期) (1～10) 末那識 (11～15) 前六識
準備学習	・仏教漢文入門の内容をよく復習しておくこと。 ・漢文訓読の予習をして授業に臨むこと。意味の分からない語句は、必ず漢和辞典や仏教辞典で調べておくこと。
履修上の留意点	・仏教漢文入門の単位を取得していること（編入生、聴講生を除く）。 ・語学の習得には学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、課題の成績50%を原則とする。試験は行わない。
教科書／テキスト	太田久紀『唯識三十頌要講』中山書房仏書林、1989年。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	008511
科目名	中国古典語Ⅱ
担当者名	小川 隆
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国古典語（いわゆる『漢文』）読解の初歩的訓練を行う。「Ⅱ」となっているが「Ⅰ」よりも高度な教材をやるわけではなく、基礎から順に学んでゆく。ただ、原文⇒訓読⇒解釈という通常の方法でなく、原文⇒字義と語法の分析⇒解釈⇒訓読という順序で講読を行う。訓読で読むのではなく、語学的に読み解いた結果を訓読で表記する、という趣旨である。
授業スケジュール	(1)～(3) 簡単な例文を使って、漢文の基本構造を学ぶ。 (4)～(15) 下記教科書を使って散文を選読。中国古典語の字義と語法を学ぶ。 (16)～(20) プリントを使って、詩（いわゆる「漢詩」）の規則と解読法を学ぶ。平仄・押韻・対句など今体詩の基本形式を習得する。 (20)～(30) 仏典・禅籍の選読。中古漢語・近代漢語の語彙と語法をふまえ、経論・僧伝・禅語録などの読み方を学ぶ。
準備学習	高校程度の漢文についてまったく学習経験の無い人は、山田史生『受験生のための一夜漬け漢文教室』（ちくまプリマー新書093）か奥平卓『漢文の読み方』（岩波ジュニア新書147）を、5月連休明けぐらいまでに読んでおくこと。
履修上の留意点	毎回、予習と復習が必要。一回に読む量はごく少ないので、原文を手で書き写し、辞書をよくひいておくこと。現代中国語の学習経験がある人は、中国語による音読にもぜひ挑戦してほしい。
成績評価の方法	毎回、輪読形式で行い、実際の読解水準をもとに平常点で評価する。定期試験は行わない。
教科書／テキスト	高橋忠彦『三国志で攻略！ センター漢文12』旺文社・大学JUKEN新書 840円＋税 ISBN978-4-01-033790-5 返り点・送り仮名の無い原文のみのプリントを別途配布。
参考書	戸川・佐藤・濱口『全訳 漢辞海』三省堂 2900円＋税 ISBN978-4-385-14047-6

履修コード	002301
科目名	中国禅宗史
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は中国禅宗史を概観するものである。禅宗史を学ぶのに必要な資料にまず触れ、勉強の仕方、折りに触れたい。具体的には、唐・五代・宋・元代の最も魅力ある禅者を一人一人禅宗史上で位置づける中で学んで行きたい。年間、数限られた人数しか触れられないであろうが、しかし、できるだけ数多くの禅者に触れてみたい。特に唐・五代を中心に①菩提達磨②二祖慧可③五祖弘忍④六祖慧能⑤青原行思⑥南嶽懷讓⑦石頭希遷⑧馬祖道一⑨藥山惟儼⑩百丈懷海⑪雲巖曇晟⑫南泉普願⑬趙州從諗⑭瀉山靈祐⑮黃檗希運⑯洞山良价⑰臨濟義玄⑱雪峰義存⑲玄沙師備⑳雲門文偃及び法眼文益などを取り上げる。宋・元では、①芙蓉道楷②宏智正覺③圓悟克勤④大慧宗杲⑤中峰明本などを取り上げる。興味ある行状はできるだけ触れるつもりである。
---------------------	---

授業スケジュール	教科書の『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』を利用しながら講義を進めたい。
準備学習	中国禅宗史に関する著書は、図書館にたくさん所蔵されているので、多く利用して関心をもつこと。

履修上の留意点	教科書を読み、予備知識を付けておく。
成績評価の方法	夏期休暇後に提出された教科書の感想文(400字詰め10枚程度)のレポート20点と学年末の筆記試験80点で評価する。出席は毎回取るので、成績には必ず出席数を考慮する。

教科書/テキスト	石井修道『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』(禅文化研究所) 2, 415円
参考書	小川 隆『語録のことは』(禅文化研究所) 2,415円 『禅学大辞典』(大修館書店)、入矢義高等『禅語辞典』(思文閣書店)。

履修コード	007401
科目名	中国哲学史
担当者名	前川 亨

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東アジア世界において重要な精神的な位置を占める中国の哲学・思想・宗教について概観する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本年度は宋代から近代までの時代を取り扱う。この時代を論ずる場合のキーワードの一つは「近代(化)」ということになるであろう。講義の具体的な内容としては以下のものを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国思想史を学ぶ意義</li> <li>・唐代の社会と文化</li> <li>・唐宋変革の問題</li> <li>・科挙、士大夫の登場</li> <li>・宋代禅宗の思想(大慧宗杲)</li> <li>・慶曆の新義、北宋五子</li> <li>・北宋五子(周濂溪)</li> <li>・北宋五子(張横渠)</li> <li>・北宋五子(程明道・程伊川・邵康節)</li> <li>・福建道学と湖学</li> <li>・朱子学の構造(存在論・宇宙論)</li> <li>・朱子学の構造(人間論・修養論)</li> <li>・朱子学の四書解釈</li> <li>・朱子と陸象山</li> <li>・南宋末における朱子学の展開</li> <li>・朝鮮半島・日本への朱子学の伝播</li> <li>・元代とはどのような時代か</li> <li>・明代における王陽明の登場</li> <li>・陽明学の思想</li> <li>・王学左派(泰州学派)</li> <li>・李卓吾</li> <li>・明代の文化と社会(宝卷の流行)</li> <li>・明末清初をどう捉えるか</li> <li>・清初の三大儒(経世致用の学)</li> <li>・戴震</li> <li>・清朝考証学</li> <li>・時代の転換期(アヘン戦争前後)</li> <li>・洋務運動と変法運動</li> <li>・革命派の登場と中国近世の宗教反乱</li> <li>・辛亥革命</li> <li>・新文化運動(伝統との対決)</li> <li>・新文化運動(毛沢東の登場)</li> </ul> <p>それぞれについてどの程度時間を割くかは、受講者の関心なども考慮しながら柔軟に対応する。また、場合によってはこのうちの幾つかを省略することもある。</p>
----------	--

準備学習	特に予習は要求しない。(配布する資料は授業担当者が適宜読んで解説する。)
履修上の留意点	受講生には継続的な出席と積極的な参加を求める。継続して出席する意志のない者、出席しても授業を集中して聴く意志のない者の受講は認めない。
成績評価の方法	本年度は試験を実施する予定であるが、受講者数が少ない(目安として10人以下)場合には平常点とレポートに切りかえるかも知れない。いずれにしても出席はとり、出席回数(出席回数)の足りない学生には試験受験もしくはレポート提出の資格を与えない。
教科書/テキスト	特に必要としない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
その他	できるだけ多くの知識を提供するため、講義の形式をとるが、受講者の意見を徹しながら進めていくので、質問には積極的に応答してもらいたい。中国(東アジア)の社会・文化・宗教など様々な方面に関心をもつ諸君の受講を期待する。受講者数によっては、演習形式(討論など)を付加することも考えたい。 また東アジアに関する他の授業(歴史・文学など)も積極的に受講してもらいたい。

履修コード	002001
科目名	中国仏教史
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中国仏教の歴史を、仏教伝来から現代に至るまで概説する。歴史の事実をただ解説するのではなく、政治・社会・教理・信仰など様々な角度から考察することで、中国仏教の特徴を把握するように心がけたい。 (到達目標) 中国の人々は、仏教という外来の思想・文化を受容し、変容させ、独自の「中国仏教」を形成した。その過程と特徴を学びながら、中国仏教に対する見かた、考え方を習得することが、第一の目標である。また、中国仏教は韓国・日本・ベトナムなどに伝播して「東アジア仏教圏」を成立させた。中国仏教の学習を通じて、東アジア仏教を知るための基礎的教養を身につけることが、第二の目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期) (1) 仏教の中国伝播 (2) 後漢の仏教 (3) 魏晉の仏教 (4) 仏教受容の背景 (5) 五胡十六国の仏教 (6) 鳩摩羅什の翻訳 (7) 東晉の仏教 (8) 南朝の仏教 (9) 儒教・道教との交渉 (10) 北朝の仏教 (11) 諸学派の興起 (12) 隋の仏教 (13) 天台と三論 (14) 疑經の作成 (15) まとめ (後期) (1) 唐の仏教 (2) 玄奘の翻訳 (3) 唯識と華嚴 (4) 律と密 (5) 浄土と禪 (6) 五代・十国の仏教 (7) 北宋の仏教 (8) 南宋の仏教 (9) 大蔵經の出版 (10) 遼・金・西夏の仏教 (11) 元の仏教 (12) 明の仏教 (13) 清の仏教 (14) 中華民国・中華人民共和国の仏教 (15) まとめ
----------	--

準備学習	・高校までの世界史(東洋史)を復習しておくこと。
履修上の留意点	・授業は講義形式である。講義内容は各自ノートにまとめること。 ・遅刻や途中退出など、他の履修者の迷惑となる行為は慎むこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	吉村誠『中国仏教史』。購入方法は最初の授業で指示する。
参考書	野上俊静・他『仏教史概説 中国篇』平楽寺書店 鎌田茂雄『中国仏教史』岩波全書 その他、授業中に随時紹介する。

履修コード	004301
科目名	中国仏教思想史
担当者名	吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中国仏教思想史の目標を示すには、中国仏教史との違いを明らかにしなくてはなりません。学問は、何故という問い(問題意識)、何を(研究対象)、どのように(研究方法論)の三つの問いを中心に展開します。また「何を」の問いに関わることで、事実を明らかにする事実判断と、研究対象の真偽、善悪や是非を決する価値判断とを弁別しなくてはなりません。仏教史は事実判断に徹する歴史研究の成果が扱われます。それに対して、思想史は研究者、あるいは教授者の価値判断も無視できないのです。思想史とは何かをめぐっては哲学的な書物があります。単に過去の中国の仏教を扱うのではなく、講義を行う私自身の仏教観も問われるのです。また中国仏教が研究対象であり、しかも思想史ですから、中国の他の宗教や思想も仏教と対等な立場で扱い、それらの交流、対処、論争、融合などの様々な面を見てゆかなくてはなりません。そして思想史ですから、研究対象と、私自身の人生観・仏教観・思想が対峙し、緩やかに言えば相互に対話的に、厳しく言えば相互に論争的に研究が進められることとなります。皆さんは事実に中国とは全く異なる文化的背景の中で生まれたインド仏教が、中国の思想風土の中で、いかに中国仏教となっていくのかをまず学んで下さい。そしてそのような中国仏教に思想史的に関わるとは、どのような研究方法論になるのかという私自身の一つの研究モデルを考察していただきたいと思えます。
---------------------	---

授業スケジュール	今年は唐代の仏教者宗密(780-841)の『原人論』をテキストに用いて、禅宗と華嚴教学との融合、すなわち教禅一致説、さらに儒教・道教・仏教の融合、すなわち三教一致の教学の思想史的解明を行います。「三教の流れ」(第1, 2, 3回)、「宗密の思想」(第4, 5, 6回)、「韓愈の思想」(第7, 8回)、「原人論の序」(第9, 10回)、「儒教・道教に従う学徒の迷執を斥ける」(第11~15回)、「仏教内の前階梯の教えを偏狭で浅薄であると斥ける」(第16~20回)、「直ちに仏法の真源を顕し人間の眞性を明示する教え」(第21~25回)、「仏法の真源より諸教を再評価し人間論を総括する」(第26~29回)、「まとめ」(第30回)。進み具合に変動のあることをあらかじめご理解下さい。
準備学習	世界史年表により、中国の王朝の交代の流れは確認して下さい。また高校で習ったレベルの中国史の大きな出来事はあらかじめ何らかの方法で認識する努力をお願いします。
履修上の留意点	この科目専用のノートを用意して下さい。講義内容を筆記すると共に、自分の意見や疑問を書きとめ、年間を通して受講と自分の思索の軌跡が残るようにして下さい。
成績評価の方法	出席を取ります。最後に期末テストを行います。それらを総合して評価します。
教科書/テキスト	小林圓照『原人論を読む』(ノンブル社)。著者と出版社の承諾を得ていますので、2,000円(実定価2,300円)で吉津から購入して下さい。
参考書	講義の際にテーマに即して参考書や論文などを随時紹介します。
その他	私が講義している最中でも挙手して、質問や意見を述べて下さい。私語は厳禁です。講義開始時間から30分過ぎている時は自主的に教場への入室はご遠慮下さい。

履修コード	003901 003902
科目名	中国仏教文化史
担当者名	程 正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インドで成立した仏教は中国においてどんな軌跡を描きながら受容され、そして自らのすがたを変えながら中国人の宗教として展開していったのか。こうした問題を意識しつつ、講義を進めていきたい。
授業スケジュール	ガイダンスを兼ねて、中国仏教文化のすがたとかたちについて考える (8~9回)。中国仏教史上における破仏、いわゆる「三武一宗」の法難について講義するとともに、『父母恩重経』をはじめとする中国で撰述された偽経も紹介し、これらの偽経の出現の文化史的意義を考える (12~13回)。仏典漢訳、写経、經典印刷、大蔵經の編纂など、いわゆる仏教經典の流布に促された仏教文化の発達について考える (8~9回)。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	資料を沢山配布するので、専用のノート、あるいはファイルを用意すること。配付資料とノートに基づいて復習すること。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート (20%)、出席状況 (20%)、期末試験 (60%) を総合して評価する。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	授業中適宜指示する。

履修コード	002101
科目名	朝鮮仏教史
担当者名	石井 公成
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教伝来から現代に至るまでの朝鮮仏教を、東アジア仏教史の観点から概説し、インド・中国・日本・ベトナムなどの仏教との共通点と違いについて検討します。日本の仏教は、朝鮮半島の百済から伝えられ、奈良時代前半までは実質的には朝鮮仏教が主流であり、日本側で受容したのも朝鮮半島からの渡来系氏族が中心です。日本仏教を知るためには、朝鮮仏教を学ぶ必要があります。また、朝鮮では戦乱その他で資料の多くが失われているため、朝鮮仏教を知るためには日本に残る資料を活用する必要があります。その関係の深さを理解することが目標です。
授業スケジュール	初回: 授業方針の説明。朝鮮仏教研究の意義とその方法 第1段階: 三国 (高句麗・百済・新羅) 時代の仏教 第2段階: 日本の資料に見える朝鮮仏教 第3段階: 統一新羅時代の仏教 第4段階: 高麗時代の仏教 第5段階: 李朝朝鮮時代の仏教 第6段階: 韓国近現代の仏教 * 以上の内容を扱うが、場合に応じて異なる時代や国の仏教に触れる予定です。
準備学習	授業時間のどこかで小レポートとして、当日の授業でとりあげた内容に対する考えや疑問、これまで何回かの内容のまとめ、その他を書いてもらいますので、以前の資料を時々読み直しておいてください。
履修上の留意点	毎回、資料を読みながらどんどん質問していくため、自分の考えに基づき、積極的に答えてください。授業を聞いていない場合は、欠席しているものとみなします。
成績評価の方法	年間に10回以上、授業の中で不定期に行なう小レポートとによって評価します。授業中での応答などが優れていた場合や授業態度が悪い場合は、それらも考慮します。授業を聞いておらず、きちんとレポートを書けていない場合は、出席したものと認められません。中間試験や期末試験はおこないません。
教科書/テキスト	毎回、資料を配付します。以前の授業で使った資料を後でまた使うこともあるため、資料は毎回持参して下さい。
参考書	石井公成編『新アジア仏教史10 朝鮮半島・ベトナムー漢字文化圏への広がり』(佼成出版社)4,200円、ISBN 9784333024384

履修コード	007601
科目名	哲学概説
担当者名	杉田 正樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	哲学の基本的な考え方を概説し、また哲学のおおまかな歴史を通覧して、哲学の全体像をつかむことを目指す。 前期の講義を踏まえて、後期ではわれわれが生きる現代という時代を哲学の観点から考える。これによって現代固有の問題と、歴史を通じて変わらない問題を見ることになる。
授業スケジュール	(1) はじめに、哲学入門への入門、(2、3) 人生観、世界観と哲学、(4～6) 哲学の分野と方法、(7、8) 東洋の知恵、(9～11) 古代哲学から中世哲学へ、(12、13) 近代哲学、(14) 存在と知識、(15) まとめ、(16) はじめに、現代という時代、(17～19) 科学・技術と自然、(20～22) 内面性の問題、(23) 善と悪、(24) 苦悩について、(25、26) 情念の問題、(27) 死と生、(28) 歴史について、(29) 宗教について、(30) まとめ
準備学習	講義に前に、必ずテキストの指定した箇所を読んでおくこと。
履修上の留意点	テキストを読んでもくることを前提として、教室では議論をすることにしたい。また、課題図書を指定し、それについても議論する。レポートの書き方も指導する予定である。
成績評価の方法	学期末にレポートを課す。また、出席、議論への参加を評価する。
教科書／テキスト	渡辺二郎『はじめて学ぶ哲学』2005年刊、ちくま学芸文庫(筑摩書房)1,260円、ISBN-10:4480089055
参考書	

履修コード	003401
科目名	日用経典
担当者名	飯塚 大展
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	前期は『般若心經和談抄』を読解し、後期は室町時代五山僧の註釈書『蕉了記』を通して『首楞嚴經』を読解することを目的とする。
授業スケジュール	『般若心經』の概説(註釈史概説、1～5)、『般若心經和談抄』(江戸時代版本)の読解(6～15)、『首楞嚴經』概説(16～18)『蕉了記』の読解(五山版について、五山における『首楞嚴經』の受容、19～30)。
準備学習	活字体とは異なるテキストを用いるので、行書や草書、異体字に関する知識を修得していることが望ましい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席数を前提とする。平常点(30点配分)と期末試験(70点)を以て評価する。
教科書／テキスト	教科書は用いない。適宜プリントを配布する。
参考書	参考書は第2回目の講義及び概説において紹介する。

履修コード	002401
科目名	日本禅宗史
担当者名	佐藤 秀孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、日本における禅宗の歴史を講義するものである。唐・宋代に隆盛した中国禅宗がどのように日本に伝来し、如何なる展開・発展を遂げて日本禅を形成していったのか、その過程を探ることで、思想的な意義と日本文化への影響などを論じたい。
授業スケジュール	前期には、唐代禅宗について、平安以前の禅、宋代禅宗の伝来、栄西と能忍、兼修禅の系譜、道元の活動、初期永平寺僧団、来日僧と入宋入元僧、日本禅の二十四流などについて論じ、後期には、五山派と林下、五山禅林と五山文学、中世文化と禅宗、瑩山紹瑾と曹洞宗の地方展開、応燈閣の一流、戦国時代と禅僧、幕藩体制下の禅宗、隠元の来日と黄檗宗、近世臨済宗と白隠禅、近世曹洞宗と宗統復古、近代国家と禅宗などについて論じる。
準備学習	日本史の中世と近世の歴史を前もって理解し直しておく。
履修上の留意点	禅の教理や思想の理解および日本史の一般的知識を習得しておくこと。
成績評価の方法	平常点(出席)と試験による総合評価。
教科書／テキスト	伊吹敦『禅の歴史』(法蔵館)3,800円
参考書	田中良昭編『禅学研究入門』(大東出版社)6,000円 船岡誠『日本禅宗の成立』(吉川弘文館)2,500円 中尾良信『図解雑学・禅』(ナツメ社)1,400円 その他、日本禅宗に関する諸文献

履修コード	007411
科目名	日本哲学史
担当者名	久保 陽一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>明治の初めから1930年代までに日本の哲学がたどった展開を概観する。近代日本の知識人は文明開化をめざす時代の流れの中で、西洋近代の思想を学ぶ必要性に駆られたが、逆にそれを通して、自分や自分の周辺のために日本独自の伝統思想や文化を意識せざるを得なかった。問題は、彼らがどのように両者の折り合いをつけようとしたかである。講義では、この折り合いのつけ方の主なタイプを見てみることにする。</p> <p>現代は、世界のどこでも一方で近代化と、他方で「文化の多元性」の尊重という傾向が拮抗していると言われる。その中で、日本人の今後の在り方を考えるためには、近代日本の哲学者が行った、西洋思想と伝統思想との折り合いの付け方が参考になると思われるので、その点を検討することにした。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、近代日本哲学の概観</li> <li>2 西周 (1)</li> <li>3 西周 (2)</li> <li>4 福澤諭吉 (1)</li> <li>5 福澤諭吉 (2)</li> <li>6 福澤諭吉 (3)</li> <li>7 福澤諭吉 (4)</li> <li>8 内村鑑三 (1)</li> <li>9 内村鑑三 (2)</li> <li>10 内村鑑三 (3)</li> <li>11 新渡戸稲造 (1)</li> <li>12 新渡戸稲造 (2)</li> <li>13 井上哲次郎 (1)</li> <li>14 井上哲次郎 (2)</li> <li>15 理解度の確認</li> <li>16 井上円了 (1)</li> <li>17 井上円了 (2)</li> <li>18 西田幾多郎 (1)</li> <li>19 西田幾多郎 (2)</li> <li>20 西田幾多郎 (3)</li> <li>21 西田幾多郎 (4)</li> <li>22 鈴木大拙 (1)</li> <li>23 鈴木大拙 (2)</li> <li>24 理解度の確認</li> <li>25 和辻哲郎 (1)</li> <li>26 和辻哲郎 (2)</li> <li>27 和辻哲郎 (3)</li> <li>28 九鬼周造 (1)</li> <li>29 九鬼周造 (2)</li> <li>30 理解度の確認</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業であらかじめ資料を配布することがあるので、それをあらかじめ読んで、予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	授業の流れをつかむことが大事なので、必ず出席すること。分からないことがあれば、遠慮なく質問すること。講義を手掛かりに、自分でさらに原典などを読むことが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	試験 (7割) とレポート (2割) と平常点 (1割) によって評価する。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は特になし。個々の哲学者の文章を資料として配布する。
----------	-------------------------------

参考書	<p>相良亨「日本人の心」(東大出版会)  丸山真男「日本の思想」(岩波新書)  丸山真男「福澤諭吉の哲学」(岩波文庫)  藤田正勝編「日本近代思想を学ぶ人のために」(世界思想社)  古田光・子安宣邦「日本思想史読本」(東洋経済新報社)</p>
-----	--

履修コード	002201
科目名	日本仏教史
担当者名	飯塚 大展

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本仏教史の枠組みを概説する。
授業スケジュール	(1)日本において仏教がいかに受容されたのかを、時代の変遷と仏教の変容を中心に概説する。 (2)①古代仏教史(飛鳥・奈良・平安時代の仏教、中世仏教への胎動、1~12)、②中世仏教史(中世仏教史の枠組、顕密体制論、「遁世僧・官僧」モデル、顕密仏教の展開、13~23)、③近世仏教史(幕藩体制下の仏教、寺檀制度、各宗宗学の発達、三教一致批判、24~28) ④近代仏教史(近代天皇制下の仏教、29~30)
準備学習	日本仏教史に関する一般的な知識を前提とする。少なくとも松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書)、末木文美士『日本仏教史』を読了して欲しい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席を前提とする。平常点(20点)、夏期課題レポート(30点配分)、期末試験(50点)を以て評価する。
教科書/テキスト	教科書は用いない。資料はYestudyによって開示配布する。
参考書	参考書は第二回目の講義及び各時代仏教史の概説の際に提示する。

履修コード	004001 004002
科目名	日本仏教文化史
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本における仏教の役割について、外国との関係および建築・美術や文学・風習など文化面に焦点を当てながら理解を深める。
授業スケジュール	(前期) 1 イントロダクション、2 現代と日本仏教文化、3 古墳時代・飛鳥時代、4 白鳳時代、5~6 奈良時代(対外関係・東大寺と正倉院)、7~10 平安時代(遣唐使と国風文化・源氏物語・平家納経・奥州平泉・総説)、11~14 鎌倉時代(元寇と禅僧・総説)、15 前期総説 (後期) 16 視聴覚資料、17 南北朝時代、18~20 室町時代(能・茶・建築)、21 神道と仏教 22 戦国時代、23 安土桃山時代、24 キリスト教と仏教、25~26 江戸時代、27 明治、28 大正・昭和、29 現代、30 総説 以上は進行の目安であって、適宜前後することは了承されたい。なお日本史の授業ではなく、該当する時代の仏教文化に焦点を当てたものである。
準備学習	授業で該当する時代を、授業の前に参考書を含めて、ネットなどでも情報を積極的に集めることで知識を深めておくことで授業の内容がより血肉化するので予習を心がけること。
履修上の留意点	日本史に関する全般的な流れ(細かい知識は問わない)を前提として講義するので、日本史の知識が不十分なものは授業で該当する時代の『詳説日本史研究』(佐藤信編集、山川出版社、2500円、ISBN:978-4634011014)もしくは高校時代の日本史の教科書を読んで予習しておくこと。Yestudyを用いて資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。課題の実行のためにコピー代・交通費・展覧会など費用が発生するので注意すること。
成績評価の方法	出席状況を考慮しつつ、基本的には学年末の定期試験によって評価する。その他に仏教文化を実際に見聞した体験をレポートとして提出してもらう。
教科書/テキスト	資料集として『詳説日本史図録』(第4版 山川出版社、890円、ISBN:978-4634025240)を用いる。教科書は指定しないが以下の参考書を読んでおくこと。
参考書	松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書、861円、ISBN:978-4005003228) 末木文美士『日本仏教史』(新潮文庫、620円、ISBN:978-4101489117)
その他	学生時代は能や文楽など日本の伝統芸能を約半額の料金を楽しめる時期である。公演などを授業中に適宜案内するが、受講者はそれらを積極的に鑑賞して伝統文化と現代の関わりについて考えてほしい。また急速に消え去りつつある地方の伝統文化についても時間に余裕のある大学生時代に大いに触れてほしい。

履修コード	008201
科目名	パーリ語上級
担当者名	古山 健一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1. パーリ語の文法及び語彙についての高度な知識を身につけ、インド仏教研究ないしパーリ伝統仏教の理解に不可欠な、パーリ註釈文献の読解力を養う。 2. 読解に用いるパーリ文テキストに、ローマ字本以外のテキスト (特にミャンマー第6回結集版) をも使用し、異字本の参照能力を身に付ける。
---------------------	--

授業スケジュール	前期及び後期前半は、[1] ミャンマー (ビルマ) 文字による第6回結集版の正しいローマ字のしかた、[2] パーリ語の音韻規則・連声法、接尾辞 (造語法も含む)、接頭辞、複合語、格の用法、構文法について学習する。 後期後半は、[3] 文献の読解を通して上級文法を実践的に習得することに力点を置く。読解するテキストには、H. C. Norman校訂のパーリ文献協会 (PTS) 版およびミャンマー第6回結集版による、『ダンマパダ (法句)』の註釈書『ダンマパダ・アッタカター』 (第7章「阿羅漢の章の註」以下) の物語を用いる予定である。
----------	---

準備学習	受講にあたっては、パーリ語初級の履修を終えているか、またはこれに相当する学習経験を有していることが望ましい (サンスクリット語初級の履修以上も含む)。
------	---

履修上の留意点	毎回の授業の学習事項を復習することを常に心がけること。文献の読解は演習形式の授業を進めるので、その際は必ずテキストの下訳作りなどをしておくこと。
---------	--

成績評価の方法	授業への出席状況と学習意欲により評価する (定期試験は実施しない)。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	すべてプリントで配布する。
----------	---------------

参考書	水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』、(春秋社)、4725円、ISBN-13 : 978-4393101568 ; 水野弘元『パーリ語文法』 (山喜房佛書林)、3150円、ISBN-13 : 978-4796300100
-----	--

その他	初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので必ず出席すること。
-----	--------------------------------------

履修コード	008101
科目名	パーリ語初級
担当者名	片山 一良

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	パーリ語は、原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。パーリ語文法の確実な習得につとめ、仏典の正しい読解をめざしたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前半は文法全体について講義し、後半は中部第74『ディーガナカ経 (長爪梵志経)』 (Dīghanakha-sutta) を講読する。
----------	--

準備学習	予習と復習が求められる。
------	--------------

履修上の留意点	一つ一つ、丁寧に学び、習得することが望まれる。
---------	-------------------------

成績評価の方法	年度末テスト、および平常点による。
---------	-------------------

教科書/テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
----------	--------------------------

参考書	水野弘元『パーリ語辞典』 (春秋社)
-----	--------------------

その他	随時、テープ等を使用する。
-----	---------------

履修コード	001801
科目名	パーリ仏教史
担当者名	矢島 道彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教はその淵源をたどれば、古代の東インドに胚胎した沙門系の宗教に由来しています。すでにブッダの在世中に教団はある程度大きく成長していましたが、その教線が飛躍的に拡大したのは、なんといってもマウリヤ王朝の第三代帝王アショーカ王の時代でした。このマウリヤ王朝期に、当時有力な部派の一つであった上座部系の仏教がスリランカに伝えられて、その後、タイ、カンボジア、ミャンマー、ラオスなどの諸地域にもたらされることとなりました。ここで「パーリ仏教史」というのは、地域的にはこうした南アジアや東南アジアの国々を中心として行われてきた、いわゆる上座〔部〕仏教（テーラヴァーダ仏教）の歴史という意味です。いずれもパーリ語聖典を所持しているという意味で、これらの地域に展開した仏教をパーリ仏教と呼ぶこともできるわけです。インド本土ではやがて仏教は滅びてしまいますが、周辺地域に広く伝えられて、かたや北伝の大乗仏教として、かたや南伝のテーラヴァーダ仏教として、大きく花開いていきました。幾多の消長を繰り返しながらも、今日にまで伝えられてきたテーラヴァーダ仏教の歴史を、ここではさまざまな角度から辿ってみたいと思います。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) はじめに ～「パーリ仏教」のとらえ方～</li> <li>(2) 沙門系の諸宗教と仏教</li> <li>(3) 図像にみるブッダの生涯 (スライド)</li> <li>(4) スリランカの古都を訪ねて (スライド)</li> <li>(5) ブッダの用いた言語とパーリ語</li> <li>(6) 繰り返される結集 (聖典の編纂史)</li> <li>(7) 聖典と非聖典</li> <li>(8) 九分教とパーリ文学</li> <li>(9) 福田思想の歴史的展開</li> <li>(10) 出家教団と在家の人々</li> <li>(11) 出家の修道論と少欲知足</li> <li>(12) パリッタとはなにか</li> <li>(13) マヒンダ長老とマハーヴィハーラ派</li> <li>(14) アバヤギリ派と大乗仏教の影響</li> <li>(15) 仏歯をめぐる争いと法顕の報告</li> <li>(16) 学匠ブッダゴサーとその学統</li> <li>(17) 仏滅年代とスリランカの王統史</li> <li>(18) 密教の隆盛と伝統仏教の対抗</li> <li>(19) スリランカ仏教の苦難の歴史</li> <li>(20) ヒルマの仏教①</li> <li>(21) " ②</li> <li>(22) タイの仏教①</li> <li>(23) " ②</li> <li>(24) カンボジアの仏教①</li> <li>(25) " ②</li> <li>(26) ラオスの仏教</li> <li>(27) その他諸地域におけるテーラヴァーダ仏教</li> <li>(28) 現代におけるテーラヴァーダ仏教①</li> <li>(29) " ②</li> <li>(30) まとめ</li> </ol>
----------	--

準備学習	インド仏教やテーラヴァーダ仏教の歴史に関する本を何か一つ読んでおくこと。また、授業で疑問に思ったことなどは、その都度自分で調べるなり、尋ねるなどすること。
履修上の留意点	受講者数にもよりますが、一方的な講義ではなく、参加型の授業にしたいと思います。そのつもりで臨んで下さい。
成績評価の方法	平常点とレポート（または試験）によって総合的に評価します。
教科書／テキスト	使用しません。
参考書	講義のなかで適宜紹介します。

履修コード	001101 001102
科目名	仏教・禅教団論 禅学研究III
担当者名	熊本 英人 吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講座では前期は仏教の教団論を扱い、後期は禅宗の教団論を講義する。宗教は教義(思想)、儀礼(修行)、教団(集団)の三つの視点から把握することができる。教義と儀礼は個人的立場からだけで取り扱うこともできるが、教団は宗教集団であり、個人的ではなく、そして宗教の社会的存在の意義を問うものである。キリスト教などの教会を中心とした教団と、仏教のそれとの違いはどうであろうか。</p> <p>釈尊は『スッタニパータ』「犀の角」において「ひとり歩め」と言っている。『律蔵』「大品」で釈尊の弟子たちが60人になった時、彼は集団で修行することから、それぞれ各自に伝道教化の旅に出るように勧め、「一つ道を二人で行くな」と言って、それぞれ各自の独自の道を歩むことを教えながらも、その目的は「多くの人々の福利・安楽・憐愍のために」と言い、世間の人々を忘れてはいない。一方、禅宗教団は、集団生活の必要上から律に反する行為に対して、清規という新たな修行規範を設け、それに「思想」としての意味を与えていく。</p> <p>(ねらい)</p> <p>この講義では、自覚の宗教と言われる仏教、そして禅宗において、内部的には修行の面で教団がいかに機能するか、また対外的には仏教の社会性、教団がどのように形成され、それによって仏教の目指す理想が実現できたのか、あるいは問題点があるのかを、資料を講読しながら、皆さんと共に考えて行きたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期(仏教教団論)：</p> <p>1 この講義の目指すもの</p> <p>2～5 釈尊の教団の形成、『律蔵』「大品」の講読</p> <p>6～8 『律蔵』の概観</p> <p>9 『四分律』と比較検討</p> <p>10～11 大乘の戒律について</p> <p>12～ 日本の教団と戒律</p> <p>後期(禅教団論)：</p> <p>1～2 禅宗の成立と清規</p> <p>3～4 『禅苑清規』の構成と禅宗教団の様相</p> <p>5～7 『禅苑清規』講読</p> <p>8～9 『永平清規』の構成と道元僧団の意図</p> <p>10 『永平清規』と『瑩山清規』からみた曹洞宗教団の展開</p> <p>11～ 『永平清規』講読</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	仏教研究IIIと禅学研究IIIとを同じ年度に履修することは認めない(2007年度以前入学生)。
成績評価の方法	前期と後期とそれぞれ授業内で数回の小テストを行い、これを平常点として評価する(前期50%、後期50%)。年度末の定期試験は行わない。
教科書/テキスト	<p>前期：上座部の『律蔵』、『四分律』、『梵網経』などをコピーして配布する。</p> <p>後期：鏡島元隆他『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁、1972年)《必要部分をコピーで配布する》</p> <p>小坂機融他『道元禅師全集第6巻 清規・戒法・嗣書』(春秋社、1989年)《必要部分をコピーで配布する》</p>
参考書	講義中に必要に応じて紹介する。

履修コード	001501 001502
科目名	仏教・禅教団論 仏教研究III
担当者名	熊本 英人 吉津 宜英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講座では前期は仏教の教団論を扱い、後期は禅宗の教団論を講義する。宗教は教義(思想)、儀礼(修行)、教団(集団)の三つの視点から把握することができる。教義と儀礼は個人的立場からだけで取り扱うこともできるが、教団は宗教集団であり、個人的ではなく、そして宗教の社会的存在の意義を問うものである。キリスト教などの教会を中心とした教団と、仏教のそれとの違いはどうであろうか。</p> <p>釈尊は『スッタニパータ』『犀の角』において「ひとり歩め」と言っている。『律蔵』『大品』で釈尊の弟子たちが60人になった時、彼は集団で修行することから、それぞれ各自に伝道教化の旅に出るように勧め、「一つ道を二人で行くな」と言って、それぞれ各自の独自の道を歩むことを教えながらも、その目的は「多くの人々の福利・安楽・憐愍のために」と言い、世間の人々を忘れてはいない。一方、禅宗教団は、集団生活の必要上から律に反する行為に対して、清規という新たな修行規範を設け、それに「思想」としての意味を与えていく。</p> <p>(ねらい)</p> <p>この講義では、自覚の宗教と言われる仏教、そして禅宗において、内部的には修行の面で教団がいかに機能するか、また対外的には仏教の社会性、教団がどのように形成され、それによって仏教の目指す理想が実現できたのか、あるいは問題点があるのかを、資料を講読しながら、皆さんと共に考えて行きたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期(仏教教団論)：</p> <p>1 この講義の目指すもの</p> <p>2～5 釈尊の教団の形成、『律蔵』『大品』の講読</p> <p>6～8 『律蔵』の概観</p> <p>9 『四分律』と比較検討</p> <p>10～11 大乘の戒律について</p> <p>12～ 日本の教団と戒律</p> <p>後期(禅教団論)：</p> <p>1～2 禅宗の成立と清規</p> <p>3～4 『禅苑清規』の構成と禅宗教団の様相</p> <p>5～7 『禅苑清規』講読</p> <p>8～9 『永平清規』の構成と道元僧団の意図</p> <p>10 『永平清規』と『瑩山清規』からみた曹洞宗教団の展開</p> <p>11～ 『永平清規』講読</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	仏教研究IIIと禅学研究IIIとを同じ年度に履修することは認めない(2007年度以前入学生)。
成績評価の方法	前期と後期とそれぞれ授業内で数回の小テストを行い、これを平常点として評価する(前期50%、後期50%)。年度末の定期試験は行わない。
教科書/テキスト	<p>前期：上座部の『律蔵』、『四分律』、『梵網経』などをコピーして配布する。</p> <p>後期：鏡島元隆他『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁、1972年)《必要部分をコピーで配布する》</p> <p>小坂機融他『道元禅師全集第6巻 清規・戒法・嗣書』(春秋社、1989年)《必要部分をコピーで配布する》</p>
参考書	講義中に必要に応じて紹介する。

履修コード	000101 000102 000103
科目名	仏教学入門 禅学序説 仏教学序説
担当者名	岩永 正晴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業は、仏教学部における4年間の修学の導入となることを意図し、仏教の基礎知識を身につけて貰うために開講されています。まず釈迦牟尼仏・道元禅師・瑩山禅師の「一仏両祖」のご生涯と教え紹介し、その後、インド・中国・日本における仏教の歴史について概説します。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 授業の概要 (2～5) 釈迦牟尼仏の伝記と教え (6～9) 道元禅師の伝記と教え (10～13) 瑩山禅師の伝記と教え (14～18) インドにおける仏教 (19～24) 中国における仏教 (25～30) 日本における仏教
----------	---

準備学習	紹介する参考書は、1冊でも多く読むように心掛けて下さい。
------	------------------------------

履修上の留意点	必修科目なので安易に欠席することなく、積極的に参加して貰いたい。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	授業期間中に行う試験(前後期各2回づつの計4回/1回10点満点×4回=40点)とレポート(2回/15点満点×2=30点)及び平常点(30点満点)によって成績評価を行います。
---------	--

教科書/テキスト	特定の書物を教科書として指定することはありません。配布資料に基づき授業を進めます。
----------	---

参考書	授業の初めに各分野の入門的な参考書のリストを配布します。また授業の内容に応じて随時、参考書を紹介していきます。授業に先立って読んでおくとうい書物として下記の三冊を挙げておきます。 ・松尾剛次『仏教入門』、岩波ジュニア新書322、820円 ISBN4-00-500322-2 ・高崎直道『仏教入門』、東京大学出版会、2200円 ISBN4-13-013011-0 ・平川彰『インド・中国・日本 仏教通史(新版)』、春秋社、2,800円 ISBN4-393-11822-7
-----	---

履修コード	000201 000202 000203
科目名	仏教学入門 禅学序説 仏教学序説
担当者名	片山 一良

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教の教えと実践について正しく理解すること、これが本講義のねらいである。仏教の学びには、大きく「三蔵(経・律・論)」の学び(learning)と「三学(戒・定・慧)」の学び(training)がある。三蔵法師になる学びと、阿羅漢になる学びと違ってよい。これに対して、大学における仏教の学びは、三蔵を中心にして、基本的には「歴史と文化の学び」と「教理と思想の学び」が考えられる。どちらも重要な学びであるが、前者は変化を受け易いもの、後者は変化を受け難いものといえる。
---------------------	--

授業スケジュール	仏教は、2500年もの長い歴史をもっている。また、インドからスリランカ、ミャンマー、タイなど南方のアジアには「上座部仏教」として、またチベット、中国、朝鮮、日本など北方のアジアには「大乘仏教」として伝播し、多様な仏教文化が展開してきた。とくに日本では数多くの宗派が存在し、様々な仏教の様相を呈していることは誰も認めるところである。しかし、仏教は仏の教えであり、根本的に一つであって、異種多様なものではない。一つの教え、一つの法があり、それが八万四千、無数のお経となったものである。それは智慧と慈悲であり、寂靜という心の静まりにほかならない。それはまた、換言すれば「禅」である。そこで、この「仏教学入門」では、よく知られたお経、仏典をとおして、また禅の語録にも触れつつ、仏教の教えと実践とは何かを考え、とくに「智慧と慈悲」について理解が深まるよう、努めたい。
----------	--

準備学習	前期は、仏教の歴史と文化を主に、①仏教の学問と信仰、②客観と主観、③聖と俗、④文化の帯、⑤仏教の分類、⑥仏の伝統、⑦天上天下唯我独尊、⑧出家と修行、⑨成道、⑩説法、⑪法と律、⑫涅槃、⑬正法について講じることにしたい。
------	--

履修上の留意点	後期は、仏教の教理と実践を主に、①三宝(信仰と智慧)、②仏、③法、④僧、⑤四法印、⑥五蘊説、⑦縁起説、⑧四諦説、⑨八正道と中道、⑩慈悲、⑪色即是空、⑫身心脱落、⑬仏法について講じたい。
---------	--

成績評価の方法	レポート(夏期)、および年度末テストによる。
---------	------------------------

教科書/テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
----------	--------------------------

参考書	片山一良『ブツダのことは パーリ仏典入門』(大法輪閣) 『ダンマパダ 全詩解説 一仏祖に学ぶひとすじの道一』(大蔵出版) 袴谷憲昭『仏教入門』(大蔵出版) その他、講義の中で随時紹介。
-----	---

履修コード	000331
科目名	仏教漢文入門
担当者名	石井 公成

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000311
科目名	仏教漢文入門
担当者名	須山 長治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000321
科目名	仏教漢文入門
担当者名	須山 長治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000341
科目名	仏教漢文入門
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	000351
科目名	仏教漢文入門
担当者名	吉村 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を講読し、漢文訓読の基礎を学習する。 (到達目標) 漢文の読解は、仏教学のあらゆる分野で必要とされる。この授業では、一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しみ、漢文で書かれた仏教文献を正確に読むための基礎的教養を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	(前期) (1) 仏典とは何か、(2~7) 漢文の読み方、(8~13) 中国の詩文を読む、(14~15) まとめと復習 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2~7) 大乘経典を読む、(8~13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14~15) まとめと復習
----------	---

準備学習	・高校までの古典の内容をよく復習しておくこと。 ・授業の予習を毎回十分に時間をかけて行うこと。
------	--

履修上の留意点	・授業には必ず指定の漢和辞典を毎回持参すること。 ・語学を習得するには学習の継続が不可欠である。出席励行のこと。
---------	---

成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示する。 ②漢和辞典(『新字源』角川書店、『漢語林』大修館書店、『漢辞海』三省堂のいずれか)。 左記以外の漢和辞典や電子辞書は、漢文を読むための辞典ではないので授業では使用しない。
----------	--

参考書	授業中に随時紹介する。
-----	-------------

履修コード	001401 001402
科目名	仏教語・禅語解説 仏教研究II
担当者名	奥野 光賢 程 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	どんな分野であれ、研究は山登りに似ているように思われる。予備的知識のないまま、いきなり難しい事柄に飛びついて、さしたる成果は得られないであろう。新入生みなさんの多くは「仏教」や「禅」を学ぶと言っても、果たしてどのような方途によって学んでよいのか困惑しているのではあるまいか。この講義は、そうした新入生のみなさんにまず「仏教語」や「禅語」に慣れしてもらい、これから本格的に「仏教」や「禅」を学ぶ土台を築いて欲しいとの願いから開講されるものである。講義は前期「禅語」、後期「仏教語」に分かって、それぞれ代表的仏教語・禅語の解説を行なう。その際、たんなる解説にとどまることなく、次年次以降みなさん自身が自分で工具書を利用して、仏教語や禅語の意味を調べられるように指導していくつもりである。
---------------------	---

授業スケジュール	すでに記したように授業は前期「禅語」(担当程正)、後期「仏教語」(担当奥野光賢)の二期に分かって展開する。毎回、3~4語程度の重要な代表的仏教語ないし禅語を取り上げ、解説していく。解説する言葉の選定にあたっては、単なる興味本位ではなく思想史や仏教史(禅宗史)の展開などにも留意しつつ、なるべく関連性をもたせ有機的な講義となるよう配慮するつもりである。
----------	---

前期……禅語解説……(1)インド禅から中国禅宗へ、(2)禅語について、(3~15)禅語解説  
後期……仏教語解説……(1)仏教語について、(2~15)仏教語解説

準備学習	特別な準備学習は必要としない。必ず『仏教辞典』を所持し、辞書を引きながら仏教書を読み進める心構えがもっとも必要である。
------	---

履修上の留意点	必ずノートを用意すること。前後期いずれも3分の2以上の出席に満たないものは成績評価の対象にしないので留意すること。テキスト、配布資料、ノートに基づいて復習すること。
---------	--

成績評価の方法	前後期それぞれ1回ずつの試験を行ない、その平均点により通年評価とする。点数配分は期末テスト(70点)と出席などの平常点(30点)とする。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	初回の授業において説明する。「仏教語解説」は有料(100円)にてコピーを配布する。その他、「仏教語解説」は授業内容に応じて追加資料を配付する。
----------	---

参考書	授業において適宜指示する。「仏教語解説」については、中村元編『仏教語源散策』(東京書籍)を用意しておくことが望ましい。
-----	---

履修コード	001001 001002
科目名	仏教語・禅語解説 禅学研究II
担当者名	程正 奥野 光賢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	どんな分野であれ、研究は山登りに似ているように思われる。予備的知識のないまま、いきなり難しい事柄に飛びついても、さしたる成果は得られないであろう。新入生みなさんの多くは「仏教」や「禅」を学ぶと言っても、果たしてどのような方途によって学んでよいか困惑しているのではあるまいか。この講義は、そうした新入生みなさんにまず「仏教語」や「禅語」に慣れてもらい、これから本格的に「仏教」や「禅」を学ぶ土台を築いて欲しいとの願いから開講されるものである。講義は前期「仏教語」、後期「禅語」に分かつて、それぞれ代表的仏教語・禅語の解説を行なう。その際、たんなる解説にとどまることなく、次年次以降みなさん自身が自分で工具書を利用して、仏教語や禅語の意味を調べられるように指導していくつもりである。
---------------------	---

授業スケジュール	すでに記したように授業は前期「仏教語」（担当奥野光賢）、後期「禅語」（担当程正）の二期に分かつて展開する。毎回、3～4語程度の重要な代表的仏教語ないし禅語を取り上げ、解説していく。解説する言葉の選定にあたっては、単なる興味本位ではなく思想史や仏教史（禅宗史）の展開などにも留意しつつ、なるべく関連性をもたせ有機的な講義となるよう配慮するつもりである。 前期……仏教語解説……(1) 仏教語について、(2～15) 仏教語解説 後期……禅語解説……(1) インド禅から中国禅宗へ、(2) 禅語について、(3～15) 禅語解説
----------	--

準備学習	特別な準備学習は必要としない。必ず『仏教辞典』を所持し、辞書を引きながら仏教書を読み進める心構えがもっとも必要である。
------	---

履修上の留意点	必ずノートを用意すること。 テキスト、配付資料、ノートに基づいて復習すること。 前後期いずれも3分の2以上の出席に満たないものは成績評価の対象にしないので留意すること。
---------	--

成績評価の方法	前後期それぞれ1回ずつの試験を行ない、その平均点により通年評価とする。点数配分は期末テスト(70点)と出席などの平常点(30点)とする。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	初回の授業において説明する。
----------	----------------

参考書	授業において適宜指示する。
-----	---------------

履修コード	001301 001302
科目名	仏教思想概説 仏教研究I
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教思想といってもその内容はきわめて多様である。本講義ではインド仏教を中心に、縁起・無我・無常・空などの仏教の重要な思想について、原始仏教から部派仏教、そして大乘仏教に至るまでの展開を視野に入れながら、それぞれの立場から著された諸仏典の講読と講義を通して考察していく。 (到達目標) 仏典の読解に慣れるとともに仏教思想についての理解を深め、さらにその多様性を認識することを旨とする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：仏教思想について 第2回：原始仏教の思想(1)——概説 第3～8回：原始仏教の思想(2)～(7)——『スッタニパータ』講読①～⑥ 第9～10回：原始仏教の思想(8)～(9)——その他の原始經典の講読①～② 第11～14回：アピタルマ仏教の思想(1)～(4) 第15回：理解度の確認 第16～17回：大乘經典の思想(1)～(2)——『般若心経』講読①～② 第18～20回：大乘經典の思想(3)～(5)——『金剛般若経』講読①～③ 第21～23回：その他の大乘經典の思想(1)～(3) 第24～25回：中観派の思想(1)～(2) 第26～28回：瑜伽行派の思想(1)～(3) 第29回：如来蔵思想 第30回：まとめ
----------	---

準備学習	テキスト・資料として用いる仏典の該当箇所や関連する資料を事前に読んでくること。
------	---

履修上の留意点	順次テキストを音読してもらう予定なので、十分予習をして授業に臨んでほしい。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	年度末の筆記試験(70%)、前期の理解度確認(20%)、授業における読解や平常点(10%)によって評価する。
---------	--

教科書/テキスト	中村元訳『ブッダのことば —スッタニパータ—』(岩波文庫)、987円、ISBN 4-00-333011-0。中村元、紀野一義訳註『般若心経・金剛般若経』(岩波文庫)、672円、ISBN 4-00-333031-5。その他の資料は授業時にプリントを配布する。
----------	--

参考書	早島鏡正、高崎直道、前田専学他『インド思想史』東大出版会、3780円、ISBN 978-4-13-012015-9
-----	---

履修コード	004901
科目名	仏教特講I
担当者名	新井 一光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>瑜伽行派の基本典籍である『中辺分別論』に対する安慧の復註を講読する。          文献学 Philologie による仏教研究を基礎とし、その方法それ自体、及びそれによって得られる見解とともに、写本読解上の技術的問題の取り扱いや手続きを学ぶ。さらに、学生には、テキストを作成するについて、その判断の根拠がどのように獲得されるのかという問題に関しても理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1～5) イントロダクション・文献解題、(6～29) 文献講読、(30) まとめ
----------	---

準備学習	サンスクリット及びチベット語を既に履修しているか、若しくは本年併修習することが望ましいが、基本的に和訳によってゆっくりと注意深く講読するため、必須ではない。
------	--

履修上の留意点	<p>文献学に基づく研究では、先ず写本や諸訳の読みを比較し、批判検討し、原文を確定する作業、すなわちテキストクリティーク Textkritik が必要とされる。授業では、これまでに発行されたサンスクリットテキストの校訂本を参照するが、これをそのまま鵜呑みにすることは出来ないため、適宜、サンスクリット写本、蔵・漢訳を参照する。学生には、この技術的な作業のプロセスを自分のものとするために、各自、自分の為し得る範囲で入念な準備をしてもらいたい。</p>
---------	---

成績評価の方法	平常点50%、試験50%
---------	--------------

教科書／テキスト	ハンドアウトを配付する。
----------	--------------

参考書	山口益訳註『中邊分別論釋疏：安慧阿遮梨耶造』破塵閣書房、1935；鈴木学術財団、1966。その他、教場にて指示する。
-----	--

履修コード	005001
科目名	仏教特講II
担当者名	山本 元隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>釈尊最後の説法を伝える経典の一つに『遺教経』（正式には『仏垂般涅槃略説教誡経』）がある。禅宗では古来より「仏祖三経」の一つとして重んじられ、今日でも禅宗の修行道場では2月14日の涅槃会に際して本経が読誦される。          齢八十に達した釈尊が、沙羅双樹のもとで弟子たちに示した最後の教えとはいったい何か？本講義では、中国や日本の祖師方の教えを参照しながら『遺教経』に示された「法の要」を読み解きつつ、さらには現代に生きる私たちが釈尊の教え（特に戒律）を学ぶ意義についても考えていきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の中心的なテーマとなる『遺教経』には、その正式名称（仏垂般涅槃略説教誡経）の通り、釈尊が涅槃に際して説かれた「戒律」の教えが多く含まれている。本講義では、(1) 釈尊涅槃の教え、(2) 戒律の意義、(3) 『遺教経』とその注釈書について概説した上で、(4) 本経に示された「八大人覺」（少欲・知足・遠離・精進・不妄念・禪定・智慧・不戯論）などの教えについて、『遺教経』を読み進めながら解説していく予定である。</p>
----------	---

準備学習	授業で次回のテーマやポイントについて告知するので、各自積極的に予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	講義内容に関心を持ち、主体的に授業に参加してほしい。
---------	----------------------------

成績評価の方法	平常点によって評価する。
---------	--------------

教科書／テキスト	『遺教経』の原文テキストは漢文であるが、本講義では基本的に今日修業道場で読誦される訓読（和文）のものを使用、最初の授業において配布する。
----------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修コード	005101
科目名	仏教特講III
担当者名	徳野 崇行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本仏教は「葬祭仏教」とも称されるように、葬儀や追善供養といった死者の弔いとの結びつきが顕著であり、日本仏教の特色の一つとされている。本講義では、日本仏教と死者の弔いとの結びつきを、その起源や歴史の変遷、現代的展開を時系列的に見ていくことで、通史的に理解していきたい。その中で、日本人の死生観や弔いの文化の広がりを探っていきたい。</p> <p>(到達目標) 本講義の到達目標は、仏教的な弔いの歴史を通して日本仏教を捉えていくことで、日本人の死生観を育んできた文化的背景を理解し、今後の葬儀や弔いを自ら考える際の知識を獲得することである。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の進め方、スケジュール、評価方法などのオリエンテーション</li> <li>2. 「死者の弔い」を問うとは</li> <li>3. 【有史以前】縄文人・弥生人の弔い</li> <li>4. 【古代】仏教以前の弔いのかたち</li> <li>5. 【古代】御霊信仰</li> <li>6. 【古代】葬儀・弔いの仏教化</li> <li>7. 【古代】『日本霊異記』に見る死者供養の物語</li> <li>8. 【中世】五輪塔・板碑にみる「墓」の誕生</li> <li>9. 【中世】中世絵巻からみた死者供養のすがた</li> <li>10. 【中世】「信仰遺物(考古学的史料)」からみた中世の死者供養</li> <li>11. 【中世】「葬祭仏教」「死者供養仏教」の拡大と民衆化①</li> <li>12. 【中世】「葬祭仏教」「死者供養仏教」の拡大と民衆化②</li> <li>13. 【中世】中世仏教説話にみる死者供養の情景</li> <li>14. 【中世】中世絵巻からみた怪異、モノノケの世界</li> <li>15. 【近世】檀家制度の成立と推移①</li> <li>16. 【近世】檀家制度の成立と推移②</li> <li>17. 【近世】「商品化」する葬儀・追善供養</li> <li>18. 【近世】近世絵画に見る幽霊のかたち</li> <li>19. 【近世】近世仏教説話にみる幽霊たちの物語</li> <li>20. 【近世】近世における葬送のかたち</li> <li>21. 【近代】近代国家の成立と廃仏毀釈</li> <li>22. 【近代】神道国教化政策と先祖供養</li> <li>23. 【近代】葬儀の近代化①</li> <li>24. 【近代】葬儀の近代化②</li> <li>25. 【現代】アエノコトに見る現代の先祖の祭り</li> <li>26. 【現代】福島県会津冬木沢参りにみる現代の先祖供養</li> <li>27. 【現代】「霊場」にみる死者供養の現代的展開</li> <li>28. 【現代】墓や先祖観の現代的変容</li> <li>29. 【現代】多様化する葬送のかたち①</li> <li>30. 【現代】多様化する葬送のかたち②</li> </ol>
----------	---

準備学習	参考書欄に掲載した書籍を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点(30%)と学期末試験(70%)を総合して評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	佐々木宗幹『仏と霊の人類学——仏教文化の深層構造』(2310円、春秋社)、圭室諦成『葬式仏教』(3675円、大法輪閣)、池上良正『死者の救済史——供養と憑依の宗教学』(角川書店、1680円)、佐藤弘夫『死者のゆくえ』(岩田書院、2940円)

履修コード	005201
科目名	仏教特講Ⅳ
担当者名	渡邊 幸江

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中国医学を学ぶ。 心は不可思議で、誰にとっても自由にならない。中国の1500年前の仏教文献には、その心を、身体から知ろうと書いている。 この講義は、中国医学の身体観察法を知り、自身の生活と心を見直す時間である。
	(到達目標) 一、中国医学の基礎と応用。 一、日常生活で使える中国医学。 一、心を捉える。

授業スケジュール	第1回：授業内容の説明 第2回～16回：中国医学の基礎知識 第17回～30回：中国医学の応用
----------	--

仏教文献も参考にする。

準備学習	前回配布した資料を復習し、授業に臨む。
------	---------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席、小レポート、定期試験による総合評価とする予定。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	資料はそのつど配布する。
----------	--------------

参考書	関口真大訳『現代語訳 天台小止観』大東出版社、1100円
-----	------------------------------

履修コード	006201 006202
科目名	仏教美術
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏像の歴史について、信仰的な背景と照らし合わせながら概観する。本年度は、奈良と京都の寺院ごとに仏像を考察する。6世紀、我が国に伝来した仏教は瞬く間に日本に根付き、絢爛たる仏教文化を構築した。こうした中で、仏像の制作は時代を経るごとに発展していくが、様々な要因から仏像の表現は変化する。この変化の過程を各寺院で所蔵されている仏像を概観しながら、その特徴を把握していくことが本講義の目標である。 古代寺院の代表である法隆寺の仏像は、中国や朝鮮半島の影響を大きく受けて制作されている。その後平安時代になると平等院に代表される仏像のように日本独自の表現が確立する。こうした仏像表現の相違点について、スライドやDVDなどを用いて講義する。 また本講義では、仏像から制作者の心情に迫り、芸術という側面だけではなく、信仰という側面に留意して話を進める。なおインド・中国・朝鮮半島の仏教美術については「総合」(3) 仏教と芸術」で講義し、鎌倉時代以降の絵画については「禅美術」で講義する。
---------------------	--

授業スケジュール	〔前期〕 仏像鑑賞の基礎 (1～3)、飛鳥時代 (4～8)、白鳳時代 (9～11)、天平時代 (12～15) 〔後期〕 平安前期 (16～18)、平安中期 (19～21)、平安後期 (22～24)、鎌倉時代 (25～27)、仏像制作の技法 (28～30) 以上は予定であり、関連する他の仏像について適時解説する。
----------	--

準備学習	都内近郊の博物館・美術館に行き、多くの仏像を鑑賞すること。
------	-------------------------------

履修上の留意点	美術館・博物館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。仏教美術関連の展覧会には、必ず足を運ぶこと。
---------	--

成績評価の方法	定期試験と出席率、レポートなどで総合評価する。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	『かわいい、キレイ、かっこいい、たのしい仏像のみかた』(日本文芸社)、その他については講義中に紹介する。
-----	--

履修コード	008901
科目名	仏教文献学
担当者名	堀川 貴司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、日本に現存する仏教関係の典籍を独力で扱える知識・能力を身に付けることを最終的な目標としています。 前期では * 古典籍の基本的な構造や書誌事項を理解し、記述することができる。 後期では * 中国・朝鮮から将来されたものも含め、仏教関係の典籍について基本的な知識を持つ。 をそれぞれの目標として授業を進めます。できるだけ実物を用いて具体的に話を予定します。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>1-3. 導入—書誌学とは何か、具体的にどのような作業をするのか</p> <p>4-7. 書物の構成とそれぞれの要素についての概略</p> <p>8-9. 本文の形式や文字について</p> <p>10. 刊記・奥書について</p> <p>11. 読者・所蔵者による書入や蔵書印等について</p> <p>12-13. 参考となる情報を探し、比較検討する</p> <p>14. 紙その他の原材料について</p> <p>15. まとめ</p> <p>後期</p> <p>1-4. 仏教經典の概要と中国・日本の写経について</p> <p>5-9. 中国・日本の刊経について</p> <p>10-12. 抄物（日本の禅僧による注釈書）について</p> <p>13-14. 墨蹟（禅僧の筆跡）について</p> <p>15. まとめ</p>
----------	--

準備学習	古典籍に触れたことのない学生がほとんどだと思いますので、毎回の授業内容をよく復習して、実際の調査に生かせるようにしてください。
------	---

履修上の留意点	実際の書誌調査の作業を行ってもらう予定なので、欠席しないようにしてください。
---------	--

成績評価の方法	前期末・後期末の2度のレポートを各50パーセントの割合で評価します。出席状況や授業への参加態度がよい場合は評価に加味します。
---------	--

教科書/テキスト	堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、1890円、ISBN 978-4-585-20001-7
----------	---

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

その他	授業は講義が中心ですが、図書館や個人蔵の古典籍の実物を用いて各自書誌調査を行ってもらっても構いません。
-----	---

履修コード	006301 006302
科目名	仏教民俗学
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教文化には、縁起や空を中心とする教義仏教と、葬祭や祈禱を中心とする民俗仏教との異なる2つのレベルがある。この講座では、民俗仏教の意味と役割について、教義仏教との関連のもとに考えてみたい。
	(到達目標) 受講生は、宗教文化の捉え方を踏まえて、仏教文化に見られる異なる2つのレベルと、これら両レベルの関係について、それぞれ説明することができる。さらに、両レベルを媒介している仏僧の宗教的意味と役割および仏僧の宗教的威力の源泉について、解説をすることができる。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 仏教学・民俗学・宗教人類学から見た仏教文化</li> <li>3 いわゆる未開社会の宗教の特徴と文明化社会の宗教の特徴</li> <li>4 宗教的エリートとマス</li> <li>5 宗教集団における宗教的エリートとマス</li> <li>6 原始宗教・民族宗教・世界宗教における宗教的エリートとマス</li> <li>7 上座部仏教における宗教的エリートとマス</li> <li>8 大乘仏教における宗教的エリートとマス</li> <li>9 教義宗教と民俗宗教</li> <li>10 教義仏教と民俗仏教</li> <li>11 日本人の宗教的志向性</li> <li>12 表の宗教と裏の宗教</li> <li>13 アニミズム</li> <li>14 プレ・アニミズム</li> <li>15 前期の総括</li> <li>16 呪術と宗教</li> <li>17 呪術・宗教的職能者の分類</li> <li>18 開眼式・点眼式・入魂式</li> <li>19 仏僧の祈禱とシャーマンの祈禱</li> <li>20 仏僧とシャーマンとの相互補完関係</li> <li>21 仏僧の先祖供養と檀信徒の先祖供養</li> <li>22 釈尊降誕会</li> <li>23 涅槃会</li> <li>24 盂蘭盆会</li> <li>25 彼岸会</li> <li>26 仏僧の宗教的威力の源泉</li> <li>27 籠りの意味するもの</li> <li>28 神の憑霊による聖なる人</li> <li>29 仏の出現による聖なる人</li> <li>30 後期の総括</li> </ol>
----------	--

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「教科書」「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
------	--

履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績70%、平常点30%とする。追試験は実施する。なお、4年生（希望者のみ）に関しては、レポートを提出してもらいが、それは次の通りである。〔課題〕仏教民俗学・宗教人類学に関する論文または教科書を含む図書を読み、その感想文を作成する。〔字数〕2000字。〔提出先と時期〕12月までの授業時に随時受けつける。〔その他〕ワープロ作成可。ただし、授業時以外は受理しない。
---------	--

教科書/テキスト	佐々木宏幹『仏教—生活仏教のダイナミズム—』春秋社、ISBN984-4-642-06368-5、定価（本体1900円+税）。
----------	--

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	002801 002802
科目名	仏典・禅籍解説 禅籍講読Ⅳ
担当者名	松田 陽志 四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>仏教・禅の重要な典籍を取り上げ、講義する。</p> <p>前期「仏教の典籍」では、主にインドの諸々の経典を取り上げ、その内容ばかりでなく、思想史の観点からそれらの経典がどのように位置づけられるかをもできるだけわかりやすく説明していきたい。この授業では、まず初期仏教の経典について説明し、次に大乘仏教の経典について解説していく。授業スケジュールにもあるように、授業内容の理解の整理・確認のため二回の小テストを行う。なお、この小テストの結果は、平常点として成績評価に盛り込まれる。</p> <p>後期「中国・日本の禅籍」においては、中国（唐代までの初期禅宗）・日本（道元禅師の日本曹洞宗）に展開する禅宗の重要な典籍資料について取り上げ、その歴史的意義や思想的背景について解説する。また研究における資料のとらえ方や代表的な研究文献などについても随時紹介していく。</p> <p>理解度の確認のため小テストを最終回に実施する。</p> <p>なお、前期は四津谷孝道が、後期は松田陽志が担当する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業は、3・4年次における専門的な研究に先立って、仏教・禅の重要な典籍について基本的な理解を身につけ、文献研究への興味や関心を拓けることを目的とするものである。また、各文献の思想的意義をはじめ、研究方法の視点なども同時に紹介する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>後期 仏教の典籍 [概 論]</p> <p>第1回 授業についての概要説明</p> <p>[初期仏教の経典]</p> <p>第2回 初期仏教の経典とは</p> <p>第3回 ニカーヤ (1) スッタ・ニパータ / ダンマ・パダ</p> <p>第4回 ニカーヤ (2) テーラ・ガーター / テーラー・ガーター / ジャータカ / ミリンダ王の問い等</p> <p>第5回 第1回～第4回までの授業内容に関する小テスト</p> <p>[大乘経典]</p> <p>第6回 大乘経典とは</p> <p>第7回 『般若経』</p> <p>第8回 『維摩経』</p> <p>第9回 『法華経』 (1)</p> <p>第10回 『法華経』 (2)</p> <p>第11回 『華嚴経』</p> <p>第12回 『如来蔵経』</p> <p>第13回 『浄土三部経』</p> <p>第14回 密教経典</p> <p>第15回 第6回～第14回までの授業内容に関する小テスト</p> <p>前期 禅の典籍 [中国の禅籍—初期禅宗文献—]</p> <p>第1回：授業についての概要説明 禅宗以前</p> <p>第2回：禅宗とダルマ 『洛陽伽藍記』 敦煌文献</p> <p>第3回：禅宗とダルマ 『続高僧伝』 『二入四行論』</p> <p>第4回：北宗と南宗 『伝法宝記』 『楞伽師資記』</p> <p>第5回：荷沢神会の北宗禅批判 『菩提達磨南宗定是非論』</p> <p>第6回：荷沢神会の北宗禅批判 『神会語録』</p> <p>第7回：六祖慧能の禅 『六祖壇経』</p> <p>第8回：六祖慧能の禅 『宝林伝』 『祖堂集』</p> <p>第9回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』</p> <p>第10回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』 『臨濟録』 『百丈清規』</p> <p>第11回：五家七宗 灯史類 『碧巖録』 『従容録』 『無門関』</p> <p>中国禅宗研究文献の紹介</p> <p>[日本の禅籍—道元禅師に関わる文献—]</p> <p>第12回：『正法眼蔵随聞記』</p> <p>第13回：『普勸坐禅儀』</p> <p>第14回：小テスト</p> <p>第15回：予備</p>
準備学習	毎回授業内で次回までの資料を配布するので、事前によく読んでおくこと。(共通内容)
履修上の留意点	授業内容は一続きのものであるため、前回までの配付資料を持参の上、継続的に出席すること。(共通内容)
成績評価の方法	平常点(4割程度)と学期末に行う筆記試験(6割程度)によって評価する。(共通内容)
教科書/テキスト	[前期]最初の授業において指示する。 [後期]毎回資料を配付する。
参考書	使用しない。(共通内容)
その他	特になし。

履修コード	003201 003202
科目名	仏典・禅籍解説 仏典講読IV
担当者名	四津谷 孝道 松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>仏教・禅の重要な典籍を取り上げ、講義する。</p> <p>前期「中国・日本の禅籍」においては、中国(唐代までの初期禅宗)・日本(道元禅師の日本曹洞宗)に展開する禅宗の重要な典籍資料について取り上げ、その歴史的意義や思想的背景について解説する。また研究における資料のとらえ方や代表的な研究文献などについても随時紹介していく。</p> <p>理解度の確認のため小テストを最終回に実施する。</p> <p>後期「仏教の典籍」では、主にインドの諸々の経典を取り上げ、その内容ばかりでなく、思想史の観点から、それらの経典がどのように位置づけられるかをも、できるだけわかりやすく説明していきたい。この授業では、まず初期仏教の経典について説明し、次に大乘仏教の経典について解説していく。授業スケジュールにもあるように、授業内容の理解の整理・確認のため二回の小テストを行う。なお、この小テストの結果は、平常点として成績評価に盛り込まれる。</p> <p>なお、前期は松田陽志が、後期は四津谷孝道が担当する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業は、3・4年次における専門的な研究に先立って、仏教・禅の重要な典籍について基本的な理解を身につけ、文献研究への興味や関心を広げることがを目的とするものである。また、各文献の思想的意義をはじめ、研究方法の視点なども同時に紹介する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期 禅の典籍</p> <p>[中国の禅籍—初期禅宗文献—]</p> <p>第1回：授業についての概要説明 禅宗以前</p> <p>第2回：禅宗とダルマ 『洛陽伽藍記』 敦煌文献</p> <p>第3回：禅宗とダルマ 『統高僧伝』 『二入四行論』</p> <p>第4回：北宗と南宗 『伝法宝記』 『楞伽師資記』</p> <p>第5回：荷沢神会の北宗禅批判 『菩提達磨南宗定是非論』</p> <p>第6回：荷沢神会の北宗禅批判 『神会語録』</p> <p>第7回：六祖慧能の禅 『六祖壇経』</p> <p>第8回：六祖慧能の禅 『宝林伝』 『祖堂集』</p> <p>第9回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』</p> <p>第10回：馬祖禅と語録 『馬祖語録』 『臨濟録』 『百丈清規』</p> <p>第11回：五家七宗 灯史類 『碧巖録』 『従容録』 『無門関』</p> <p>中国禅宗研究文献の紹介</p> <p>[日本の禅籍—道元禅師に関わる文献—]</p> <p>第12回：『正法眼蔵随聞記』</p> <p>第13回：『普勸坐禅儀』</p> <p>第14回：小テスト</p> <p>第15回：予備</p> <p>後期 仏教の典籍</p> <p>[概 論]</p> <p>第1回 授業についての概要説明</p> <p>[初期仏教の経典]</p> <p>第2回 初期仏教の経典とは</p> <p>第3回 ニカーヤ (1) スッタ・ニパータ / ダンマ・パダ</p> <p>第4回 ニカーヤ (2) テーラ・ガーター / テーリー・ガーター / ジャータカ / ミリンダ王の問い等</p> <p>第5回 第1回～第4回までの授業内容に関する小テスト</p> <p>[大乘経典]</p> <p>第6回 大乘経典とは</p> <p>第7回 『般若経』</p> <p>第8回 『維摩経』</p> <p>第9回 『法華経』 (1)</p> <p>第10回 『法華経』 (2)</p> <p>第11回 『華嚴経』</p> <p>第12回 『如来蔵経』</p> <p>第13回 『浄土三部経』</p> <p>第14回 密教経典</p> <p>第15回 第6回～第14回までの授業内容に関する小テスト</p>
----------	---

準備学習	毎回授業内で次回までの資料を配布するので、事前によく読んでおくこと。
履修上の留意点	授業内容は一続きのものであるため、前回までの配付資料を持参の上、継続的に出席すること。
成績評価の方法	平常点 (4割程度) と学期末に行う筆記試験 (6割程度) によって評価する。
教科書/テキスト	[前期:] 毎回資料を配付する。 [後期:] 最初の授業において指示する。
参考書	使用しない。
その他	特になし。

履修コード	002901
科目名	仏典講読I
担当者名	藤井 淳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本年は『維摩経』を取り上げる。維摩居士と文殊菩薩の対話やサンスクリット文に見られるかけ言葉、大乘経典と阿含経との関係などを中心に見ていく。時折、源信僧都『往生要集』に取り上げられた地獄などの六道の描写をインドに起源を持つとされる文献(『大智度論』『瑜伽師地論』『正法念処経』『観仏三昧海経』)に留意しながら見てみたい。</p>
授業スケジュール	<p>(1) イントロダクション  (2) ~ (5) 文献解題 (6) ~ (13) 文献購読 (14) 小テスト (15) 前期まとめ  (16) 後期イントロダクション  (17) ~ (28) 文献購読 (29) 小テスト (30) 後期まとめ</p>
準備学習	さまざまな解説書が刊行されているので積極的に見ておくこと。
履修上の留意点	<p>講読とは学生自身にテキストを読んでもらうことを意味する。必ず長時間予習してくることを心がけられたい。履修者の人数・関心によって適宜、読解と解説の比重を変えることがある。現代語訳を使っていくが、資料では漢文も使用するので注意すること。資料はYestudyを通じて配布することがあるのでYestudyは確実に使えること。課題の実行やコピー等にかかる費用が発生するので留意されたい。</p>
成績評価の方法	授業への参加姿勢および学期末の定期試験によって評価する。
教科書/テキスト	イントロダクションの際に指示します。
参考書	<p>長尾雅人『維摩経を読む』(岩波セミナーブックス) 現在絶版 ISBN978-4000048897  鎌田茂雄『維摩経講話』(講談社学術文庫) 1013円 ISBN978-4061589193</p>
その他	適宜、必要な資料コピーを配布するが、再発行はしないので気をつけられたい。

履修コード	003001
科目名	仏典講読II
担当者名	奥野 光賢
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>三論学派(三論宗)を大成した嘉祥大師吉蔵撰『三論玄義』を講読する。『三論玄義』は大乗仏教の基本論書である『中論』『十二門論』『百論』を踏まえて書かれた三論学派の綱要書であるが、古来、宗派を超えた大乗仏教の概論書として読み継がれてきた。本書の講読を通じて三論学派の基本的教理の把握につとめたい。</p>
授業スケジュール	<p>開講から数回は序論として、三論の解題・研究史、著者である吉蔵について講義する。その後、講読に入る。『三論玄義』は大きく第一篇「通序大帰」(総論)と第二篇「別釈衆品」(各論)よりなるが、今年度は第二篇「別釈衆品」の途中から読み始める。  第4回~第6回……「諸部通別の義」  第7回~第9回……「衆論立名の不同」  第10回~第12回……「衆論の旨帰(根本趣旨)」  第13回~第15回……「四論の破申不同(否定と肯定)」  第16回~第18回……「別して三論を釈す」  第19回~第21回……「三論の通別」  第22回~第24回……「四論の用仮(教化の手段)不同」  第25回~第27回……「四論の対縁不同」  第28回~第30回……「三論の所破の縁」「中論の名題を釈す」</p>
準備学習	中国仏教史に関する概説書の「三論学派(三論宗)」、「吉蔵」の項目を予め読んできて欲しい。
履修上の留意点	予習をしっかりとなし、授業に主体的に参加することを望む。なお、受講希望者は開講初日に必ず出席すること。受講者を確定した段階で講読テキストを配布する(有料200円程度)。
成績評価の方法	出席状況もいくぶんかは勘案するが、あくまで基本は学年末試験である。受講希望者はその点をしっかり認識して、毎回の授業に臨んで欲しい。また折にふれて小テストを実施する。
教科書/テキスト	受講者を確定した段階でコピーを配布する(有料)。上にも記したように履修希望者は必ず開講初日に出席すること。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	003101
科目名	仏典講読III
担当者名	飯塚 大展
授業概要/ 到達目標（ねらい）	中世日本仏教の多様性を、特に鎌倉時代に生きた無住道暁の目を通して理解することを主眼とする。
授業スケジュール	『沙石集』入門(1)、無住の生涯(2～5)、無住の著作(6～8)、『沙石集』概説(9～11)、同巻1の読解(16～26)、無住の生死観(27)、『沙石集』巻10の読解(28～30)
準備学習	大隅和雄『日本の中世2 信心の世界、遁世者の心』（中央公論新社、2002刊行、2400円）を読了していることが望ましい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席を前提とする。平常点（20点配分）、夏期課題レポート(30点)、期末試験(50点)を以て評価する。
教科書／テキスト	教科書は用いない。テキストは、YeStudyにおいて開示配布する。
参考書	参考書は第1回目の講義（概説）において紹介する。以下に主要なものを挙げる。 『沙石集』（岩波古典文学大系）『沙石集』（新編日本古典文学全集、小学館）『雑談集』（中世の文学、三弥井書店）

履修コード	028101
科目名	ラテン語
担当者名	上野 勝広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ラテン語は、古典ギリシャ語と共に、ヨーロッパ文化の基礎を形成しています。ラテン語についての知識は、ヨーロッパ諸文化の理解にきわめて重要です。本授業では、ラテン語の基礎文法を概説します。自ら単語集と語尾変化表を活用しながら、平易なラテン文を理解できるようにします。
---------------------	---

授業スケジュール	下記のテキストを用いて、基礎文法の要点を順次説明してゆきます。必要に応じてテキストにない文例も補充し、各課末にあるラ文和訳の練習問題に取り組みます。
----------	--

前期は序論から第12課まで、後期は第13課から第24課までを学習します。

#### 前期

1. 導入、ラテン語とは
2. 文字と発音、アクセント
3. 動詞の直説法現在、第1変格名詞
4. 直説法未完了、第2変格男性名詞
5. 直説法未来、第2変格中性名詞
6. 接頭辞 + sum、形容詞 bonus, bona, bonum
7. 直説法完了、第2変格男性名詞 puer, ager
8. 語順、直説法過去完了、直説法未来完了
9. 前置詞、場所を示す副詞、4種の動詞活用、現在語幹、完了語幹
10. 第3変格名詞 第I型 auris, cubile
11. 直説法現在、直説法未完了、第3変格名詞 第II型 dux
12. 直説法未来、第3変格名詞 第II型の続き、直説法現在受動態
13. 第4変格名詞、第5変格名詞、直説法未完了受動態、直説法未来受動態
14. 形容詞の比較法、受動態完了・過去完了・未来完了
15. 前回までの要点の整理、理解度の確認

#### 後期

16. 命令法現在 (能動態・受動態)、指示代名詞・形容詞、接続詞
17. 指示代名詞・形容詞の続き
18. 人称代名詞、所有代名詞・形容詞
19. 関係代名詞、副詞の比較法
20. 疑問代名詞・形容詞、不定法の用法、possum
21. 数詞、不定法の続き
22. 形式受動動詞、不定代名詞・形容詞
23. 分詞、未来不定法
24. 絶対的奪格
25. 接続法 (現在・未完了・完了・過去完了)、独立文中の接続法
26. 動名詞、目的分詞、動形容詞
27. 不規則動詞、不完全動詞
28. 非人称動詞、間接疑問文
29. 様々な従属文
30. 前回までの要点の整理、理解度の確認

準備学習	特に必要ありませんが、ラテン語がどんな言語かについて調べておきましょう。
履修上の留意点	練習問題については、毎回出席者に指名し和訳例を発表してもらいます。受身でなく、自ら学び取る姿勢をもって授業に臨みましょう。 1回でも欠席してしまうと追いつくのが容易ではありません。授業そのものに加え、自習の負担が大きい科目であることを認識しておいてください。
成績評価の方法	年間2回 (前期末・後期末) のテストの結果 (80%) に平常点 (20%) を加味して評価します。
教科書/テキスト	松本悦治『ラテン語入門』 (駿河台出版社) 1,500円
参考書	辞書と共に授業の進行に合わせて紹介します。

# 專 門 教 育 科 目

## 2. 文 学 部

### (1) 国 文 学 科



履修コード	016601
科目名	演劇概論
担当者名	阿部 由香子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>現代の日本において触れることができる演劇は多種多様である。それらは多くの人々による絶え間ない試みが積み重なって生まれてきたものであり、同時に「いま」でなければ享受することができないものでもある。本授業ではそのような日本演劇の特質を学ぶこととする。</p> <p>(到達目標)</p> <p>近代から現代にかけての日本演劇の歴史についての基本的な知識を身につける。また、演劇の上演を成立させるための条件や時代との関わりについて理解し、舞台作品を様々な角度から鑑賞できるようにする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>《前期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演劇を考察することについて</li> <li>2. 歌舞伎の近代化について (1)</li> <li>3. 歌舞伎の近代化について (2)</li> <li>4. 川上音二郎と新演劇</li> <li>5. 川上貞奴の登場</li> <li>6. 自由劇場の実現</li> <li>7. 文芸協会と芸術座</li> <li>8. 女優・松井須磨子</li> <li>9. 大正戯曲時代</li> <li>10. 大衆文化と演劇</li> <li>11. 関東大震災と築地小劇場</li> <li>12. プロレタリア演劇について</li> <li>13. 現代劇とリアリズム (1)</li> <li>14. 現代劇とリアリズム (2)</li> <li>15. 授業内テスト</li> </ol> <p>《後期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦時下の日本演劇 (1)</li> <li>2. 戦時下の日本演劇 (2)</li> <li>3. 戦後の新劇について</li> <li>4. 井上ひさし作品を鑑賞する (1)</li> <li>5. 井上ひさし作品を鑑賞する (2)</li> <li>6. 井上ひさし作品を鑑賞する (3)</li> <li>7. 1960～1970年代の演劇</li> <li>8. つかこうへの作品を鑑賞する (1)</li> <li>9. つかこうへの作品を鑑賞する (2)</li> <li>10. つかこうへの作品を鑑賞する (3)</li> <li>11. 1980年代の演劇</li> <li>12. 野田秀樹の作品を鑑賞する (1)</li> <li>13. 野田秀樹の作品を鑑賞する (2)</li> <li>14. 野田秀樹の作品を鑑賞する (3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者自身が日本演劇について知っていることと、よく分からないことをはっきりさせておくといよいでしょう。さらに、身の回りの演劇に積極的に関心をもつようにしてください。</li> <li>・翌週の授業で扱う作品のテキストを配布した場合には、必ず読んできてください。</li> <li>・映像資料の感想を課題にした場合には、必ず書いてきてください。</li> </ul>
履修上の留意点	<p>受講者には必ず1回は劇場へ足を運んでもらい観劇してレポートを書いてもらいます(観劇代金は自己負担です)。演劇に興味関心が全くない方にはおすすしません。</p>
成績評価の方法	<p>前期末に一度授業内テストを行います。後期は観劇レポートを提出してもらいます。その他、何回か小レポートを課題に出します。</p> <p>授業内テスト(40%)とレポートの内容(40%)と平常点(20%)によって評価します。</p>
教科書/テキスト	<p>授業中に資料を配布します。</p>
参考書	<p>授業時に適宜紹介します。</p>

履修コード	012901
科目名	漢文学
担当者名	和田 和子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	漢文を読解する為に必要な知識の習得を目指す。また、言語の系統を異にする日本語と中国語の、その隙間を埋めるべく完成された訓読という方法についての検討を行うことで、国語としての漢文の位置づけを明確にしていきたい。併せて資料の読解を通じて、悠久の歴史の中で行われた中国人の言語活動や文化的営為についての基礎的な知識を身につけていきたい。
授業スケジュール	前期は漢文学の基礎を学ぶ上で精読すべき資料を紹介・購読していく。また取り上げる漢文資料の内容に即して、適宜訓点の施し方、書き下し文の方法などを教授する。 後期は漢文理解の鍵となる助字の用法やその他の文法的諸問題についての考察を行い、漢文の構造をより発展的に学べるようにしたい。
準備学習	授業の内容がより深く理解できるよう、漢文の構造や訓読の規則についての初歩的な知識に関しては、自分で必ず補っておくこと。その方法については、適宜各自に指導する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	期末に筆記試験を実施するとともに、出席状況、授業への参加の姿勢などにより総合的に評価する。
教科書/テキスト	教員が作成したプリント資料を用いる。
参考書	
その他	主に教員が講義する形式となるが、取り扱う資料や講義の内容について、各自予習・復習をしておくことが望ましい。

履修コード	013001
科目名	漢文学
担当者名	和田 和子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	漢文を読解する為に必要な知識の習得を目指す。また言語の系統を異にする日本語と中国語の、その隙間を埋めるべく完成された訓読という方法についての検討を行うことで、国語としての漢文の位置づけを明確にしていきたい。併せて資料の読解を通じて、悠久の歴史の中で行われた中国人の言語活動や文化的営為についての基礎的な知識を身につけていきたい。
授業スケジュール	前期は漢文学の基礎を学ぶ上で精読すべき資料を紹介・購読していく。また取り上げる漢文資料の内容に即して、適宜訓点や送り仮名の施し方、書き下し文の方法などを教授する。 後期は漢文理解の鍵となる助字の用法やその他の文法的諸問題について考察を行い、漢文の構造をより発展的に学べるようにしたい。
準備学習	授業の内容がより深く理解できるよう、漢文の構造や訓読の規則についての初歩的な知識に関しては、自分で必ず補っておくこと。その方法については、適宜各自に指導する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	期末試験と出席日数で評価する。
教科書/テキスト	教員が作成したプリント資料を用いる。
参考書	
その他	主に教員が講義する形式となるが、取り扱う資料や講義の内容について、各自予習復習しておくことが望ましい。

履修コード	012101
科目名	基礎国語学
担当者名	高田 智和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1. わたしたちが、話し、聞き、読み、書く日本語についての知識を深めます。 2. ことばを分析的にとらえ、観察する視点を養います。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 1 回－5 回 現代日本語の音声・音韻 6 回－10 回 音韻の変遷 11 回－15 回 日本語の文字体系 後期 1 6 回－20 回 漢字と仮名 21 回－25 回 語彙の分類 26 回－30 回 ことばと位相
----------	--

準備学習	授業時配布のプリントによって復習をすること。
------	------------------------

履修上の留意点	主に現代の日本語を扱いますが、歴史的な側面も取り上げます。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	試験を中心に、授業時間内に提出を求める課題を加えて総合的に判断します。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
----------	------------------------------

参考書	『国語学』（築島裕、東京大学出版会、1964） 『国語概説』（佐伯哲夫・山内洋一郎編、おうふう、1983） 『日本語史』（沖森卓也編、おうふう、1989） 『図解日本語』（沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本信吾、三省堂、2006）
-----	---

履修コード	012201
科目名	基礎国語学
担当者名	原 裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本語研究の対象・方法についての基本事項を学習する。従来の研究によって解明された日本語の実相についての基本的知識を学ぶとともに、言語研究の目的・問題設定・方法などについての知識を習得し、日本語に対する幅広い問題意識を身につけることを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	〔第1回〕日本語研究への導入 〔第2～11回〕音声と音韻（現代語） 〔第12～18回〕文字と表記 〔第19～25回〕日本語の音韻の歴史 〔第26～30回〕日本語の語彙と文体
----------	--

準備学習	使用するプリントを前もって配布する。予備学習として次週学習部分に目を通しておくことを勧める。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	筆記試験の点数などを総合的に判断する。
---------	---------------------

教科書／テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	授業において随時紹介する。
-----	---------------

履修コード	012501
科目名	基礎国文学I
担当者名	近衛 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学を読解するための基礎的な知識と研究方法を学びます。古典作品の読解を通じて、日本語の表現の奥深さや、時代により豊かに変化し広がっていく古典世界の面白さを理解し、古典研究に必要な基礎的な教養を身に付けます。
---------------------	---

授業スケジュール	代表的な古典作品を具体的に読解していきます。古典を理解するための基礎知識や学術用語、文学史的な流れについても解説します。また、くずし字も学びます。必要に応じて、映画鑑賞も行います。 （1）ガイダンス、（2～7）古典における基礎知識（暦法・文字の展開・写本と版本など） （8～13）作品の読解（和歌・連歌・俳諧）（14）理解度の確認テスト（15）前期のまとめ（16～23）作品の読解（和歌から物語へ）（24～28）作品の読解（文字を支える思想について）（29）理解度の確認テスト（30）1年間のまとめ
----------	---

準備学習	くずし字を読む練習を行ってください。
------	--------------------

履修上の留意点	欠席の多い場合は評価の対象としません。
---------	---------------------

成績評価の方法	学期末試験（50%）、平常点（30%）、小テスト（20%）を総合的に判断します。
---------	--

教科書／テキスト	『字典かな―出典明記―』（笠間書院、380円）
----------	-------------------------

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

履修コード	012301
科目名	基礎国文学I
担当者名	櫻井 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学を読解するための基礎的な知識を学び、古典文学を研究する方法を学ぶ。古典文学の読解を通して、日本語の表現の美しさ、おもしろさを知る。また、作品世界を深く読み込むことを通して、古典文学は、なぜ時代を超えて人々の心を捉えてきたのかを考える。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>(1) イントロダクション  (2)～(7) 古典文学の流れの概説  (8)～(13) 作品「本文」と「読解」の問題  (14) 前期テスト  (15) テスト返却</p> <p>後期</p> <p>(1)～(4) くずし字を読む  (5)～(10) 代表的な仮名作品を通して「読解」と「研究」の問題  (11)～(13) まとめ  (14) 後期テスト  (15) 二年生に向けて</p>
----------	--

準備学習	4月までに： 古典文学の流れの復習。 各授業時まで： 前回までの授業の内容の理解の確認。配布プリントの予習。
履修上の留意点	全授業数の三分の一以上欠席した場合は評価の対象としない。
成績評価の方法	出席状況、授業態度、小テスト、レポート、前後期末試験などによって総合的に評価を行う。
教科書／テキスト	その都度、プリントを配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。なお、くずし字を読むため、『字典かな―出典明記―改訂版』（笠間書院、380円）を用意すること。

履修コード	012401
科目名	基礎国文学I
担当者名	湯浅 幸代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学を取り巻く現在の状況を理解し、いま、古典を学ぶことにどのような意味があるのかについて考える。また、実際に古典文学を読解するための基礎的な知識と方法を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>現代に生きる古典のありように留意しながら、国風文化の掘え直し、あるいは古典という認識の成立に立ち返った上で、具体的に平安時代の文学を中心に読解の方法を示す。また、近年、古代史や美術史といった越境的な広がりを見せる研究分野についても触れ、あわせて研究の指針となるような術語についても解説する。</p> <p>(1) ガイダンス (2～7) 古典における基礎知識 (写本と版本、漢字と仮名、くずし字を読む、貴族の生活、など) (8～14) 作品の読解 (神話・和歌・物語) (15) 前期試験  (16～22) 作品の読解 (話型と準拠) (23～29) 作品の読解 (注釈史について) (30) 後期試験</p>
----------	--

準備学習	近世までの日本文学史を学習しておくこと。
履修上の留意点	遅刻・欠席が多い場合、評価の対象としない。
成績評価の方法	前期試験と後期試験、小テスト、出席状況などを総合して評価する。
教科書／テキスト	『字典かな―出典明記―改訂版』（笠間書院）380円、またプリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。

履修コード	012601
科目名	基礎国文学II
担当者名	岡田 豊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本近現代小説研究の基礎的な方法や概念を学ぶ。特に、様々な批評理論を武器にして適宜応用することにより、小説作品の読解が多様に変化することを示し、テキストの可能性を取出す。同時に、学んだ概念や方法をいかに活用してテキストを読みかえるか、実例を挙げて解説する。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス 感想ではなく研究へ (2) ~ (4) 虚構のテキストを読むということ・記号・作者・読者・テキスト (5) あらすじをまとめることからの離陸・ストーリーとプロット (6) ~ (16) 語りの構造を解明する視点を育む・語り手・視点と焦点化・一人称小説と三人称小説 (17) ~ (19) 引用・期待の地平 (20) ~ (24) フェミニズムとジェンダー・ホモソーシャル (25) ~ (27) メディア・文化記号 (28) ~ (30) まとめ
----------	--

準備学習	Yes studyに受講者登録を行うこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	配布プリントを使って読解を進める。小説の表現について考察する授業であるため、テキストを読んで授業に参加することをまずはお願いしておきたい。多義的な表現のみずみずしさを味わい、ときに難解で手に負えないような手ごわい面にも触れていきたいと思う。どのような視点から、どのような方法で論じていくのかも習得してほしい。
---------	--

成績評価の方法	前期と後期とそれぞれ一回ずつ筆記試験を実施する (50点×2回)。授業時間中に書かせるレポートも成績評価に反映させる。
---------	---

教科書/テキスト	配布プリント
----------	--------

参考書	真鋼正宏『小説の方法』萌書房、2400円税別、ISBN978-4-86065-028-5
-----	--

履修コード	012801
科目名	基礎国文学II
担当者名	勝原 晴希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 近現代の文学研究へのオリエンテーション(道案内)を行ない、具体的な作品(主として日本近現代の短編小説)を読むことを通して、作品へのアプローチ(読解)の方法を体験的に習得する。 (到達目標) 作品をただ読むことと、読みを深めることとの違いを理解し、さまざまなことに注意して考えながら読む姿勢を身につけることが目標である。
---------------------	---

授業スケジュール	近現代文学についての概略的な講義を行なった後、近現代の代表的な短篇小説・評論・詩歌について作品の分析・読解を進めて行く。なおそれぞれの作品について、授業時間内に簡単なレポートを課し、その内容をふまえながら講義を進める。スケジュールの概略は以下の通りだが、進行状況などによって変更する場合もある。 第1・2回: ガイダンス 第3~5回: テキストと記号 第6~14回: 短編小説を読む 第15回: 前期テスト 第16回: 前期内容の確認 第17~23回: 短編小説を読む 第24・25回: 評論を読む 第26・27回: 童話を読む 第28・29回: 詩歌を読む 第30回: 総まとめ
----------	--

準備学習	・それぞれの作品について、いくつかの質問を出し、それについての考察を書いてきてもらう。該当の作品について自ら読み、考え、書くことが必要である。 ・たくさん読むこと、たくさん書くことが、文学研究ばかりではなく人間形成の基礎力をつくる。ふだんから読書・思考・表現の習慣を心がけたい。
------	--

履修上の留意点	文学研究には基礎的な知識・技術の習得と主体的独創的な個別アプローチの両方が必要である。どちらか一方に偏らないよう、バランスを取りながら身につけていって欲しい。
---------	---

成績評価の方法	前期試験10%、後期試験80%、随時のレポート5%、平常点5%とする。なお出席回数の少ない学生は受験資格を失うことがあるので注意すること。
---------	---

教科書/テキスト	随時プリントを配布する。
----------	--------------

参考書	授業中に随時指示する。
-----	-------------

履修コード	012701
科目名	基礎国文学II
担当者名	高田 知波
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近代の小説作品の読みを通じて、大学における国文学研究の基礎について学習する。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2~10) 『坊っちゃん』講義 (11~19) 『伊豆の踊子』講義 (20~28) 『舞姫』講義 (29~30) まとめ。
準備学習	授業の前に必ずテキストを読んでくること。
履修上の留意点	小説の読みに、唯一絶対の《正解》というものは存在しない。作品解釈についての固定観念を根底から疑い、論拠に基づいた自分自身の《読み》を追求することが近代文学研究の基本なのだというのを、この授業を通して理解してほしいと思う。
成績評価の方法	原則として、年度末の筆記試験の結果によって評価を出す。欠席時数が多いと年度末試験の受験資格を失うことがある。
教科書/テキスト	夏目漱石『坊っちゃん』(新潮文庫) 森鷗外『阿部一族・舞姫』(新潮文庫) 川端康成『伊豆の踊子』(新潮文庫)
参考書	教場で指示する。

履修コード	014801
科目名	近世文学研究II
担当者名	川元 ひとみ
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代前期の上方を中心に書かれた浮世草子のうち、井原西鶴の『懐硯』を扱う。『懐硯』は貞享4年3月に刊行された雑話物で、諸国行脚の伴山(半俗半僧)による諸国物語形式がとられている。 西鶴といえは、「好色」シリーズのイメージが強いのであるが、本作品には心に深く染み入る佳作も多く、好色物とはまた違った、西鶴の魅力に触れることができるだろう。 おもに、作品の素材を中心に進めていくので、典拠素材がどのように物語に取り込まれていったのかを楽しみつつ、西鶴の作品づくりの方法を学んでほしい。
授業スケジュール	第1回 西鶴と西鶴の作品について 第2回 『懐硯』の概要 第3回~最後(各2回づつ) 1-1 「仁王門の綱」 1-4 「案内しつてむかしの寝所」 1-5 「人の花散瘡の山」 2-1 「後家に成ぞこなひ」 2-4 「鼓の色にまよふ人」 3-1 「水浴は涙川」 3-4 「枕は残るあけぼのの縁」 3-5 「誰かは住し荒屋敷」 4-1 「曇目を見する竹の世の中」 4-3 「文字すわる松江の鱸」 4-4 「人真似は猿の行水」 5-5 「御代のさかりは江戸櫻」
準備学習	難解な文章ではないので、事前に一通り読んできて欲しい。少なくとも、どのような内容の話なのかということまではやってくるのが望ましい。
履修上の留意点	1年間で各人1回、典拠資料の作成(1~2資料)を行ってもら。第3回の授業までに担当箇所を決定するが、授業当日に作成資料の提出ができないということがないように、前向きに作品に取り組んでほしい。
成績評価の方法	前期試験と後期レポートによって評価する。
教科書/テキスト	『校註懐硯』田崎治泰 昭43・4 笠間書院 800円
参考書	『対訳西鶴全集5』 麻生磯次・富士昭雄 昭50・8 明治書院

履修コード	014901
科目名	近代文学研究I
担当者名	榎本 正樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代日本文学作品(可能な限り最新作)の詳細な分析を通して、現代作家の方法論や作品固有の構造を明らかにします。さらに、作品の背後にある問題系、社会・文化・事象との相互接続性、ジャンルの可能性を探ることで、現代日本文学とその環境を可視化していきます。
---------------------	---

授業スケジュール	現代日本文学のフィールドで重要だと思われる作家と作品を網羅的に解説・分析し、作品に内在するテーマ、モチーフ、文体、語りの技法、社会接続性、周辺メディアとの連関などの要素を抽出します。扱う作品は主流系文学(純文学)が中心になりますが、その他のジャンルも対象となります。可能な限り最新作をとりあげていく予定です。シラバスに具体的な作家、作品を示すことはできません。授業で扱う作家・作品は、その都度アナウンスしていく形になります。ここ数年、出版の世界は大きく変わりつつあります。その最大のものが、電子書籍による出版、流通、読む環境の変化です。AmazonのKindleやAppleのiPadなどの読書端末が実現する、電子書籍にも言及する予定です。また、電子書籍環境によって生まれたセルフパブリッシュの可能性についても論じます。 そのほか、昨年(2011年)に映画公開された現代日本文学を原作とする映画の中から何作かを観賞し、原作と比較・対照しながら、映像表現と言語表現の違いについて考察する機会をつくりたいと考えています。 榎本は研究活動の一環として、作家へのインタビューや取材を積極的に行っています。授業では作家の生の情報や、文学界、出版界のトピックスなど、現代日本文学環境についての情報も紹介していきます。教室に編集者や作家をお呼びして、編集や創作にまつわるお話を伺う機会なども、可能であれば実現したいと思えます。
----------	--

準備学習	授業で扱う作品を読んでいなくても理解できる形で進めますが、事前に作品を読んでおくと、さらに理解が深まるでしょう。
------	--

履修上の留意点	現代日本文学のほか、映画や演劇のような周辺ジャンル、同時代のメディア全般に興味をもつ学生の履修を歓迎します。学生からの質問や問題提起にも積極的に応じます。
---------	---

成績評価の方法	学年末提出のレポートの評価をメインに、出席点を加味し評価します。レポートのテーマや内容、分量等については、第1回目の授業時に話します。
---------	---

教科書/テキスト	テキストは使用しません。必要な資料はプリントで配布します。
----------	-------------------------------

参考書	参考文献等は教室で適宜、指示します。
-----	--------------------

その他	講義形式をとります。履修に際しては、榎本のプロフィールや研究業績が掲載されているサイト( <a href="http://ermt.jp">http://ermt.jp</a> )も参考にしてください。
-----	---

関連リンク	<a href="http://twitter.com/ermt">http://twitter.com/ermt</a>
-------	---

履修コード	015001
科目名	近代文学研究II
担当者名	高田 知波

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	年間テーマは「夏目漱石を読む」。高校生に読まれている率の高い国民的名作『こころ』。100年前の東京の大学生の世界を描いた『三四郎』。友人の妻との恋愛を扱った『それから』。この三つの作品の読みを通じて漱石の作品世界を新しい視点から探訪していく。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)ガイダンス (2)『こころ』を読む(9回) (3)『三四郎』を読む(9回) (4)『それから』を読む(9回) (5)まとめ(2回)
----------	---

準備学習	この講義は、聴講者がテキストを一度読んできているということを前提にしている。一度も読まないまま出席した学生には内容理解が困難のはずである。
------	---

履修上の留意点	講義の途中で学生を指名して意見を聞いたり、自発発言を求めたりすることが多い授業である。私語は厳禁だが、発言は歓迎する。毎回レジュメを配布して講義するので、有効に活用してほしい。
---------	--

成績評価の方法	年度末試験(筆記試験)で成績評価する。ただし欠席の多い学生は受験資格を失うことがある。
---------	---

教科書/テキスト	夏目漱石『こころ』『三四郎』『それから』(いずれも新潮文庫)
----------	--------------------------------

参考書	教場で指示する。
-----	----------

履修コード	014001
科目名	国語学研究II
担当者名	木村 一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋人による文法研究資料と会話資料を中心に扱う。国語学の知識を活かし、諸現象について説明できることを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>ことばとは、ある時点での現在を反映すると共に、その前後と深いかかわりを持っている。西洋人による日本語研究が盛んに行われた室町から江戸初期と、江戸末期から明治初期にかけてあらわされた文法研究資料と会話書を中心資料として、広く日本語について考察したい。</p> <p>前期は、西洋人による文法研究資料と会話書の概説(第1-3回)、キリシタンによる文法研究(第4-9回)、キリシタンによるその他の資料群(第10-13回)、前期の総括(第14-15回)をあつかう。</p> <p>後期は、西洋人による江戸・明治期の文法研究資料(第16-21回)、西洋人による江戸・明治期の会話書(第22-27回)、西洋人による江戸・明治期のその他の資料群(第28-29回)、一年の総括(第30回)をあつかう。</p>
----------	---

準備学習	授業時に配布する資料について、読み込んでおくこと。
------	---------------------------

履修上の留意点	主として講義形式で進めるが、併せて、文献を利用した基礎作業や、課題の報告などを行う。
---------	--

成績評価の方法	授業への参加姿勢、出席状況、試験・レポートなどを総合して評価する。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
----------	--------------

参考書	<p>森岡健二著 『改訂 近代語の成立 語彙編』 明治書院</p> <p>沖森卓也他編 『日本辞書辞典』 おうふう</p> <p>忽郷正明著 『日本語開化物語』 (朝日新書360) 朝日新聞社</p> <p>丸山真男・加藤周一著 『翻訳と日本の近代』 (岩波新書 新赤版580) 岩波書店</p> <p>高島俊男著 『漢字と日本人』 (文春新書198) 文芸春秋</p> <p>その他、授業を通じ必要に応じて紹介する。</p>
-----	---

履修コード	013801
科目名	国語学史
担当者名	木村 一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	言語研究の歴史について考える。いつ・どこで・誰が・どのような研究を行ってきたのかを国語学の視点から理解し、説明できるようになることを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>国語についての研究は、古代から様々な観点でなされてきている。その流れを大きくテーマによって区分し(古語への意識、音韻の研究、文法の研究、語彙の研究、キリシタンの日本語研究など)、概観したい。また、国語学史上、欠かすことのできない資料の読解もあわせて行う。</p> <p>前期は、日本語学の時代区分(第1回)、国語学史の意義(第2-3回)、古語の意識(第4-6回)、音韻の研究(第7-9回)、仮名遣いの研究(第10-12回)、文法研究(第13-15回)をあつかう。</p> <p>後期は、方言の研究(第16-18回)、アクセントの研究(第19-21回)、語彙の研究(第22-24回)、キリシタンの日本語研究(第25-27回)、西洋人の日本語研究(第28-30回)をあつかう。</p>
----------	---

準備学習	教科書の該当箇所を事前に通読しておくこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	テキストの分類に沿って講義形式で授業を進めるが、プリントなどによる資料を配布して、受講者による調査・作業も行う予定である。積極的な取り組みを希望する。
---------	---

成績評価の方法	授業への参加姿勢、出席状況、試験・レポートなどを総合して評価する。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	『国語学史』(第3版) 馬淵和夫・出雲朝子 笠間書院 ￥1,890
----------	-----------------------------------

参考書	<p>『国語学史資料集』 国語学会編 武蔵野書院</p> <p>『国語史資料集』 国語学会編 武蔵野書院</p> <p>『資料日本語史』 沖森卓也編 おうふう</p> <p>『古典日本語の世界』 東京大学教養部国文・漢文学部会 東京大学出版会</p> <p>その他、授業を通じ必要に応じて紹介する。</p>
-----	---

履修コード	015101
科目名	国語学特講I
担当者名	山本 真吾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 院政鎌倉時代の文体研究。国語史研究の谷間と言われる当代の言語に注目し、歌謡・和歌、物語、説話、随筆、軍記の諸文体について、多角的に考察する。 (到達目標) 本講義の到達目標については、以下の5点を設定する。 1、国語の歴史的研究の意義について理解する。 2、鎌倉時代語の特徴を研究分野(文字・表記、音韻、文法、語彙、文体)ごとに把握する。 3、鎌倉時代語研究の資料となる文献の性格を理解する。 4、鎌倉時代語研究の方法について理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	【前期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、院政鎌倉時代語の研究水準と問題点(1、2回) 2、文献資料の多様性(3回) 3、歌謡・和歌の表現と文体、筆記試験(1)(4~8回) 4、院政期仮名物語の文体、筆記試験(2)(9~14回) 5、前期の総括(15回) 【後期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、説話文学の表現(1、2回) 2、今昔物語集の表現と文体、筆記試験(3)(3~5回) 3、方丈記と徒然草の文体(6~11回) 4、平家物語の文体、筆記試験(4)(12~14回) 5、後期の総括(15回)
----------	--

準備学習	・1年次以降の国語学関係の授業内容を踏まえて、講義を構成しています。授業内容をよく復習しておくこと。 ・前回に使用したプリントをよく読んで授業に臨むこと。 ・授業中に紹介した参考文献をよく読んで授業に臨むこと。
------	---

履修上の留意点	図書館等に所蔵の関連文献を大いに活用してほしい。
---------	--------------------------

成績評価の方法	前期、後期それぞれ各単元の終わりに筆記試験を行う(授業スケジュール参照)。合計4回行い、それぞれ25%の配分として評価を行う。これを総合して6割を単位認定の最低基準とす
---------	--

教科書/テキスト	用いない。適宜プリントを配布する。(無断欠席の場合、後日プリントを希望しても応じられないので留意されたい)
----------	---

参考書	講義の中で随時紹介する。
-----	--------------

履修コード	015201
科目名	国語学特講II
担当者名	高田 智和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1. コンピュータを利用した日本語研究の方法と考え方を習得します。 2. 利用可能な電子化テキストとその利用法について理解します。 3. 電子化テキストを用いた日本語研究の現状と課題を解説します。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 1回-3回 ことばの計量的研究 4回-7回 文字コードと漢字処理 8回-15回 正規表現とテキスト処理 後期 16回-19回 文字量を測る 20回-28回 語彙量を測る 29回-30回 統計処理
----------	---

準備学習	授業時配布のプリントによって復習をすること。
------	------------------------

履修上の留意点	授業では総合学術センターのパソコンを使用します。授業は講義のほか、パソコンを使用した実習を行うので、理由のない欠席はしないでください。
---------	---

成績評価の方法	レポート、実習時(授業時間内)の課題提出、平常点によって総合的に判断します。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
----------	------------------------------

参考書	『計量言語学入門』(伊藤雅光、大修館書店、2002) 『パソコンを使う日本語研究』(『日本語学』14巻7月臨時増刊号、明治書院) 『新聞電子メディアの漢字-朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表-』(横山昭一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング、三省堂、1998)
-----	---

履修コード	018901
科目名	国語国文学演習I
担当者名	岡田 豊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本近代文学の研究と発表についての基礎的な方法を学ぶ。(基礎演習)の授業であるから、テキストを論理的に分析し、新たな読解を切り拓くことを実践するわけであるが、他人に研究報告するというプレゼンテーション能力の開発も重視する。ひとり楽しく自由気ままに読むのではなく、読んだことを他人に伝え、刺激するために深く時間をかけて読むことを実践する。先行研究の調べかたやレジュメの作りかたなど、基礎的な事項から解説する。
---------------------	---

授業スケジュール	一つの作品につき二回の授業をあて、発表はすべて学生が行う。基礎演習にあたるので、研究方法、発表技術の習得に重点をおく。夏期課題レポートの作成によって、記述する力を養う。
----------	--

2011年度 研究対象作品 (今年度と必ずしも同じとは限らない)

田山花袋『少女病』  
 国木田独歩『窮死』  
 谷崎潤一郎『秘密』  
 芥川龍之介『舞踏会』  
 堀辰雄『水族館』  
 江戸川乱歩『目羅博士』  
 三島由紀夫『橋づくし』  
 大江健三郎『人間の羊』

準備学習	Yes studyに受講者登録を行うこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	発表を担当する回は絶対に欠席しないこと。場違いな発言や稚拙と思われるような質問も、基礎演習だから恥じることなく思い切って発言してほしい。 〈こういうことはやめよう〉人の話を聞いていない、遅刻ばかりする、他人の意見を繰り返してあたかも自分の意見であるかのような態度をとる、ここがいいとかおもしろいとか感想ばかり口にする、登場人物AとBができてい・すいているなどと俗っぽい世間話を意見だと勘違いしている、やたら反対はするが自分の意見を出したためしがない
---------	---

成績評価の方法	原則として発表が100%だが、発表回数にかたよりが出た場合はレポート提出なども考慮する。また、単位認定には七割以上の出席を条件とする。 夏期課題レポートを課している。ある条件に満たしていない場合には、クリアするまで何度も書き直しをしてもらっている。
---------	---

教科書/テキスト	東郷克美・吉田司雄編『近代文学【都市】を読む』双文社出版、2000円、ISBN4-88164-072-0
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	019101
科目名	国語国文学演習I
担当者名	勝原 晴希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 履修者個々人が自ら選んだ詩歌作品について、調査・考察を報告し、履修者全員で質疑応答を行う。 (到達目標) 近現代の詩歌について学ぶとともに、毎回の研究報告と討論を通して、詩作品についての理解を養い、調査する力、考察し発表する力、質疑応答する力を養う。
---------------------	---

授業スケジュール	近現代(明治～平成)の詩歌を読む。対象とする詩人・歌人・俳人は履修者個々人の希望によるが、場合によっては振りあてることもある。担当者の報告と履修者全員による討論によって進めていく。履修者の発表スケジュールは四月に決定する。 これまでに演習I履修者が採りあげた詩人の例を、以下にあげておく。 北原白秋・高村光太郎・三好達治・中原中也・室生犀星・萩原朔太郎・宮澤賢治・立原道造・草野心平・小熊秀雄・石原吉郎・寺山修司・茨木のり子・石垣りん・金子みすゞ・吉原幸子・谷川俊太郎
----------	--

準備学習	担当者の発表資料(レジュメ)は、発表の一週間前に提出されるので、他の履修者もあらかじめ熟読し、質問事項や自分の考えを用意しておくこと。
------	---

履修上の留意点	演習は個人プレーではなく、全員による共同作業である。発表者、司会者、そして参加者それぞれが、自分の意見を述べ、人の意見に耳を傾け、ひとつの作品について全員で読みを深めるという自覚をもって臨んでもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	発表報告の内容60%、平常点20%、レポート20%とする。なお欠席回数に制限があるので、注意すること。
---------	---

教科書/テキスト	プリント配布。
----------	---------

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	018701
科目名	国語国文学演習I
担当者名	近衛 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	江戸時代の作品には、それ以前に成立した物語、和歌、謡曲、中国白話小説等、数多くの典拠が用いられており、その作品世界に奥行きを与えています。前期は和歌注釈書をテキストとし、最も基礎的な調査方法を身に付けることを到達目標とします。後期は和文を取り上げ、単にストーリーを追うだけでなく、幅広い古典知識を踏まえて読解し、的確な作品の現代語訳をすることを到達目標とします。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は契沖の『百人一首改観抄』を一人一首ずつ担当し、語彙についての基本的な注釈の仕方を学びます。後期は上田秋成の和文和歌集『藤簍冊子(つづらぶみ)』を読みます。語彙・事項を調査するのはもちろんのこと、典拠を一つ一つ確認・分析し、それを踏まえて文章の内容を正確に読解します。その上で、近世に新しく誕生した「和文」の概念について追求します。江戸時代の生活を知るために、古民家見学も予定しています。 (1~2) ガイダンス・発表担当部分の決定、(3~30) 口頭発表
----------	---

準備学習	自分の担当部分はあらかじめ、相当の時間を割いて調査・研究を進めること。資料の作成にも時間がかかるので、余裕をもって取り組むことが重要です。
------	---

履修上の留意点	近世文学を理解するには、幅広い教養が必要です。作品の表面的な意味を辿るだけでなく、その背後にある文化的背景や作家の事情、当時の制度・習慣、利用されている先行作品など、自分で積極的に問題点を設定して調査し、江戸時代への理解を深めて下さい。なお、欠席の多い場合は評価の対象としません。
---------	--

成績評価の方法	口頭発表(60%)、質疑応答への参加の態度(30%)、レポート(10%)によって総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配付します。
----------	-------------

参考書	授業中に指示します。
-----	------------

履修コード	018501
科目名	国語国文学演習I
担当者名	櫻井 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	古典文学の調査・研究の方法の基礎を学びつつ、中世文学を代表する軍記物語に親しむ。
---------------------	--

授業スケジュール	『平家物語』巻八を読む。原則として一回の発表で、一人一章段を探り上げる。章段を選び、自分でテーマを設定して調査し、報告する。必要に応じ、諸本の比較、周辺作品との比較を行う。発表後の討議の中で自分の問題意識を掘り下げる。後日、レポートにまとめて提出する。 1~3 『平家物語』と巻八の説明 4 担当章段の決定 5~ 発表と討議
----------	---

準備学習	4月までに：『平家物語』の内容をおおよそ把握しておく。 演習発表者：担当部分の朗読の練習・発表内容の調査・資料作りなど。 発表者以外：前週に配布されたプリントを読んで、質問事項を複数考えておく。
------	---

履修上の留意点	学生自身が、些細であっても自分なりの問題点や関心を持つこと。また、自身の発表時以外には積極的に質疑・討論に参加すること。
---------	--

成績評価の方法	口頭発表、レポート、出席、授業態度、質疑への参加の様子を踏まえて総合的に判断する。
---------	---

教科書/テキスト	『平家物語』三(岩波文庫)
----------	---------------

参考書	授業中に適宜指示する。
-----	-------------

履修コード	019001
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	高田 知波

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	年間テーマは「太宰治を読む」。太宰治は青年層の間で人気の高い作家であるが、「太宰治」という神話が作品の読みを著しく束縛してきたことも確かである。作中人物の言葉をただちに「太宰」の肉声だと決め込んでしまうようなバイアス(先入観、偏見)からいかにして作品を解き放ち、自由で豊かな《読み》を生産していくか。学生相互による壮大な共同作業を追求する演習を目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス・履修者確定 (2) 導入授業・発表分担決定 (3) 『魚服記』の発表と質疑 (4) 『魚服記』のディスカッション 以下、1作品2週間のペース(1週目は発表と質疑、2週目はディスカッション)で、『人間失格』までの演習を進めていく。
----------	--

準備学習	-
------	---

履修上の留意点	毎時間テキストを読んで出席することは最低限のルールである。そして「演習の主役は学生である」という原則に則って、活発な発言を行うという姿勢で演習に臨んでほしい。
---------	---

成績評価の方法	平常点と、期末のリポートの採点結果とを総合的に評価する。
---------	------------------------------

教科書／テキスト	『晩年』、『走れメロス』、『お伽草紙』、『斜陽』、『ヴィヨンの妻』、『人間失格』(いずれも新潮文庫)
----------	--

参考書	教場で指示する。
-----	----------

履修コード	018601
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	田中 徳定

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 古典文学を読解・調査していくための基本的な文献を学び、辞典類、歴史史料、研究書等を駆使しながら、実際に古典文学作品を読解する方法を身につけることを目的とする。 (到達目標) この演習の到達目標は、古典文学作品を実際に読解することを通して、3年次の演習、さらには卒業論文作成のための基礎的な研究方法を習得することである。
---------------------	---

授業スケジュール	『徒然草』をとりあげ、語彙調査の方法や歴史史料の扱い方を学ぶ。また、関連する物語・説話にも広く眼を向けて、中世の人々の思想や信仰、及び平安時代以来の貴族文化の美意識について探究する。
----------	---

準備学習	授業において発表者が発表する章段を事前によく読んでおくこと。
------	--------------------------------

履修上の留意点	演習科目であるので、基本的に欠席をしないこと。また、他の演習生の発表に対して質問するなど、積極的に授業に参加すること。
---------	---

成績評価の方法	平常点(授業時間内に行なう口頭発表・発言等)60%、レポート40%。
---------	------------------------------------

教科書／テキスト	鈴木知太郎・西一祥編『新注 徒然草』(おうふう)1,800円
----------	--------------------------------

参考書	授業中に随時指示する。
-----	-------------

その他	受講生に発表する章段を割り当てる。受講生は、発表担当章段について、調査、考察を行ない、その結果をレジュメにまとめ、授業中に口頭発表を行なう。
-----	--

履修コード	018001
科目名	国語国文学演習I
担当者名	土井 光祐

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>○現代語に至る日本語の歴史を文献資料で具体的に跡づける中で、日本語の変遷の実態を確認し、言葉の「調べ方」の基本を学ぶ。</p> <p>○室町時代末期(1500年代末)を基準点として、個々の表現を視点に文語規範の基盤である古代語(1000年頃)から現代語(2012年)までの国語史を往復し、現代日本語の形成過程を考察する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1593年刊行の「天草版金句集」を国語史の観点から分析する。</p> <p>天草版金句集は、天草版平家物語、同伊曾保物語と合綴されて、ロンドン・大英図書館に所蔵されているローマ字本口語体キリタン資料の一種で、最古の日本語学習用教材である。</p> <p>16世紀半ばに渡来したイエズス会の宣教師達は、当時の日本の格言を学んでキリスト教の布教に利用しようとした。漢籍等に出典を持つ文語体の格言に、16世紀末の「口語訳」を付したもので、室町時代末期の口語資料として知られている。室町時代における文語体と口語体とを、音韻、文法、語彙、文体等の諸点から言語比較して、現代語の形成過程を具体的に観察する。</p> <p>【第1回～第3回】教員より資料の概説と調査方法の説明。 【第4回～】順番にレポーターを決めて、レジュメを作成し、発表する。</p>
----------	---

準備学習	「基礎国語学」で学んだ知識を使うことが多いので、使用したテキストを読み返しておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	発表内容、質疑への参加態度、レポート内容の総合。
教科書/テキスト	プリントを配布。
参考書	授業中に紹介。
その他	eラーニングシステムYeStudyを適宜利用する。

履修コード	018101
科目名	国語国文学演習I
担当者名	中嶋 真也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>日本現存最古の歌集『万葉集』を読むことを通じ、古代日本人の感性や知性を感じ、そのことを目標とします。また、古典文学研究の実際を体得し、自身の理解したことを他の人に正確に伝えるための発表技術(資料作成ならびに口頭発表)を習得することも目標とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>『万葉集』は日本語を漢字で書く時代に生まれました。「日本人のふるさと」のような捉え方で今なお賞讃されています。表記体系も異なる中、どういったところが、どのように我々の琴線に触れるのか。一首一首を丹念に読み、それを体感していきます。</p> <p>『万葉集』は4500首以上の膨大な歌数を取っていますが、演習Iでは、読んだことがある歌、どこかで見たことがある歌、親しみやすい歌を取り上げます。</p> <p>具体的には、現在刊行されている、『万葉集』の解説本や抄出したものをもとに、多くの本で取り上げられている歌々、つまり『万葉集』の代表歌と称される歌々から受講者は希望の歌を選んで、調査・発表してもらいます。</p> <p>授業スケジュール予定は以下の通りです。 第1回 ガイダンス、第2～5回 『万葉集』概説、調査方法解説、担当決定、第6～14回 発表、第15回 前期まとめ 第16～29回 発表、第30回 後期まとめ</p>
----------	---

準備学習	多くの予備知識を要求することはありません。他の人の発表も重要な学びの場であり、授業そのものへ貪欲に取り組み、復習を重視してください。
履修上の留意点	現代にも生きる五七五七七の形式が生み出す世界をまずは楽しんでください。演習は学生主体ですから、遅刻・欠席は極力慎むこと。
成績評価の方法	発表内容と討議への参加(80%)、提出物(20%)。
教科書/テキスト	井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』(和泉書院 2008)
参考書	必要に応じて、授業中に指示します。

履修コード	018301
科目名	国語国文学演習I
担当者名	松井 健児

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 平安時代物語の研究を自立的に展開できる基礎的な方法および意識を養う。具体的には、『源氏物語』を対象とし、その物語内容を理解するのみではなく、その内容を導き出す、古代物語の方法や構造をとらえることに主眼を置く。 (到達目標) 『源氏物語』 「初音」「胡蝶」以降の巻を直接の対象として、巻の前後へと派生し展開していく諸問題を、受講者による研究報告形式によって考察する。本文を読み込み、同時に、さまざまな注釈の読解や語彙調査を行うことによって、たんなる感情移入や印象批評に止まることなく、『源氏物語』の全体像を視野に入れたうえでの分析的な研究を展開できる技術を習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	第1～2回 『源氏物語』概説・参考文献紹介 第3～4回 基礎演習・発展演習の方法 第5～6回 『源氏物語』基礎的研究 第7～8回 当該巻全体報告 第9～10回 担当範囲分担報告 第11～18回 演習発表 第19～20回 レポート説明 第21～28回 演習発表 第29～30回 レポート発表
----------	--

準備学習	・演習発表者は、担当範囲の基礎資料・発展資料を作成し、定められた期日に提出し、配布する。 ・基礎資料は諸注釈一覧、発展資料は語彙調査を中心として、定められた様式に従って作成する。 ・司会担当者・代表質問担当者は、事前に配布された基礎資料を熟読して、意見・感想・質問を準備する。 ・出来る限り『源氏物語』の全体を読み込んだうえで、梗概を知り、登場人物についての理解を深めたうえで、毎回の演習に臨んでもらいたい。
------	---

履修上の留意点	演習科目は学生相互の協力によって成り立つ。おのおのの発表にさいして提供しあう情報量と質が、この科目の成否を決定することに留意してほしい。
---------	--

成績評価の方法	演習発表資料の内容30%、口頭発表の内容20%、レポート30%、平常点20%とする。
---------	--

教科書/テキスト	石田穰二・清水好子校注、新潮日本古典集成『源氏物語 四』新潮社、価格3,360円、ISBN 978-4106203237
----------	--

参考書	参考書は多数になるので授業時に紹介する。
-----	----------------------

履修コード	018401
科目名	国語国文学演習I
担当者名	湯浅 幸代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	平安時代の宮廷社会を生きる人々の生活・文化を理解した上で、本文のことは、表現に注目し、当時の日記における文学性について考える。具体的には、『紫式部日記』をとり上げるが、『源氏物語』作者の日記としても留意し、物語との往還的な考察の力を養う。
---------------------	---

授業スケジュール	『紫式部日記』を冒頭より読む。受講者に本文を割り振り、毎回発表してもらう。発表者は、本文全体を読み込むと同時に、語句について調べ、資料を作成し、その段における考察を述べる。この演習発表をもとに、互いに意見を出し合う形で講義を進める。 (1～2) 『紫式部日記』概説・参考文献紹介、(3～4) 演習基礎訓練、(5～14) 演習発表、(15) 総括、(16～25) 演習発表、(26) 総括、(27～28) レポート説明・参考文献紹介、(29～30) レポート討論 *上記の間に関連する展示があれば学外に行く予定。
----------	---

準備学習	山本淳子『源氏物語の時代- 一条天皇と后たちのものがたり』(朝日選書 820)を読んでおくのが望ましい。
------	--

履修上の留意点	演習は発表と意見交換が基本となるため、各自の主體的な姿勢が求められる。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	(1) 発表内容 (2) レポート (3) 出席 (4) 討論時における意見を総合して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	小谷野純一 訳・注『紫式部日記』(笠間文庫) 1700円(税別)
----------	----------------------------------

参考書	参考書は授業時に紹介する。
-----	---------------

履修コード	020201
科目名	国語国文学演習II
担当者名	岡田 豊

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テキスト読解を愚直に実践する。関連資料を調べ、分析を行い、レジュメ（発表概要）をまとめ、発表（プレゼンテーション）を行い、議論を行うプロセスを通して、研究的視座に立って文学テキストにアプローチする方法をさらに深く学ぶ。同時に、テキスト間の関連や、同時代の状況との関連性を探る広い視野からの考察を実践する。その分、基礎演習より難易度が上がる。</p> <p>また、卒業論文の作成に向けた準備的意味合いを持った授業と考えたい。日本近現代文学を研究対象とした卒業論文作成に不可欠な専門的ツールの習得とその実践的な運用の仕方も指導するので、できれば、そのような具体的な目標を持った人の受講が望ましい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>昭和30年代以降の小説を研究対象とする。</p> <p>履修者が確定する第1回目の授業時に、発表方法、発表回数、担当チーム、年間スケジュール等を決める。基本的には、数人の発表者が自分たちが決めた作品について発表を行い、全員でその作品についてディスカッションを重ねる。夏期課題によって、記述する力を鍛える。夏期課題は2題あり、演習Iよりも増える。これ以外に年度末にレポートや、卒論準備課題の提出を義務づけている。</p>
----------	--

【参考】2011年度研究作品（今年度扱うとは限らない）

三島由紀夫『音楽』  
 村上龍『限りなく透明に近いブルー』  
 山田詠美『風葬の教室』  
 村上春樹『眠り』  
 小川洋子『妊娠カレンダー』  
 多和田葉子『ベルソナ』  
 桐野夏生『月下の楽園』  
 梨木香歩『西の魔女が死んだ』  
 川上弘美『消える』  
 山本文緒『恋愛中毒』  
 石田衣良『うつくしい子ども』

準備学習	Yes studyに受講者登録を行うこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	<p>受講生は演習という授業形式を自覚し、主体的に発表を行い、積極的にディスカッションに参加するよう努めてほしい。報告担当者以外からの新たな問題提起や、見落とされた問題点の指摘を活発に行ってほしい。発言する人が毎回同じ人とか、教員のコメントを待ちわびるというような受け身の態度はいっさい認めていないので、参加した以上は精一杯頑張ってもらいたい。また、学生自身の作業を重視しているので、提出物が多いのもこの授業の特徴である。課題提出ができない人は、受講を控えてほしい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>発表内容と出席点をメインに、授業への参加度（ディスカッションでの発言等）を加味し評価する。発表（プレゼン）と討論に力を入れるとともに、夏期課題レポートや年度末レポート、卒論準備課題によって記述する力を鍛える。夏期課題ではある条件に満たしていない場合には、クリアするまで何度も書き直しをしてもらっている。</p>
---------	--

教科書／テキスト	授業時に指示する。基本的には文庫本がテキストになる。
----------	----------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	020401
科目名	国語国文学演習II
担当者名	勝原 晴希
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 履修者個々人が自ら選んだ詩人・歌人について、なんらかのテーマを設定して調査・考察した内容を報告し、履修者全員で質疑応答を行う。 (到達目標) 近現代の詩歌について学ぶとともに、毎回の研究報告と討論を通して、詩人・歌人についての理解を深め、調査する力、考察し発表する力、質疑応答する力を深める。
授業スケジュール	近現代(明治～平成)の詩歌を読む。対象とする詩人・歌人・俳人は参加者の希望によるが、担当者の報告と参加者全員による討論によって進めていく。各人の発表スケジュールは、四月に決定する。 これまでに演習II履修者が採りあげた詩人の例を、以下にあげておく。 谷川俊太郎・三好達治・新川和江・宮澤賢治・萩原朔太郎・高村光太郎・金子みすゞ・小野十三郎・若山牧水・中原中也・中野重治・寺山修司・立原道造・西脇順三郎・野口雨情・西條八十・大木惇夫・石垣りん・山村暮鳥・まどみちお・工藤直子・鮎川信夫・田村隆一・清水哲男・荒川洋治・伊藤比呂美
準備学習	担当者の発表資料(レジュメ)は、発表の一週間前に提出されるので、他の履修者もあらかじめ熟読し、質問事項や自分の考えを用意しておくこと。
履修上の留意点	演習は個人プレーではなく、全員による共同作業である。発表者、司会者、そして参加者それぞれが、自分の意見を述べ、人の意見に耳を傾け、ひとつの作品について全員で読みを深めるという自覚をもって臨んでもらいたい。
成績評価の方法	発表報告の内容60%、平常点20%、レポート20%とする。なお欠席回数に制限があるので、注意すること。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	020551
科目名	国語国文学演習II
担当者名	川島 淳史
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近代文学の調査・研究発表・討議を通して、さまざまな作品にふれ、併せて研究の方法と鑑賞の仕方をも身につける。
授業スケジュール	明治・大正・昭和初期の小説を読む。対象とする作家・作品は参加者の希望に添うように配慮するが、演習で扱うのに適しないと判断した場合には、こちらで作品を指定する場合がある。以下、現時点で予定している作家を列挙しておく。 森鷗外・泉鏡花・国木田独步・夏目漱石・永井荷風・谷崎潤一郎・佐藤春夫・志賀直哉・芥川龍之介・宮沢賢治・横光利一・川端康成・太宰治
準備学習	4月からすぐに研究発表をしてもらうことになるので、参加予定者は予め準備万端ととのえておくこと。前年度に引き続き川島の演習を履修する予定の学生は、すでに研究対象として希望した作品のレジュメ・発表原稿を作成しておいてもらいたい。
履修上の留意点	発表を担当する日は休まないこと。前の回までにレジュメを用意し、配布しておくこと。参加者は、必ず作品を読んでおき、テキストと配布されていたレジュメを持参すること。ディスカッションではマナーを守って、積極的に発言することを望む。
成績評価の方法	発表の内容、出席状況、討論での発言、追跡調査・レポートなど総合的に評価する。出席していても、作品を読んでこなかったり、私語・居眠りをしている者は単位を認定しない場合がある。
教科書/テキスト	4月に演習希望の作品を確認し、扱う作品を決定する。文庫本で入手できるものは各自購入しておいてもらう。入手困難なものは、こちらでプリントを配布する。
参考書	適宜、授業時に指示する。



























































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































